

平成 25 年度

年次報告書

(ダイジェスト版)

神戸常盤大学

神戸常盤大学短期大学部

刊行の辞

安倍政権は発足以来熱心に教育改革、特に大学教育の改革に取り組み、種々の刷新を求めてきましたが、昨今は集团的自衛権やアジア安保などの問題に忙しいのか、教育への言及は減ったように見受けられます。しかし「人づくりは国づくり」であることに変わりはなく、急速に高齢化するこの国の福祉社会を維持するための人材、特に次代の産業開発と国際競争力を支える高学歴人材の育成は益々重要になってきたといえます。

本学は、その前身（神戸常盤短期大学）の時代から「学問と教育を実践的に結びつける」という建学の精神の下、時代と地域の要請に応える実学教育を展開してきました。そして6年前、短期大学を改組して4年制の保健科学部（医療検査と看護の2学科）と3年制（口腔保健学科）および2年制（幼児教育学科と看護学科通信制課程）の短期大学部から成る神戸常盤大学として再出発しました。さらに一昨年、幼児教育学科を改組して4年制の教育学部こども教育学科を発足させました。いずれも短期大学40年の経験と実績に支えられ、順調な歩みを進めているように思われます。

本学では、平成4年に自己点検・評価委員会を設置して以来、教育活動を中心に毎年自己点検・評価を行ってきました。平成12年度からはこの点検結果を「自己点検・評価報告書」にまとめて刊行するとともに、平成18年度からは「学生による授業評価」を加え、さらに学内の各組織・委員会・センター・事務局と個人の活動の報告を合わせて「年次報告書」を刊行してきました。平成21年度からは、前年の点検・評価で明らかになった課題や問題点に対する対応の評価を加えました。

今年の報告書は、完成年度に向けて進行中の教育学部こども教育学科といくつかの委員会の追加以外、基本的に従来構成を踏襲していますが、内容は昨年一新したフォーマットによって一段と見やすく充実したものになったと考えています。また、教育効果の検証として、昨年同様卒業生・就職先へのアンケート調査とその分析結果（第4部）、さらに昨秋受審した短期大学部の外部評価（第三者評価）の結果（第5部）を添付しました。

「年次報告書」は各人、各組織が一年間の活動成果を取りまとめ、自己評価して、次の改善に役立てることに意義がありますが、自己の成果を評価することは本質的に難しいことです。安易な目標設定が安直な評価につながる一方で、目指す目標に上限がないからです。適切な目標設定と公正な達成度評価、さらに未達成課題の綿密な分析が必要です。

本学は現在なお大きな変革の途上にあります。この「年次報告書」が学内外から批判と評価を得て、さらなる飛躍のためのインセンティブの種となることを期待します。

関係各位には是非一度本書に目を通し、忌憚のないご批評をお寄せいただくようお願い申し上げます。

平成26年6月

神戸常盤大学
神戸常盤大学短期大学部
学長 上田 國寛

目次

	頁数
刊行の辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
 第1部 各組織年間活動報告書	
I. 学科別 年間活動報告書	
1. 保健科学部 医療検査学科・・・・・・・・	4
2. 保健科学部 看護学科・・・・・・・・	7
3. 教育学部 こども教育学科・・・・・・・・	11
4. 短期大学部 口腔保健学科・・・・・・・・	14
5. 短期大学部 看護学科通信制課程・・	17
 II. 学内組織別 年間活動報告書	
1. 入試広報委員会・・・・・・・・	20
2. 教務委員会・・・・・・・・	23
3. 学生委員会・・・・・・・・	25
4. 自己点検・評価委員会・・・・・・・・	27
5. FD委員会・・・・・・・・	29
6. カリキュラム等検証委員会・・・・・・・・	31
7. 図書・紀要委員会・・・・・・・・	33
8. 広報誌編集委員会・・・・・・・・	34
9. 倫理委員会・・・・・・・・	36
10. 研究倫理委員会・・・・・・・・	37
11. 個人情報保護委員会・・・・・・・・	38
12. ハラスメント防止対策委員会・・・・・・・・	39
13. 危機管理（災害）委員会・・・・・・・・	40
14. ICT推進委員会・・・・・・・・	42
15. 高大連携委員会・・・・・・・・	44
16. 就職委員会・・・・・・・・	46
17. 国家試験対策委員会・・・・・・・・	57
18. 臨地実習委員会・・・・・・・・	62
19. 通信教育委員会・・・・・・・・	69
20. 遺伝子組換え実験安全委員会・・・・・・・・	71
21. 国際交流センター・・・・・・・・	72
22. 地域交流センター・・・・・・・・	74
23. 神戸常盤ボランティアセンター・・・・・・・・	76
24. ライフサイエンス研究センター・・・・・・・・	78
25. 口腔保健研究センター・・・・・・・・	81

26. KTU 大学教育研究開発センター	83
27. 健康保健センター	85
28. 神戸常盤大学子育て支援センター・「子育て広場えん」	88
29. 教職支援センター	90
30. 事務局	91

第2部 本年度の「学生による授業評価」

I. 調査の概要	93
II. 「学生による授業評価」学科別報告書	
1. 保健科学部 医療検査学科	98
2. 保健科学部 看護学科	104
3. 教育学部 こども教育学科	108
4. 短期大学部 口腔保健学科	113
5. 短期大学部 看護学科通信制課程	118

第3部 自己点検・評価委員会 年間活動方針報告

122

第4部 「卒業生へのアンケート調査結果」報告書

131

1. 保健科学部 医療検査学科	132
2. 保健科学部 看護学科	140
3. 短期大学部 口腔保健学科	148
4. 短期大学部 看護学科通信制課程	155

第5部 短期大学部の第三者評価結果について

160

第1部 各組織年間活動報告書

I. 学科別 年間活動報告書

1. 保健科学部 医療検査学科 (M科) 年間活動報告書

学科長 松田 正文

基礎データ							
	入学者数	在籍者数	退学者数	休学者数	留年者数	転学科者数	卒業者数
1年	93	93	0	0	0	0	
2年	100	95	3	0	0	0	
3年	94	90	1	1	0	0	
4年	92	102	2	4	14	0	86
休退学等の理由：休学：進路再検討 退学：進路変更							
学科目標資格取得状況							
60回臨床検査技師 国家試験		受験者数	86	合格者数	73	合格率	84.9 %
平成25年度細胞検査士 認定試験		受験者数	12	合格者数	5	合格率	41.7%
卒業後の進路							
就職内定者数 (率)	68 (87.2%)	進学者数 (率)	8 (9.3%)	その他 (率)	1 (1.2%)		
本年度の課題							
1. 改訂カリキュラムに基づく新カリキュラムを実施する。 2. 実習安全管理指針に基づき実習の安全を確保する。 3. 第60回臨床検査技師国家試験全員合格を目指し指導する。 4. 平成25年度細胞検査士養成課程受講者全員が細胞検査士認定試験に合格するよう指導する。							
本年度の目標・方針							
1. 新カリキュラムを順次実施して行く。 2. 実習安全管理指針に基づく具体的マニュアルを作成する。 3. 臨床検査技師国家試験の合格率100 %を目指す。 4. 細胞検査士認定試験の合格率100 %を目指す。							
主な活動内容							
a. 目標達成に向けた活動内容 (根拠資料・記録) :							
1. 本年度から新カリキュラムを順次実施した。平成27年度入学生からは全面的に新カリキュラムが適用されるのに備え、改訂前カリキュラム (旧カリキュラム) が適用される学生に不利益が生じないように配慮した (医療検査学科カリキュラム委員会報告書)。							

2. 実習の安全確保にむけ、実習安全管理指針に基づくマニュアルを作成し学科内に提示した。学外実習（臨地実習）の際にもこれを準用した（学内実習安全委員会報告書）。
3. 第60回臨床検査技師国家試験の結果は上に示す通りである。
過去の合格率水準とはほぼ同じであった（国家試験対策委員会年間報告書）。
4. 平成25年度細胞検査士認定試験の結果は上に示す通りである。合格率は低下した（医療検査学科会議議事録）。

目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 学科運営における主な活動内容（根拠資料・記録）：

1. 基礎学力の充実と専門科目履修の効率化を目指す科目設定と学習支援
（2013年度講義要項、医療検査学科会議議事録）
2. 科目修得への支援
科目担当者、担任、サポート委員などが連携して支援し、滞りなく科目履修が進むよう支援した（医療検査学科会議議事録）。
3. 生活に問題のある学生への対応（上記2.と関連する）
学科として情報を共有し担任が中心となって支援した（医療検査学科会議議事録）。
4. 就職・進学に関する支援
学科の就職委員、担任などが中心となって支援した（就職委員会年間活動報告）。
5. FDへの取り組み
全学的取り組みと学科単位の取り組みとがあった（FD委員会年間活動報告）。学科内では実習レポート作成指導などが議論された（医療検査学科会議議事録）
6. 医療検査学科会議の開催
原則として毎月第1月曜日に開催した。会議では上述の事項に止まらず、さまざまな議論を行ったが、その中で全学的に関連のあるものを含めて、主なものを列挙する。
○次年度新入生からGPAを導入する（全学的）
○「学生による授業評価」などを参考に、自己点検・評価を一層推進する
○2014(平成26)年度の認証評価受審に向けて取り組む（全学的）
○卒業研究と国家試験との取り組みに工夫する。
○オフィス・アワーを導入する（全学的）。
○医療検査学科常勤教員の動き
退職2名、新規採用2名、昇格3名であった。
○2014(平成26)年度からフィリピン国サン・ラザロ病院が「国際保健医療活動Ⅱ」の対象施設に組み込まれることになった。
○2014(平成26)年度、教育イノベーション機構」が発足することになり、本学科の教員4名が教育イノベーション機構の教員を兼ねることになった。
（医療検査学科会議議事録）

c. 社会活動、研究活動、など：

テーマ別・ジョイント・科研費についてはK T U大学教育研究開発センター年間活動

報告書を参照されたい。

次年度の課題

1. 臨床検査技師国家試験および細胞検査士認定試験合格率を向上させる。
2. 社会活動、研究活動を活発にする。

2. 保健科学部 看護学科 (N科) 年間活動報告

学科長 鎌田 美智子

基礎データ							
	入学者数	在籍者数	退学者数	休学者数	留年者数	転学科者	卒業者数
1年	90人	90人					75人 (9月卒業含)
2年	85人	84人	2人				
3年	85人+編入2人	82人	3人				
4年	84人+編入3人	86人	1人		I 4人		
休退学等の理由：進路変更、経済的理由							
学科目標資格取得状況							
看護師国家試験受験資格	受験者数	71人	合格者数	70人	合格率	98.6%	
保健師国家試験受験資格	受験者数	52人	合格者数	35人	合格率	67.3%	
養護教諭免許取得	受験者数		合格者数	5人	合格率		
卒業後の進路							
就職内定者数 (率)	74人 (98.7%)	進学者数 (率)	0人	その他 (率)	1人 (1.3%) ※スポーツ留学		
本年度の課題							
<p>1. 平成24年度入学生から導入している保健師養成課程の選択制に対して、「選択確定人数と、それに伴う保健所実習施設の確保」を、兵庫県内の大学間で調整し、臨地実習の効果的な展開内容を準備する。</p> <p>2. 次年度日本高等教育評価機構の「大学機関別認証評価」をうけるための、学科運営の総合的な点検を行う。</p>							
本年度の目標・方針							
<p>1. 平成24年度から保健師養成課程の選択制を導入しており、その導入に伴う学修支援を円滑に行う。</p> <p>2. 本学科カリキュラム運営による教授・学修過程の成果として、看護師・保健師の国家試験受験の結果、全員が合格基準に達する。</p> <p>3. アドミッションポリシーに基づく資質の高い入学生確保の維持（近隣看護系大学の増設の中、本学科は高い受験生数を維持しており、その継続）。</p> <p>4. 次年度の「大学機関別認証評価」受審に向けて、学科運絵の総合的な点検を行う。</p>							
主な活動内容							
a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）：							
<p>1. 保健師養成課程の選択制導入（平成24年度入学 5期生）に伴う学修ガイダンス。 従来の統合カリキュラムと異なり、選択制では、人数の制限が必要となる。したがってこの課程の学修では保健師課程の到達基準（指定規則）を念頭に、保健師活動のイメージを明確に描き、慎重な科目履修が必要となる。そこで一昨年から組織している保健師課程養成委員会を開催し（3回の実施）、指導内容や指導方法の検討後、教務委員を中心に入学時の履修ガイダンスや、2年次の保健師課程選択のアンケート等を基に履修ガイダンスを</p>							

強化し、適切に選択できるよう支援した。4年次に履修予定の保健所実習の施設については、県内看護系大学の調整会議に、担当教授が出席し、予定人数分の確保ができた。【根拠資料：保健師課程履修ガイダンス資料、平成27年度県内保健所実習計画表】

2. 国家試験の成果は、看護師国家試験では合格率98.7%で、全国平均89.8%（既卒者を含む）を大幅に上回った。不合格者1名の自己採点上の得点率を分析してみると、必修問題は合格基準を上回っていたが、一般・状況問題での得点率が合格基準よりごく僅かの不足であった。この学生は、学修への取り組みに時間を要する傾向がみられており、4年次当初から真剣に取り組んでいたのであるが、結果として時間量不足が影響したものと思われる。全体の評価としては、臨地実習での知識の統合や、解剖生理、病態生理等の専門基礎分野の基本知識の獲得に成果がみられている。専門科目においては、成人看護学領域が、他領域に比べ、やや低い傾向がみられていた。この領域は、単位数が基礎看護学に次いで多いこともあり、今後、授業上の内容精選や学修指導上のさらなる工夫が必要であると思われる。【学科会議議事録「国家試験結果の資料」】

4. 応募者数の増加と、資質の的確な選抜に関しては、オープンキャンパス等で、本学科の教育内容を丁寧に伝えていくこと等の継続と、カリキュラムポリシーに基づいた的確な教科運営により、ディプロマポリシーの確実な到達を導くことで、結果に繋がると考え、実践してきた。

今年度の応募総数は、昨年度よりも減少している。これは大阪・京都・奈良等に看護系大学が数校新設されており、その影響も一つの要因であると思われる。次年度も県内に数校の新設等の予定があり、各看護系大学全体の課題になりつつある。受験生の分析からは、高校評定値は昨年度よりも高くなっており、いわゆる偏差値が高いといわれる高校層が増えている。また一般入試の歩止まりが、昨年と比べて大幅に高くなっている等、質的にはレベルアップしてきている印象を受ける【看護学科総括会議議事録】

目標達成度の評価：①. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 学科運営における主な活動内容（根拠資料・記録）：

1. 教科運営（授業運営）

(1) 教科運営に関しては、各専門領域（教養・専門基礎領域、基礎看護学、健康支援看護学、母子支援看護学、療養支援看護学）の教授が主宰する領域会議（月1回程度）で、教育内容等の検討を行っている。さらに学科会議（月1回）において、必要時、検討を行い、年度末には総括学科会議を設け、各専門領域からの教育評価（総括）を行った。また看護学科の総括的な運営においては、看護学科教授会（月1回）において審議検討し、学科会議において的確な審議ができる方向性を示している。【根拠資料：領域会議議事録、学科会議議事録、看護学科教授会議事録】

(2) 次年度の「大学機関別認証評価」受審に関しては、学科長を含めた準備委員会を中心に、各専門領域の教員、各種委員会に所属する委員からの点検内容を、必要時学科会議で検討した。この点検において、看護学科の将来構想に関しては、各領域でのそれぞれの検討内容を用い、看護学科教授会で審議し、「学部教育の充実、大学院設置の必要性等」の方向性を定め、学科会議で論議した。【根拠資料：認証評価準備委員会議事録、看護学科

教授会議事録】。

(3) 非常勤講師への対応は、学期初めと終わりに、学科長が教育内容と、昨年度の成果に関して講師との面談を行った。必要時、授業展開のサポートを教務委員が行っている。【根拠資料：学科会議議事録「非常勤講師との対応」】

(4) 臨地実習科目の運営に関しては、「臨地実習委員会」が中心となり、実習配置計画や実習要領の検討、さらには「臨床指導者研修会」の開催等と、でき得る限りの連携を密にし、円滑な運営を意図した。【根拠資料：臨地実習委員会議事録】

2. 学生支援

(1) 学生の学修支援に関しては、学生個々のニーズに応じて、4 大開設時に導入したチューター教員が核となり、クラス担任、さらに、各専門領域の授業担当者等が、連携を密にし、可能な限り学生個々のレディネスに応じた対応ができるようにしている。これらは大学生活全般において、特に地方出身学生の大学生活の支援として、効果をあげており、今年度の退学者は全学年で4人と、全国平均に比べて少数にとどまっている。国家試験対策は、対策委員会の活発な活動により、学生たちが主体的に学習会を設けたり、模擬試験に挑戦したりと、さらには教員による補習等により、今年度3期生として合格率が、1 昨年の1期生に比べると、6.7ポイントと大幅にアップしている。就職支援に関しては、就職委員会の活動成果により、希望者は、100%の内定を得ており、1期生からの課題であった実習病院へも全員が就職を決定している。

3. FD活動

学生による授業評価の結果は、学科長が教育評価の観点から、「内容の精選、授業方法、評価方法」として学科会議に提供し、各教員の教育力を高めるために活用されている。また、学科内の組織的なFD活動としては、教員の文献検索のスキルを高める研修、大学教育の特性に応じた指導方法等を実習指導者と共に検討し、大学・臨床側共に指導力を高める臨床指導者研修会等を実施した。

c. 社会活動、研究活動、など：

1. 社会活動：蓮池婦人会のデイサービス・介護プログラム事業には、今年度述べ8人の教員が、健康相談・講義を計4回実施し、参加者は51人であった。また介護予防プログラムには3人の教員が5回実施している。さらに看護協会本学拠点「まちの保健室」活動では、述べ30人の教員が計6回実施し、健康相談271件、健康測定540件を実施している。高大連携では県立明石南高校の「基礎看護Ⅰ、Ⅱ」の講師として3人の教員が協力。また三田市民病院との地域連携入試協力では、病院側との連絡調整を学科長が中心に入試広報委員等が密に行っている。今年度、三田市民病院には、地域看護を担うべく意欲を持った5人の卒業生が就職している。【総括学科会議議事録】

さらに、看護系大学との組織的連携においては、日本看護系大学協議会・日本私立看護系大学協会・全国保健師教育機関協議会・日本養護教諭養成大学協議会に加盟しており、それぞれの総会に関係教授を参加させ、連携を深めた。また3年前に設立した県内看護系大学協議会には、4回の会議に学科長と、地域看護学教授が参加している。

加えて、学科長が理事をしている私立看護系大学協会の研修会「看護大学教育における

<p>国家試験のあり方」を、12月に博多で開催し、全国の大学教員が多数参加している。</p> <p>2. 研究活動：科研費の応募に積極的に取り組み、現在5件の研究を継続している。また学内のテーマ別研究に2件。神戸常盤学術フォーラムに3件の発表、その他、J A C Aの草の根事業研究や、看護系の学会等に多数の研究発表を行っている。さらに昨年M科と合同で採択されている「私立大学戦略的基盤形成支援事業」の成果に続き、E科を加え「災害対応を組み込んだ機動的サポートシステム神戸常盤モデルの構築」が採択され、活動を開始している。</p>
<p>次年度の課題</p> <p>1. 次年度受審予定の「大学機関別認証評価」の自己点検的確に行い、審査を円滑に受ける。</p> <p>2. 教員の研究活動をさらに高め、研究の量と質の向上をはかる。このため研究時間量の確保他、研究環境を整える。</p>

3. 教育学部 こども教育学科 (E科) 年間活動報告

学科長 後藤 晶子

基礎データ							
	入学者数	在籍者数	退学者数	休学者数	留年者数	転学科者数	卒業者数
1年	89	89	1	0	0	0	
2年	92	90	2	1	0	0	
3年	—	—	—	—	—	—	—
4年	—	—	—	—	—	—	—
休退学等の理由：退学：進路変更、休学：体調不良							
学科目標資格取得状況							
	—	受験者数	—	合格者数	—	合格率	— %
	—	受験者数	—	合格者数	—	合格率	— %
	—	受験者数	—	合格者数	—	合格率	— %
卒業後の進路							
就職内定者数 (率)	—	進学者数 (率)	—	その他 (率)	—		
本年度の課題							
<p>①教育課程の不断の検証については、今年度も課題とする。</p> <p>②専任教員1名の補充を求められている科目について、人材を確保する。</p> <p>③入学生の資質の幅の広さに対応した授業展開を検討する。</p> <p>④1・2期生のキャリア支援を有効に実施運営する。</p> <p>⑤3年後の就職を見据えて、卒業空白期間の中で、保育・教育現場に対する研修の機会提供をして連携を図る。</p>							
本年度の目標・方針							
<p>①1・2期生の履修・学習状況を踏まえ、カリキュラムの効果的運用と検証を行う。</p> <p>②留意事項その他による必要な専任補充に努める。</p> <p>③授業運営について、より効果的な学習が実施できるよう、授業評価結果を活かす他、教員間の連携をとる。</p> <p>④キャリア支援を具体的に展開する。</p> <p>⑤保育・教育現場に対して研修の機会を提供し、連携を深める。</p>							
主な活動内容							
<p>a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）：</p> <p>①1年生には入学後1ヶ月経過後、2年生には後期開始後、全員に個別面接で、適応状態や進路志望等の確認をした。（学科会議議事録、面接周知案内）</p> <p>②より効果的な履修を促すために2月に1、2年生別にプレ履修ガイダンス時を実施し、進路を見据えて自身の履修を春休み期間中に熟慮できる体制をとった。（学科会議議事録、プレ履修ガイダンス案内）</p> <p>③平成27年度に補充必要な専任教員を公募で選任し、また専任教員の退職に伴い適切な</p>							

教員を補充した。(AC委員会議事録)

④授業評価結果および各教員の改善策を学科で共有し、参考とすることを協議した。
また、学科FDとして、各授業科目の毎回のキーワードや課題を共有し、授業内容に関する重複や欠落、課題の重なりを確認しながら授業を進めることとした。(学科会議議事録、E科FD記録)

⑤教職支援センターと連携し、公立学校受験志望者対象とした学習会を開催し、保育所・幼稚園希望者に対してインターンシップを実施した。(学習会スケジュール、インターンシップ配置表、学科会議議事録)

⑥保育所・幼稚園・小学校に呼びかけて「困り感のあるこども理解～治療現場のこどもと親の姿から」をテーマとした研修会・懇親会を開催した。(研修会案内状、実施要領、アンケート結果)

⑦年度末に1・2年生の保護者をそれぞれ対象とした懇談会を開催し、学生の進路支援についての取り組みを説明し連携を深めた。(案内状、アンケート、学科会議議事録)

目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 学科運営における主な活動内容(根拠資料・記録)：

1) 教科運営(上記aで記述した内容以外)

①非常勤教員への対応

最初の授業時に学科長から学科の教育運営についてのお願いの挨拶をするとともに、教務委員から、授業運営にかかわる注意依頼事項の説明と書式による報告依頼をしている。その他必要に応じて随時学科長および関連科目担当教員が対応している。(学科会議議事録・教務委員からの依頼状と様式)

②実習科目の運営方法の検討

実習委員会を中心に、基礎実習Ⅰ、幼稚園実習Ⅰ、小学校基礎実習、基礎実習Ⅱの効果的運用について協議した。(実習委員会議事録、学科会議議事録)

③カリキュラム改正その他については完成年度以降を見据えてE科将来構想委員会での検討課題になるが、目下平成27年度までの履修・学習状況を確認する段階である。

2) 学生支援

①基礎学力テストの結果を学科で共有し、学科会議で学生の学力の実態を報告し合い、対策を検討した。(学科会議議事録)

②学科会議、及び教員間メールで欠席情報を共有し、担任から学生に注意を喚起している。未修得科目の多い学生は、担任が呼び出して指導をしている。(学科会議議事録)

③年度初めに全専任で個人面接を実施し、学生生活への適応状況や問題の把握に努めた。その他グループ討論や授業で個別の学生の状況把握を心がけた。授業料滞納学生については担任がケアし、学科会議で報告している。(学科会議議事録)

3) FDへの取り組み 1)のaに記載。

c. 社会活動、研究活動、など：

①科研費に4名応募し、1名採択された。テーマ別研究には4名応募で3名が採択された。

(教授会議事録)

②幼稚園との連携 ときわキッズクラブの開催(放課後専任教員の専門性を活かしたプログラムを実施)、研修会、子育てセミナーの講師を務める(学科会議議事録)

次年度の課題

①教育課程の不断の検証については、開設3年目に入るので、より履修・学習状況を綿密に把握し検討していく。

②学生の質を勘案しながら、学習効果を上げる工夫を続ける。

③1年2年3年それぞれに相応しい有効なキャリア支援を実施運営する。

④後1年の卒業空白期間の中で、保育・教育現場に対する研修の機会提供をして連携を図る。

4. 短期大学部 口腔保健学科 (0科) 年間活動報告書
 学科長 野村 慶雄

基礎データ							
	入学者数	在籍者数	退学者数	休学者数	留年者数	転学科者数	卒業者数
1年	88	88	2	0	0	0	
2年	75	68	6	0	0	0	
3年	80	71	3	2	5	0	61
休退学等の理由：進路変更							
学科目標資格取得状況							
歯科衛生士国家試験	受験者数	62	合格者数	61	合格率	98.4 %	
—	受験者数	—	合格者数	—	合格率	— %	
—	受験者数	—	合格者数	—	合格率	— %	
卒業後の進路							
就職内定者数 (率)	60 (96.8%)	進学者数 (率)	1 (1.6%)	その他 (率)			
本年度の課題							
①第三者認証評価の受審 ②歯科衛生士を目指すためのモチベーション向上と早期退学者の減少 ③カリキュラム検証 ④学科内FD活動の活性化							
本年度の目標・方針							
①短期大学部の第三者認証評価受審のための対応 ②新入生の早期退学者減少のための対策 ③カリキュラムの見直し ④教員の資質向上（教育・研究）							
主な活動内容							
a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）：							
①短期大学部の自己点検評価報告書を作成し、第三者認証評価を受審し、「適格」と評価された。（根拠資料：自己点検評価報告書、認証評価準備委員会議事録、代表者連絡会議事録、神戸常盤大学短期大学部機関別評価結果） ②非常勤講師の集いを開催し、非常勤講師より学修上の環境整備などについて助言を得た。入学前に一日事前学習を実施し、入学後の学修に際しての基本的事項を教育した。前期に小グループで行うゼミ（教養ゼミ）を各教員が3～4回実施し、学習あるいは大学生活における親身なアドバイスや指導ができる環境を整備した。（根拠資料：非常勤講師の集い議事録、事前学習報告書、ゼミの評価と記録、学科教授会議事録、学科会議事録）							

③専門分野の科目間の順序性並びに内容を検討するカリキュラムミーティングを開催し、カリキュラムフローチャートを作成した。また、3年生後期の有効利用を図ること等カリキュラム検証小委員会で検討した。（根拠資料：カリキュラムミーティング議事録、カリキュラムフローチャート、カリキュラム検証小委員会議事録）

④教員の資質向上のために、学科教員の授業公開や「学生による授業評価」の結果の検証を行った。研究活動の活性化に向け、外部資金の獲得として学科教員が、科学研究費の申請を積極的に行った。（根拠資料：公開授業記録、KTU 外部資金獲得状況記録）

目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 学科運営における主な活動内容（根拠資料・記録）：

1) 教科運営（授業運営）

上記の a に一部含まれる。（①関連科目教員間で学習成果向上への取組み、②カリキュラム改正の検討、③非常勤教員への対応）

④実習科目の運営方法

臨地実習の施設指導者の指導レベルを均等化するための研修会を臨地実習指導者会議で行うとともに、実態調査を開始した。今後、調査結果を基に施設指導者の研修会などを企画する。（根拠資料：臨地実習指導者会議議事録）

2) 学生支援

上記の a に一部含まれる。（①基礎学力不足の新入生への学習支援）

②未修得単位の多い学生への対応・支援

担任が前後期の単位取得状況を把握し、時には保護者を交えて今後の対策を話し合い前向きな解決策を検討した。

③学生生活に問題のある学生への対応・支援

担任が学生面談を通して指導することに加え、中には学生相談室を紹介するなど積極的に支援した。（根拠資料：面談記録表）

④国家試験対策

専門基礎・専門分野の補講並びに校内模試・業者模試を実施し、現役卒業生を全員合格させることができた。過年度生の1名は積極性に乏しく、指導にも拘わらず不合格となった。（根拠資料：国家試験対策委員会議事録、学科会議議事録）

⑤就職・進学支援

国家試験合格者の内60名が病院・診療所などに就職し、1名は日本歯科大学短期大学部専攻科に進学した。（根拠資料：学科会議議事録）

3) FD への学科としての取り組み

上記の a に一部含まれる。（①「学生による授業評価」を利用した教員への対応、③学科内でのFD研修）

②再履修率の高い科目の教員への対応

専任教員の科目に関しては、教員が補講等を行い再履修に至らないよう対策を講じている。非常勤講師の科目で再履修を避けるために、専任教員が補講を行っている。

<p>c. <u>社会活動、研究活動、など</u>：</p> <p>①口腔保健研究センターでは、附属幼稚園・常盤女子高校・ときわ健康フェアにて歯科健診ならびに口腔機能に関する検査を行い、口腔の健康維持に努めている。</p> <p>②子育て支援センター「えん」にて、出前講座を行うとともに、子供のフッ素塗布を実施している。</p> <p>③長田区における地域保健事業（こどものむし歯予防のための検討会、長田区民まちづくり会議のにこやか部会など）に参画している。</p> <p>③テーマ別研究1件、ジョイント研究1件が採択された。</p>
<p>次年度の課題</p> <p>①歯科衛生士を目指すためのモチベーション向上と早期退学者の減少</p> <p>②平成28年度にカリキュラム改正を目指した検討と対策</p> <p>③卒業生のキャリアアップを図る（進学、リカレント教育）</p> <p>④学科内FD活動・研修会の活性化</p>

5. 短期大学部 看護学科通信制課程 (CCN) 年間活動報告書
 課程長 高宮 洋子

基礎データ						
	入学者数	在籍者数	退学者数	休学者数	在籍延期	卒業者数
1年	203	203	8	0		/
2年～	15	443	67	11	175	
休退学等の理由： ・家族の介護 ・子どもの療育 ・経済的困難 ・本人の病気療養						
学科目標資格：看護師国家資格取得状況						
受験者数	194 人	合格者数	139 人	合格率 (%)	71.6%	
既卒者	76 人		26 人		34.2%	
本年度の課題						
1) カリキュラム編成の充実の課題として評価法の妥当性の検討 2) 関東地域における地方会場開設の条件整備 広報—学生確保、実習地確保、教員体制 3) 国家試験対策の強化 4) 学修支援の強化						
本年度の目標・方針						
1) 教育理念と教育方針およびディプロマポリシーと各教科目の内容と教科間の整合性に加えて、評価法の妥当性として実習評価の妥当性の検討を行い、教育力の充実を図る。さらに学生による授業評価をふまえて教育の質の向上を図る。 2) 関東進出にむけて、関東進出委員会における積極的役割を果たす。都・県の看護協会訪問、施設訪問による広報活動と実習地確保を進める。 3) 国家試験対策強化—国家試験対策委員会提案の国家試験強化対策の確認と実施 4) 学修支援の強化—入学時の学習ガイダンスの充実、在籍学生の学修進捗状況に応じた学習支援の強化。入学予定者へのプレカレッジの充実を図る。						
主な活動内容						
a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）：						
1) について 本年度は認証評価受審により整理・確認されたカリキュラム教科の内容と課題について実践するとともに、課題であった実習科目の評価内容の妥当性について、精神看護学実習及び基礎看護学実習について課程内 FD 活動と連動し検討し、教員間で共有化が進んだ。（課程内 FD ミーティング記録）。						
2) について 広報活動として、東京都及び静岡、神奈川、埼玉、千葉の看護協会の訪問、法人事務局の支援も得て、病院訪問を精力的に行った。又、通信制課程事務と協力しスクーリング会場確保のための訪問をおこない、法人および関東進出委員会、課程会議に報告した。						

関東地域の学生確保は、広報による周知が遅れたこともあり課題を残している。実習地確保は、今年度入学生に対しては、基礎・看マネ、成人、老年、精神看護学実習においてはほぼ確保できたが、母性、小児、在宅において必要を満たしていない。引き続き実習地確保は重点課題である。（関東進出委員会記録、課程会議記録、実習検討委員会記録）

3) について

昨年度の課題を受けて、国家試験対策委員会を中心として、入学年次の概論スクーリングをはじめ、実習ガイダンス、実習スクーリングなど学生と直に面接する機会を最大限に活用して学習支援及びDND上映会を実施、また図書館におけるDVDの視聴ができる対策をおこなった。また模擬試験実施と結果返し、国家試験対策セミナーの企画・実施をおこなった。また既卒者に対して電話による励まし、郵送によるDVDおよび模擬試験・国家試験対策セミナーなど学修支援と情報の提供を行ったが、結果的には昨年度をさらに下回る結果で新卒者71.6%、既卒者34.2%に終わった。新卒学生は勿論のこと既卒者への国家試験に向けた学修支援の強化が今後の課題となった。

4) について

入学式後の学習ガイダンスでは、学修の進度に焦点を当て説明したことでカリキュラム全体の理解は図れたが、個々の学生が自分の時間割を作成する上で、科目構成を総合的立体的にしっかりと理解することが必要と考えられ、学修進度と教科目全体像のイメージ化についてさらなる工夫が課題となった。

入学予定者へのプレカレッジの取り組みも内容の充実が図られ、参加者も96名でありアンケートの結果では概ね好評であった。

学修支援では、学習の進捗状況に応じての支援をおこなうとともに、臨地実習履修の節目ごとに、学修の進捗状況を課程会議で情報提供し、教員間で問題の共有をすることで、レポート添削指導を含めた個別指導に反映出来るようにした。（課程会議記録）

学修相談の特別企画として、例年の看護学概論レポート作成の勉強会、病原微生物・免疫学科目の特別講義のほか、本年度は母性看護学と小児看護学の学習会を実施、参加者には好評であった。また卒業生を囲む交流会を実施し、参加者にとってはモチベーションを維持するうえで効果があったと考える。今年度は通常の学修相談へも参加が少なく、学生への周知に課題を残した。（学修相談記録）

目標達成度の評価：1.できた ②.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった

b. 課程運営における主な活動内容（根拠資料・記録）：

1) 教科運営、主にカリキュラムについて

① a. 1) に前述したとおり、各科目間の学習目標・内容および評価の見直しをすすめ臨地実習の評価の妥当性について、具体的に科目ごとの検討を始め、教員間の認識の共有を図った。

②カリキュラ改訂は平成21年施行されており、当項目は該当しない。

③年度初めに看護専門科目におけるレポート添削指導員との連絡会議を実施し、教育目標および当面の課題についての意思統一を図っているが、基礎及び専門基礎の教員との

連絡は、問題が生じたときに個別に行うに留まっている。

④該当しない。

2) 学生支援

①入学予定者に対するプレカレッジを実施し、レポートを作成し提出し添削を受けるとい
う学習方法について認識するとともに学習の動機付けをしている。又、学修相談の特別企
画として、病原微生物、看護学概論、母性看護学、小児看護学について勉強会を企画実施
し、各教科100名ほどが受講した。受講生には好評であるが、参加できる学生に限界があ
るといふ弱点がある。

②4月下旬から5月上旬および、11月下旬から12月初旬に成績を送付し個別の手紙を添え
学修相談への案内を行っている。反応のない学生には電話連絡を行っているが、効果的な
成果につながっていない。

③学修相談日を毎月2～3回を定例として実施して、面接および電話相談を実施している
今年度に関しては、定例御相談日への相談は20件余に留まった。相談日のあることを学生
に意識的に知らせていく必要がある。

④国家試験対策は前述のとおりである。

3) FDへの学科としての取り組み

①「学生による授業評価」は各教員共に誠実に受け止め、内容の分析による自己の振り
返りを行うとともに、改善点を次の授業に反映する取組が行われている。

②再履修率としては該当しないが、レポート合格の進捗状況については、他の科目の進捗
状況とあわせて、それぞれの教員が確認できるようにしている。

③課程内FD研修は、FD委員を中心として適切に良く実施されている。内容は、前述
のとおりである。

c. 社会活動、研究活動、など：

社会活動では、他の専門学校への非常勤講師や看護協会の研修の講師を担当している教
員は5名となっている。

研究活動では、科研費による研究の継続が1件で学会発表を行った。テーマ別研究1件、
学内の学術フォーラム発表1件、また他大学教員との共同研究1件の継続中である。

次年度の課題

- ・ 国家試験対策の強化
- ・ 学支援の強化、特に在籍3年目、4年目を迎える学生の学修進捗状況の確認
- ・ 関東地域における学生確保、実習地確保の強化
- ・ 実習評価についてさらに検討を継続して、教育内容の向上をはかる。

II. 学内組織別 年間活動報告書

1. 入試広報委員会 年間活動報告

委員長 瀬川和子

本年度の課題
<p>1. 全学科の共通の目標は、次の①～③である。</p> <p>①志願者の増員 ②定員の充足 ③基礎学力の担保と確固たる目的意識の入学生確保</p> <p>2. N科通信制課程での志願者増に向けての広報強化</p> <p>3. 平成27年度入試科目・出題範囲の検討と確定（理数系科目）</p>
本年度の活動方針・目標
<p>1. 全学科の特徴・魅力の徹底した広報活動により、アドミッション・ポリシーに適合した志願者を増やすことで、定員を確保する。</p> <p>2. N科通信制課程では関東方面で指導基盤を確立し、入試方法・受験機会を増やし、あらたな志願者層を開拓する。</p> <p>3. 平成27年度入試理数系科目・出題範囲について、各科の入試広報委員が中心となり、問題作成者と共に協議・検討し確定。受験生・高校等関係者へ周知する。</p>
主な活動内容
<p>a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u>：（H.26 大学案内・入試要項・受験ガイド、入試広報委員会議事録）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試広報委員会：4月の第1回入試広報委員会で入試業務に関して委員全員で確認し、広報活動と入試運営に関して各委員が遂行 <p>1. 広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度入学者選抜試験用の大学案内・入試要項・受験ガイドの作成 ・各科指定校の選定と高校訪問者の確定およびその実施 ・オープンキャンパスの内容と担当者の検討ならびに実施後の反省と次年度への課題のまとめ ・CCNに新たな入試形態である自己推薦入試の導入 <p>2. 入試運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期からは予定の入試の実施、および合否判定部会委員として合格判定教授会の各科合格者原案作成。併行して平成26年度入学者選抜入試の結果を参考にしながら平成27年度入学者選抜試験の概要作成。 <p>目標達成度の評価：1. できた 2. <u>ほぼできた</u> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u>：（入試広報委員会議事録）</p> <p>1. 広報活動 (1)～(3)の数値は2月末までの実施分を記載</p> <p>(1) 高校訪問：課員を中心に推薦入試の出願依頼に延べ631校訪問。各科教員もM科は大阪・奈良地区を重点的に回る等訪問を重ね、一般入試出願依頼117校も含めると延べ743校に及んだ。今年度も以前から力を入れている東播・西播地区は訪問を重ねた。また阪神地区も重点的に訪問したことにより本学とのネットワークも飛躍的に広がり、地域の中心高校57校からの志願者に増加した。</p>

- (2) 本学主催進路説明会：姫路 6 月 18 日、本学 6 月 24 日（高校教員 36 人出席）
- (3) 高校での模擬授業・進学ガイダンス：全体で 116 件参加。講義は委員以外の教員にも依頼した。高校から直接依頼の「出張講義」「出前授業」等も増えている。
- (4) キャンパス見学会：6, 7, 8, 9 月の 4 回実施した。8 月の参加者数は昨年同様 800 人以上となり、全体では H24 より 172 人多い 2,052 人となった。9 月以降も週末ごとに個別相談で対応した。
- (5) 入試広報課を中心に学科教員も西日本の過去実績のある高校に出向き、地方での募集活動に努めた。
- (6) CCN の指導拠点を関東にも設置。課程教員も関東方面の実習先病院や看護協会訪問を繰り返し、説明と過去在籍者他、関係者への DM・大学案内送付等々で周知を図った。

2. 入試運営

- (1) 平成 26 年度入学者選抜試験での総志願者数は 1,182 名で昨年度より 115 名減少した。
 - ・ M 科では一般入試以降でも増え、全体で 30 名増加の 367 名の志願者を集めることができた。H. 25 年度入試より数学の出題範囲を広げた一般入試では、理科で化学選択者が増えたことなどからも、理系のレベルの高い学生が確保できたと考えている。
 - ・ N 科では本年度も兵庫県下に養成校が新設され益々激化する中で、昨年度より 112 名少ない 467 名の志願者となった。しかし、歩留まりは高く、M 科同様学力の高い学生を確保できたと考えられる。
 - ・ E 科では今年度推薦入試では昨年より志願者は 39 名減少したが、高い歩留まりとなった。また、一般入試以降センター入試志願者は 36 名あり、四大化に伴いこれまでとは異なる志願者層が集まった。
 - ・ O 科では公募の岡山会場に志願者があり、全体では昨年度より 13 名増加の志願者総数となった。
 - ・ N 科通信制課程では今年度導入した自己推薦入試にも関東地区も含め志願者があり、志願者総数は再入学者 3 名を含め 186 名となった。

(2) 平成 26 年度通学課程の入学者数は、M 科 95 名、N 科 91 名（編入学 2 名を含む）、E 科 92 名、O 科 79 名総数 357 名である。近年多くの大学が定員を確保できない状況の中で、本学は昨年度に引き続き通学課程の全学科で定員を充足した。看護学科通信制課程の入学者数は 182 名（再入学 3 名を含む）である。250 名の定員を満たすことはできなかったものの、準看護師という対象者が減少し広報が遅れたにもかかわらず、関東からの出願も増加し新入試方法での志願者も集まり、入学者を確保できた。

3. 入試問題

- ① 入試科目：平成 27 年度入試より、数学・理科に関しては新カリ履修者が受験するため、各科の出題科目・出題範囲について検討。各学科のアドミッション・ポリシーの確認作業から始め、問題作成者も交えた検討後、決定。なお、H. 27 年度入試に関しては、旧カリ履修者対応も含めホームページ等でも公表済みである。
- ② 平成 27 年度入学者選抜入試では、N 科公募推薦で選択肢を広げ、英語での受験の機会を設定することとした。

次年度の課題

1. 全学科共通の目標は継続して次の①～③である。
 - ①志願者の増員 ②定員の充足 ③基礎学力の担保と確固たる目的意識の入学生確保
 - ・M科では、全国初の指定校である意義と細胞検査士について、および文系入学者へのケア態勢の広報。理系医療系志願者層の継続的な確保
 - ・N/E科は関西圏での同系統養成校との差別化。本学独自の教育理念・教育内容の周知
 - ・O科は、4大や専門学校との差別化。本学独自の教育理念、施設設備の充実度、求人数や求人先と就職先等実績情報の発信
 - ・CCNは、関東地区も含めた志願者開拓
2. 平成28年度入試科目・出題範囲の検討と確定（国語・英語）
 3. 受験生対象の受験ガイダンス、模擬授業等々依頼も増加傾向にある。入試日程の見直しも含め、問題作成者や教職員の入試業務の負担感を軽減し、なおかつ入試実施においては安全・公正性を念頭におきつつ体制を整備する。
 4. 地方会場の設定やセンター試験利用入試など他府県から学生確保の体制はとっているが、全国的に志願者が増えているとは言えない。DM, 受験情報誌だけでなく、県外の高校と受験生に直接広報する機会の設定およびホームページの充実を検討したい。

活動内容の補足

平成26年1月に実施したセンター試験では、受け入れ人数が平成25年度の400人から490人へ増加し、10試験場を設置した。監督業務も多くの教職員が2日連続担当となった。事前に、主任監督者会議、監督者会議、全体説明会、2度のリスニング会議を開催したが、教職員の出席率は高く、内容の共通認識、理解のもと実施できた。他大学ではトラブルが発生する中、本学では監督者全員の的確な判断と対応により無事終了することができた。

2. 教務委員会 年間活動報告

委員長 長尾 厚子

本年度の課題
1. 文部科学省、中央教育審議会の答申による「大学の教育の質保証」を受けて、授業時間数の確保・成績評価（GPAの導入）について検討する。 2. 医療検査学科・口腔保健学科のカリキュラム改正に伴う課題について検討する。 3. Webによる履修登録、ポータルシステムの運用について検討する。
本年度の活動方針・目標
<活動方針> 教育課程の編成および運営を円滑に進めると同時に、学生の学ぶ権利を擁護し、教務の運営にあたる。 <活動目標> 1. 教育課程編成に当たり、15時間もしくは30時間の授業時間を確保する。それに伴い、シラバスの充実を図り、教育内容・到達目標・教育方法・評価方法を明示する。 2. GPAの導入に向けて検討する。 3. 医療検査学科・口腔保健学科のカリキュラム改正に伴う課題について検討する。 4. 各学科のカリキュラム運営上の課題について検討する。 5. Webによる履修登録、ポータルシステムの運用について検討する。
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）：教務委員会会議記録</u> 1. 教育課程編成に当たり、15時間もしくは30時間の授業時間を確保する。それに伴い、シラバスの充実を図り、教育内容・到達目標・教育方法・評価方法を明示する。 1) 「教育の質」を担保するために、単位数・授業時間数に応じた授業回数数の確保を行い、年間行事予定表に明示し、学生・教職員ともに共有できるようにした。 2) シラバスの表記は、「授業の概要・ねらい」「学習の到達目標」には各学科のディプロマポリシーを意識した記述を求め、授業内容・方法、評価の方法などを具体的に記述できるようにした。また、「授業時間外の学習」も重視するようにした。 2. GPAの導入に向けて検討する。 昨年度より、成績の評価を5段階にしていた。今年度は、次年度からのGPAの導入に向けて、他大学からの情報も活用しながら、本学での導入時の活用について各学科で検討し、本学での方針を決定し「GPA制度取扱規程」、学生便覧への表記を検討した。 3. 医療検査学科のカリキュラム改正に伴う教務上の課題について検討する。 1) 平成26年度からのカリキュラム改正に向けて、時間数削減や科目の統合を図り、科目名の変更、開講時期の変更等を学科原案を基に検討した。また、健康食品管理士を廃止し、卒後に申請するのみで得られる第1種衛生管理者資格の導入についても検討した。学則の変更・履修既定の変更についても教授会原案について検討した。 2) 口腔保健学科では、「介護職員(初任者)」の資格取得を廃止するため、「口腔保健学科特別の授業科目」の廃止について検討。学則の変更についても教授会原案について検討した。

4. 各学科のカリキュラム運営上の課題について検討する。
 - 1) こども教育学科のキャップ制について、3つの資格取得希望者のためには上限を53単位とする。
 - 2) 各学科で、履修登録者が少ない科目を抽出し、教務委員を中心に履修登録を進めた結果2科目が不開講となった。
 - 3) 神戸常盤大学転学部および転科要項について、短大時の要項を各学科に適応するかを検討し原案を作成したが、学則では認めないことになっているため廃案となった。
 - 4) 医療検査学科・こども教育学科の履修制限について学科原案を検討した。
5. Webによる履修登録、ポータルシステムの運用について検討する。
 - 1) Webによる履修登録は3年目を迎えている。次年度WiFi環境の整備が検討されると、さらに周知の必要が出てくる。
 - 2) ポータルシステムでの成績の確定に一部不都合が出現しているが、マニュアルの再確認を行い、さらに説明を加えることが必要となる。

目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：教務委員会会議記録

今年度は15回委員会を開催し、以下の活動を実施した。

1. 時間割（補講を含む）の作成・確認・周知に関して
教室の配置等に苦慮しているが、各学科で調整しながら時間割の運営を検討した。
2. 定期試験・追再試験・繰越再試験の時間割の作成・確認・周知に関して
今年度より、試験時間の表示に関しては試験時間が60分も90分も平常授業と同じ開始時間とした。
3. 既修得単位の認定に関して
規程に基づき、申請した学生に不利にならないように検討した。
4. 就職活動による公認欠席について
各学科の内規の統一を図るべく検討し、キャリア支援課との連携も考慮した。
5. 試験監督要領の検討
試験監督時の不正行為の予防に向けて、試験監督要領を見直し、改善した。
6. 教務関係内規の検討
学費未納による除籍の取り扱いと単位認定について、前期・後期で一定の方向性が出るように、担任と経理課との調整を図れるよう改正案を検討した。

次年度の課題

1. 文部科学省、中央教育審議会の答申による「大学の教育の質向上」を受けて、授業時間の確保・成績評価（GPAの導入）・学生の主体性を引き出す授業方法の導入等、実施における課題を検討する。
2. 医療検査学科・口腔保健学科のカリキュラム改正に伴う運営上の課題について検討する。
3. 第三者評価（認証評価）を受けての課題に取り組む。

3. 学生委員会 年間活動報告

委員長 野村 秀明

本年度の課題
学生生活全般の充実をはかるための方法を検討し、実行する。特に学習環境の整備、課外活動の支援、さらに安全な学生生活の確保に重点を置く。
本年度の活動方針・目標
1. 学生自治会活動に対する助言、指導 2. 各種奨学金推薦者の選考、及び指導 3. 学生生活を送る上でのトラブルへの対応、助言、および活動 4. 新入生オリエンテーションに関する活動
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u> ： 1. 新入生歓迎パーティ、学園祭、自治会予算・決算の指導、リーダーズ研修の実施 2. 日本学生支援機構奨学金、わかば奨学金、同窓会奨学金の募集・選考 3. 学生生活キャンペーン（マナー、防犯、エコキャンペーン）の取り組み 4. 新入生学外オリエンテーションの実施 目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった
b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u> ： 1. 定例学生委員会の開催と討議 2. 第53回全神戸短期大学総合体育大会、第45回全国私立短期大学体育大会への参加 3. 卒業記念パーティ（謝恩会）開催に関する助言・指導 4. 「学生の満足度に関するアンケート調査」の実施 5. 退学者実態に関する調査 6. 兵庫地区大学月曜懇談会への参加
次年度の課題
・新学部造設に伴う学生数増加に対する、学生生活環境の改善 ・退学者に関する実態調査とその対策

活動内容の補足
今年度の学生委員会の主な活動は次の通りである。 1. 新入生学外オリエンテーションの実施 H25年4月5日6日グリーンピア三木において、新入生357名、教職員83名、自治会学生20名が参加し全学科同日程で実施された。講演「まず一步踏み出そう」や身体運動「レクリエーション」、各科独自の学科プログラムなどが行われ、実り多い内容の大学生活オリエンテーションと新しい仲間づくりに関する企画が繰り広げられた。 2. 各種奨学金推薦者の選考、及び指導 日本学生支援機構奨学金は、一種は大学146名、短期大学部23名、二種は大学359名、短期大学部78名となり、在籍者に対する奨学生の割合は57%に上った。学内奨学金も学科ごとに審査を行い、わかば奨学金4名、同窓会奨学金6名を選考した。

3. 学生自治会活動に対する助言、指導
 - 1) 新入生歓迎パーティ
5月25日（土）メインホール、ハローホールにて、自治会主催の上記新入生歓迎会を行い、立食パーティや、ダンス部および軽音楽部による演奏などが披露された。
 - 2) 自治会予算、決算
昨年度決算及び本年度予算案を報告させ、その遺漏・誤謬なきことを確認した。
 - 3) 学園祭
11月23・24日に、本学キャンパスを中心に行われた。新学舎増設、学生数の増加にあたり「僕らの色で常盤を描こう！」をテーマに掲げ、模擬店や各種の催しが繰り広げられ、参加総数は2日でのべ約1500名に昇った。
4. 第54回全神戸短期大学総合体育大会
7月7日（日）バスケットボール部、バレー部、バドミントン部、テニス部、卓球部の5種目に参加した。このうち、本校は男女バスケットボールの会場となり、5短期大学の学生が集い、親睦を深めた。なお、平成24年度は全国私立短期大学体育大会への参加は行われなかった。
5. 卒業式、および卒業記念パーティ（謝恩会）
平成24年3月15日卒業記念パーティ（謝恩会）が行われた。卒業記念パーティは、学位記授与式後に、メリケンパークオリエンタルホテルにて学科ごとに分かれて開催し、学科の教員への謝恩が表された。
6. リーダーズ研修の実施
平成24年度は実施せず、日程調整のためH26年4月23日に実施した。クラブ活動やサークル活動の適正な運営のためのリーダーズ研修を行い、年間計画、運営方法に関するワークショップと活動に関する懇話会を持った。
7. 「学生の満足度に関するアンケート調査」
学生生活の実態把握と要望を把握するための学生の満足度に関するアンケート調査（2回目）を来年度に行うべく、アンケート項目などの準備を行った。
8. 兵庫地区大学月曜懇談会への参加
5月、9月、12月の兵庫地区大学月曜懇談会に参加し、他大学との意見交換の機会を得た。敷地内での喫煙状況について、各大学への調査を提案、結果を報告した
9. 学生生活を送る上でのトラブルへの対応、助言、および活動
 - 1) 各種キャンペーンの取り組み（マナー、防犯、エコキャンペーン）
新入生に対し、長田署による「安全な学生生活のために」という講演を依頼した。その他、マナーやエコ、さらに学生生活上での防犯に関する運動を企画し、その実施に着手した。
 - 2) 学生食堂の混雑緩和に向けての取り組み
学生数増加に伴う学生食堂の混雑緩和に対して、増席や教室の開放などを実施した。
 - 3) 通学路の見回り（マナー、安全のため）
4月16日～19日（4日間）、および6月24日～7月22日の毎月曜日（5日間）学生委員会の教職員が持ち回りで実施した。

4. 自己点検・評価委員会 年間活動報告

委員長 井本 しおん

本年度の課題
1) 自己点検・評価委員会により組織の年間活動を評価する取組（「年次報告書に基づく評価報告書」の作成）を進める。 2) 短期大学部、大学の認証評価受審への取り組みを通じて、自己点検・評価体制の更なる充実を図る。
本年度の活動方針・目標
年間活動方針： 「自己点検評価を改善・向上につなげる方策の検討」 主な目標： ・年次報告書を活用したフィードバック体制の強化 ・改善・向上に有用な情報の共有化
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u> ： （平成 24 年度年次報告書の作成要領、年次報告書に基づく活動状況の評価基準（チェック項目）、平成 24 年度年次報告書に基づく評価報告） 1) 年次報告書を活用したフィードバック体制の強化について 学内組織（学科及び委員会・センター）の年間活動内容を自己点検・評価委員会が点検・評価し、「年次報告書に基づく評価報告」にまとめ、年度内に教職員にフィードバックすることにした。 前年度より準備を進め、以下のように進めていった。 ①平成 24 年度年次報告書の年間活動報告書様式を、PDCA サイクルを意識して改定した。 ②「年次報告書に基づく活動報告の評価基準（チェック項目）」を作成し、報告書作成依頼時（平成 25 年 3 月）に配布した。 ③完成した平成 24 年度年次報告書を、教員個人の年間活動報告以外の全ての報告について評価基準に基づいて自己点検・評価委員が点検・評価を行った。学科の年間活動報告書は、各学科長にもピアレビューの形で参加していただいた。 ④「平成 24 年度年次報告書に基づく評価報告」をまとめ、平成 25 年 9 月末に教授会で提示するとともに全教職員に配布した。 以上の取り組みにより、年次報告書を活用したフィードバック体制を構築することができた。 2) 改善・向上に有用な情報の共有化について 「授業評価報告書」に記載された授業改善策を、まず前期分について全学科分をとりまとめ、学科会議で情報提供した。これにより、後期の授業改善に役立つ資料とすることができた。 また、「学生へのメッセージ」はこれまで紙ベースのファイルを 3 か所に設置していたが、本年度より学内共有フォルダに掲載することにより、学生及び教職員が学内のパソコンで

閲覧できるようになった。

ただし、授業評価以外に有用な情報の共有については、まだ取組が不十分である。

目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：

（自己点検・評価委員会議事録、認証評価準備委員会議事録、代表者連絡会議事録）

月1回自己点検・評価委員会を開催した。

短期大学基準協会による短期大学部の第三者評価を重審した。前々年度より準備を進めてきたが、適格との判定を得ることができた。

平成26年度の大学認証評価受審に向けて、認証評価準備委員会をほぼ毎月、代表者連絡会を2カ月に1回開催し、「自己点検評価書」作成を中心に準備を進めた。

「学生による授業評価」を学期毎に実施した。平成24年度までは、学科長への「授業放火報告書」および「学生へのメッセージ」提出を年度末にまとめて実施していたが、平成25年度より、前期分を先に提出することにした。これにより、前期分の「授業報告」にある授業改善案等を後期の授業に利用することが可能となった。

「卒業生へのアンケート」を、M, N, O, CCN で実施した。各学科で専門教育への取組を検討していく資料とすべく、学科毎に調査報告書をまとめている。

次年度の課題

改善・向上に有用な情報の共有化については「授業評価報告書」の授業改善案を取り上げたが、他の有用情報についても取り組みが必要である。

平成26年度の重要課題は、日本高等教育評価機構による認証評価の受審である。

自己点検・評価報告書（年次報告書）を大学ホームページに掲載することが、情報公開における重要な課題である。

5. FD 委員会 年間活動報告

委員長 松田 光信

本年度の課題
<ul style="list-style-type: none">公開授業の活性化に向けた具体的な取り組みを行う学内外のFD活動への教職員の参加率を高める関西地区FD連絡協議会幹事校・パイロット校としての役割を果たす
本年度の活動方針・目標
活動方針：主体的に学習し表現する学生あるいは専門職者を育成するために、教育方法および評価方法を検討する。 目標：多様な授業方法を模索する。
主な活動内容
<p>a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u>：議事録参照</p> <p>年間目標に沿った年間スケジュールを年度初めに立案し、その企画および運営に努めたが、講師との日程調整に難渋し計画通りに進めることができなかつた点がありそれが反省点である。</p> <ul style="list-style-type: none">新任者研修会開催（4月2日）全学研修会開催（神戸常盤学術フォーラムにおいて）：テーマ「主体的に学ぶ学生について考えるーアクティブラーニングの視点からー」（9月21日）、合計72名参加（医療検査学科14名、看護学科17名、こども教育学科16名、口腔保健学科11名、看護学科通信制課程5名、事務9名）公開授業の活性化に向けた取り組み：公開授業見学記録の簡素化を図る目的で書式変更を行うと同時に、公開授業見学記録の取り扱いについても見直した。全学研修会開催：テーマ「アクティブラーニング実践法」（3月24日）、合計80名参加（医療検査学科21名、看護学科17名、こども教育学科15名、口腔保健学科12名、看護学科通信制課程7名、事務8名） <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u>：議事録参照</p> <ul style="list-style-type: none">会議は毎月1回定例化を原則とし合計10回開催公開授業の活性化に向けた取り組みの実施：参加報告書件数合計53件学科別FD活動の推進：学科別FD活動は、学生による授業評価を参考にして内容を検討し実施している。なお、今年度実施した活動は、医療検査学科「カリキュラム改変に伴う科目間接続性の確認および実習レポートの書き方とその評価の在り方検討」、看護学科「最新のデータベース使用方法～チュートリアルレクチャー～」、こども教育学科「全科目を対象とした科目内容を表すキーワード調査および学生への課題提示状況調査」、口腔保健学科「カリキュラム改変に向けた科目担当者の検討およびカリキュラム

<p>フローチャートとカリキュラムマップの再検討」、看護学科通信制課程「看護学における教育評価～文献に基づく学習会と実習評価の具体的な検討～」であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関西 FD 地区連絡協議会主催の会議等への参加 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 関西地区 FD 連絡協議会幹事会、平成 25 年 4 月 15 日（京都大学）、参加 ➤ 大学コンソーシアムひょうご神戸研修交流委員会、平成 25 年 5 月 13 日（神戸大学）、参加 ➤ 関西地区 FD 連絡協議会第 6 回総会、FD 活動報告会 2013、平成 25 年 5 月 18 日（京都大学）、参加およびポスター発表資料のピアレビュー ➤ 関西地区 FD 連絡協議会幹事会、平成 25 年 2 月 20 日（京都大学）、参加 ・ その他、学外 FD 研修会への委員会メンバーの参加（1 名）
<p>次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学研修会については、早期に内容および講師の検討を行う等、迅速かつ計画的に企画・運営する必要がある。 ・ 公開授業の活性化に向けた更なる検討が必要である。 ・ 関西地区 FD 連絡協議会関連の研修会等への積極的な参加を促す工夫について検討する必要がある。 ・ KTU や新たに設置された教育イノベーション機構と協議する機会を設定し、活動内容および役割分担等について検討する必要がある。

6. カリキュラム等検証委員会 年間活動報告

委員長 畑中道代、長尾厚子 記載者：光成 研一郎

本年度の課題
学科横断的なカリキュラムの構築とカリキュラムのスリム化について
本年度の活動方針・目標
<ul style="list-style-type: none">・カリキュラム改革・変更について・全学的教養教育（キャリア教育含む）の推進について・「地（知）の拠点」を目指した学内体制づくりについて
主な活動内容
<p>a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u>：カリキュラム等検証委員会議事録</p> <ul style="list-style-type: none">・医療検査学科は、教養分野の充実と専門分野のカリキュラムのスリム化を目指し、平成 26 年度入学生から適用されるカリキュラム変更を検討してきた。当委員会では医療検査学科から提案されたカリキュラム変更、およびこれに伴う科目内容・名称変更が適切であるかを検証した。・本学は、全学科共通キャリア科目の創設、推進など、教養教育にも力を入れてきたが、各学科とも専門職養成学科であり、学科独自の教養教育は実施しているものの全学的な視野に立った教養教育が実施されているとは言い難かった。また本学は教育課程内（カリキュラム）外（各種センターが実施する活動・イベント等への参加）でキャリア教育を実施してきたが、それらの体系化、集約化が果たせているとはいえない。それゆえ当委員会は、幅広い教養、リベラルアーツ、教育リテラシーの整備とともに教育課程内外の教育活動の体系化・集約化が必要と考え、学部と同列の独立した教育組織の構築を目指し、平成 25 年度に教育改革推進機構準備室を開設することを提言した。その結果、平成 26 年度 4 月より、キャリア教育を基幹とする常盤型教養教育を推進するために、教育イノベーション機構が新設された。・大学コンソーシアムひょうご神戸、本学開講科目（医療系プログラム フィリピン研修）の実施を検討し、春季学生派遣プログラムとして実施した。 <p>目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u>：</p> <ul style="list-style-type: none">・ A C D ポリシーの改訂（学科同士の整合性について検証）・ 「キャリア基礎」の教育方法および内容について検証・ 初年次教育の在り方について検証・ カリキュラムを考慮した人事について検討・ G P A 導入についての検証・ 口腔保健学科科目の兼担について検討・ 教養図書の実践について検証・ 「 I R 推進準備室」の検討

・大学コンソーシアムひょうご神戸（医療系プログラム フィリピン研修の実施検討）

次年度の課題

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・カリキュラムの検証とスリム化等について・教育イノベーション機構、各センター、各委員会との連携について・COC「地、（知）の拠点」を目指した体制・カリキュラム整備について・全学的な視野に立った人事について |
|---|

7. 図書・紀要委員会 年間活動報告

委員長 尾上 新太郎

本年度の課題
<p>学生に書物への親しみをいだかせる。(学生の書物離れを防ぐ)。</p> <p>緑葉・紀要、それぞれの特徴に見合った原稿を募る。両者とも、毎年発行する。(緑葉は、H25年度は休刊)</p> <p>図書館内、グループ学習室を有効に使う。(学生に大いに利用させる)。</p> <p>相対的に基礎教養の本が少ないので、その関係の本を増やす。</p>
本年度の活動方針・目標
<p>私立大学等教育研究活性化設備整備事業の採択を受けたこともあり、本学教職員に依頼して、学生達に読ませたい本、総計、500冊を選び、その全部を図書館に展示した。学生が手にとって見るかどうか、実際に読むかどうかというようなことは、もう少し時間が立たないと分からない。</p> <p>緑葉は、去年は休刊したが、今年は、原稿が十分集まり、出版した。(H25年12月出版)。</p> <p>紀要に関しては、査読があり、一人の査読者の意向で掲載不可が出る可能性があった。だが、紀要という論文雑誌の性格上、掲載不可は問題という意見も出た。結局、編集委員長の総括的な意見があり、投稿されたもの全てが、掲載された。(H26年3月出版)。</p> <p>図書館内に設けられているグループ学習室の利用が、前年度に比べて大幅に増えている。特に宣伝はしていないので、口コミによる情報伝達のたぐいと思う。何にしろ、ちゃんとした事態の分析がいる。</p> <p>基礎教養の本が比較的少ないということに対しては、その方面の蔵書を重点的に増やすことで対応した。基礎教養関係の蔵書を充実させるためには、予算配分の優先順位をこれまでと変える必要がある。そういうことでは、全学的な話し合いの必要があろう。</p>
主な活動内容
<p>a. <u>目標達成に向けた活動内容(根拠資料・記録) :</u></p> <p>1, 本学の教職員が推薦する 500 冊の本を、全冊、図書館内に展示した。若き日の本学教職員が何を悩み、何に苦しんだか、それらをいかにして克服したか、共生の思想で、何かを掴んでほしい。</p> <p>達成度の評価 : 1. できた ○ 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. <u>委員会・組織の主要な活動内容(根拠資料・記録) :</u></p> <p>定期的に委員会を開いた。(今年は、5回)。</p> <p>自分の属する学科に、必要に応じて、委員会で決まったことをアナウンスする。また、図書館に対する意見も、積極的に聞く。要するに、本当に学生が本学に来て良かったと思う大学にしたい。</p>
次年度の課題
<p>第一回目の会議がまだです、全体的なことは言えませんが、学生に親しまれる図書館にしたいと思っています。</p>

8. 広報紙編集委員会 年間活動報告

委員長 藤本由佳利

本年度の課題
配布先、配布部数の見直し。 内容の見直し。 画像挿入の工夫。
本年度の活動方針・目標
神戸常盤大学 広報紙WE 47号 平成25年6月中旬発行 神戸常盤大学 広報紙WE 48号 平成25年12月中旬発行
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u> ：（広報紙47号、48号、議事録） 神戸常盤大学 広報紙 神戸常盤大学キャンパスレポート WE 47号 平成25年6月中旬発行にむけた委員会開催（内容、画像挿入の工夫、配布先、配布部数の検討） 神戸常盤大学 広報紙 神戸常盤大学キャンパスレポートWE 48号 平成25年12月中旬発行にむけた委員会開催（内容、画像挿入の工夫、配布先、配布部数の検討） 目標達成度の評価：1. できた 2. <u>ほぼできた</u> 3. あまりできなかった 4. できなかった
b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u> ：（広報紙47号、48号、議事録） 広報紙47号（2013.6発行） 1面 建学の精神、斉放館（6号館）完成記事 斉放館、アクティブラーニング対応演習室、ビオトープ 画像挿入 2面 学長 挨拶『新たな地平を目指して』、目次 3面～4面 学部長・学科長挨拶『新入生を迎えて』 4面～5面 1年クラス担任紹介 5面～6面 新任教職員紹介 6面～7面 一年を振り返って（各学科2年生） 7面～9面 就職状況 M, N, P, O 9面 国家試験結果 M, N, O 10面 退職者挨拶 9面～10面 教職支援センター紹介、ワイガヤラボ紹介、JICA草の根協力事業紹介 12面 神戸常盤大学地域貢献度 ランキング5位 12～13面 ネパール研修報告、カウンセリングルームからのご案内 14面 ときわ幼稚園通信、同窓会便り、歯科診療所からのお知らせ、学生自治会役員紹介、オープンキャンパスのお知らせ 広報紙48号（2013.12発行） 1面～2面 建学の精神、ときわ健康フェア記事、関連画像挿入、目次 3～4面 「実習体験記」（N4, N2, E2, O3, NNC） 4面 ネパール交換留学生を受け入れて、NNCからのお知らせ

5面 ときわ幼稚園通信、同窓会便り（M38期生）、体育大会結果、
歯科診療所お知らせ
6面 「日韓フォーラムに参加して」、板宿クリニック協働企画、耐震補強工事に
ついて
7面 第2回 常盤学術フォーラム演題一覧、ワールドゲームズ大会報告、キャンパ
ス見学会を終えて
8面 「常盤祭アルバム」実行委員長挨拶

以上

次年度の課題

掲載写真の厳選。
旬の情報収集。
学生記事のボリュームアップ。
早い段階での原稿依頼と記事内容の見直し。

9. 倫理委員会 年間活動報告

委員長 土戸 敏彦

本年度の課題
有事の際に誠意を持って当該関連事案に、可及的速やかに対応する。
本年度の活動方針・目標
各種委員会およびその他の部署から審議すべき事項が発生すれば、ただちに対応する。 前年度審議されなかった「動物実験規程」について、その実現可能性を検討する。
主な活動内容
<p>a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）：</u></p> <p>昨年度の年間活動について状況報告と確認をおこなった。</p> <p>学内教員から「動物実験規程および動物実験委員会の新設」について、資料の提出とともにこれにかんする審議の提案があり、諸々の報告・意見・問題点などが出された。</p> <p>（以上、第1回倫理委員会議事録）</p> <p>「動物実験規程」（案）について、さらに詳細な検討が加えられ、これとは別個に「動物実験委員会」に関する規程を設ける方向で再検討することとなった。</p> <p>（以上、第2回倫理委員会議事録）</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ②ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：</u></p> <p>委員会活動のありかたについての論議をあらためて初回に行なった。</p> <p>一昨年度取り上げられていたものの、昨年度は触れられなかった「動物実験規程」が、本年度の中枢をなす審議事項となり、委員会の活動の主要部分を占めた。</p> <p>（議事録）</p>
次年度の課題
1. 懸案の「動物実験規程」についてのさらなる審議およびその促進。 2. 本学における倫理的課題への迅速かつ適正な対応。

10. 研究倫理委員会 年間活動報告

委員長 覚道 健一

本年度の課題
1. (対象者のプライバシー保護について留意すれば、大きな不利益を生じない) 教育や教育効果に対するアンケート調査等の研究の審査方法について検討する。 2. 研究者の倫理、神戸常盤大学研究倫理憲章について。
本年度の活動方針・目標
計9回の委員会を開き16件の申請書の審査と、上記課題について検討した。
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容(根拠資料・記録)</u> : 1. 前委員長からの申し送りである“学内憲章”の作成については、「憲章」としての作成はしないことを決定した。同趣旨の『研究者ハンドブック』(KTUセンターが作成予定)内にその旨を掲載する。 2. ヘルシンキ宣言の内容の周知については次年度KTUセンター主催の研修会なども含めて検討することとした。 3. 教育や教育効果に対するアンケート調査等の審査については、次年度以降、メール審査とすることとした。 目標達成度の評価: 1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった
b. <u>委員会・組織の主要な活動内容(根拠資料・記録:議事録1-8参照)</u> : 別添資料のごとく16件の申請書(医療検査科2件、看護学科6件、こども教育学科5件、口腔保健学科2件、看護学科通信課程1件)と看護学科、医療検査学科の卒業研究について審議し、採択承認した。
次年度の課題
1. 文部科学省の公的研究費管理ガイドラインが見直され、大学としての管理体制の強化や、各研究者のより高い倫理が求められるようになる。これの学内広報、FD活動を行なうことが必要である。 2. 動物実験施設、飼育施設の運営についての規定作成について、倫理委員会と協議する。

11. 個人情報保護委員会 年間活動報告

委員長 生島 祥江

本年度の課題
個人情報の適正管理に向け、教職員の個人情報の取り扱いに関する問題意識を高める。
本年度の活動方針・目標
本学が保有する個人情報の適正管理かつ円滑な業務運営を図るとともに、個人の権利及び正当な利益の保護に取り組む。
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u> ： 委員会の開催（不定期） 新入学生には学内ガイダンス期間中に、本学が所有する学生個人情報の種類と取り扱い、第3者への提供等について説明し、文書にて同意を得た。 個人情報が適正に取り扱われているかどうか確認した。 尚、詳細は個人情報保護委員会議事録参照 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった
b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u> ： 3回のメールにて委員会を開催した。 個人情報が適正に取り扱われていることを確認した。 新入生の本学が所有する学生個人情報の種類と取り扱い等についての同意状況を確認し、未提出者への対応を確認した。また、次年度の対応について確認した。 尚、詳細は個人情報保護委員会議事録参照
次年度の課題
継続して、個人情報の適正管理に向け、教職員の個人情報の取り扱いに関する問題意識を高める。

12. ハラスメント防止対策委員会 年間活動報告

委員長 井上 清美

本年度の課題
学生の相談体制の明確化と相談の円滑化を図るための学内連携のシステム化が必要である。
本年度の活動方針・目標
1 学生及び教職員に対し「ハラスメント」についての理解を深め、ハラスメント防止意識向上への周知を図る。 2 相談窓口は幅広く、関連する各委員会や学科との連携を図り、相談体制の円滑化を図る。
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u> ： 目標 1 1) ハラスメント相談委員の掲示や啓発用リーフレットを配布し、ハラスメント相談への周知を図った。 2) リーフレットを見直し、修正・加筆、後期に配布し、ハラスメント防止の啓発を行った。 目標 2 1) 相談メールのほか、相談員『ハラスメント相談委員』のプレートを委員の研究室ドアに設置し、相談の受付を幅広くした。 2) 『学生の相談窓口担当者の研修会』を開催し、学生相談に関わる教職員や委員会等との連携を図った。 目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった
b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u> ： 1) 委員会を8回開催した。（会議録参照） 2) 上記活動内容を通じ、学生・教職員へのハラスメント防止への意識向上への取り組み、及びハラスメント相談の体制づくりを行った。学生相談の窓口教職員・カウンセリングルーム相談員との連携を図った。 3) 委員会としての対応が必要な事案は、本年度発生しなかったため、本委員会の防止対策を今後も継続していく方向である。
次年度の課題
ハラスメント防止意識の向上のための取り組みを継続するとともに、ハラスメント相談にかかる担当者の力量形成を図る (具体策案)・ハラスメント相談の基本マニュアルの作成について検討する。 ・多様化する学生相談に対応するための研修会の開催を企画する。

13. 危機管理（災害）委員会 年間活動報告

委員長 岩井 重寿

本年度の課題
危機管理（災害）のための具体的な組織体制の検討。 ・教職員等の行動基準の制定 ・平常時・緊急時の組織体制 ・指揮命令・報告・連絡の系統図及び具体的な担当者の任務 ・避難訓練の実施
本年度の活動方針・目標
昨年度から引き続き、避難訓練の実施、消火技術会への参加、施設確認、消火設備の点検実施のほか、新たに、講習会に参加し、改正される消防法による消防計画書の作成を目標に加えた。
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u> ・ 新入生と在学生の災害時における説明会および防火訓練 ・ 避難経路図を作成し、学生への周知方法を検討 ・ 消防法改正による防災管理者講習、自衛消防業務新規講習会への参加 ・ 対策本部構成員の業務と行動指針等の検討 ・ 消防計画書の作成及び消防署への提出準備 ・ 消防用設備等の点検 目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった
b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u> ・ 4月の新入生オリエンテーションにおいて、防災マニュアルの説明と同時に、放送による防災訓練を実施した。 ・ 4月13日（土）の地震発生時（震源地淡路6弱・本学震度4）ただちに、全学生にポータル配信し、ホームページに安否確認を掲載した。 ・ 防火・防災管理者新規講習会及び自衛消防業務新規講習会に5名の委員が参加した。 ・ 学生寮及び附属幼稚園において防火訓練を実施した。 ・ 消防法改正により、新たな消防計画書を作成し、自衛消防組織の編成と任務を見直す作業を検討した。
次年度の課題
・ 次の事項について審議する。 ① 消防計画の作成・届出に関する事。 ② 避難施設、消防用設備等の点検・維持管理に関する事。 ③ 自衛消防組織の運用体制・装備等に関する事。 ④ 自衛消防訓練に関する事 ⑤ 教職員等の教育・訓練に関する事。

活動内容の補足

平成25年

4月 避難訓練：学内放送設備の点検・新入生に非常口確認の放送

4月13日地震発生対応

5月 第1回委員会開催：委員会の業務分担、防災管理者の選定
防火・防災管理者、自衛消防業務講習会参加者の選定

6月 第2回委員会開催：対策本部構成員の業務と行動指針等の検討
組織図及び連絡体制図の作成

幼稚園避難訓練実施

自衛消防業務新規講習会2名参加

8月 消防設備点検

9月 防災管理者講習会参加

10月 防火・防災管理者新規講習会参加

11月 学生寮避難訓練実施

平成26年

1月 幼稚園避難訓練

2月 第3回委員会開催：防火訓練の実施案検討
消防計画書案検討
神戸市指定収容避難所への備蓄場所検討

蓮池小学校児童避難訓練施設（グラウンド）の提供

3月 消防設備点検

災害用備蓄食糧・物資の保管（200人分）

14. ICT 推進委員会 年間活動報告

委員長 光成 研一郎

本年度の課題
<ul style="list-style-type: none">・教育学部こども教育学科のサイトを他学科と同様の体裁にする・学科サイトの作成・キャリア支援課に関するコンテンツの充実（企業向け求人票のフォーマットの作成、キャリア支援年間スケジュール表の作成等）・各センターのコンテンツの統一および充実（教職支援センターのサイト作成、TEC の発展的解消に伴う、地域交流センターサイト、国際交流センターサイトの作成等）・入試広報課との一層の連携・研究者ディレクトリ情報へのアクセス改善
本年度の活動方針・目標
上記課題解決のために、各部署と連携をとりながら活動を推進する。
主な活動内容
<p>a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u>：ICT 推進委員会議事録；学内HP</p> <ul style="list-style-type: none">・教育学部こども教育学科のサイトを他学科と同様の体裁とした。・学科サイトの作成に関しては、各学科の判断に委ねている。試行的にこども教育学科と口腔保健学科で作成した。口腔保健学科は学科教員の役割分担を明確にし、更新頻度も高く、学生の姿が見える良いサイトになった。これをモデルとしたい。こども教育学科はこどもとかかわる実習なので実習風景は掲載しにくいといった課題があるが、更新頻度を高め、掲載内容の検討も行っていく。・キャリア支援課に関するコンテンツの充実を目指し、支援課ブログを作成、企業向け求人票フォーマットの作成、キャリア支援年間スケジュール表の作成を実施した。こども教育学科の就職（キャリア）支援スケジュールが作成中なので、対処する。・各センターのコンテンツの統一および充実を図った。新設された教職支援センターのサイトを作成するとともに各センターのコンテンツの統一を図ることができた。・研究者ディレクトリ情報へのアクセス改善を行った。（トップページ 企業・研究機関の方 → 研究者・研究活動について知りたい → 研究者検索）の順で検索が容易に行えるように改善した。・入試広報課と連携をとりながら、HP の運営を行っている。 <p>目標達成度の評価：1. できた 2. <u>ほぼできた</u> 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u>：ICT 推進委員会議事録；学内HP</p> <p>上記目標達成に向けた活動内容の実績は、HP に掲載。ほぼ毎月年に 10 回の会議を実施した。</p> <p>ICT 推進委員を中心として、「平成 25 年度教育基盤設備・研究設備の整備に係る計画調書」、「平成 25 年度 ICT 活用推進事業に係る計画調書」を作成し、採択された。ICT</p>

T推進委員会の役割や活動内容が広範になりつつあるが、学内のインフラ・ネットワークが構築されつつあるので、それへの対応も委員会の特別部会等を結成するなどし、行っていく予定である。

次年度の課題

26年度は、外部業者とともに大学HPをよりよいものにすべく検討し、刷新していく予定である。また上記したように学内のインフラ・ネットワークの整備に伴い、他部署と連携を一層緊密にする必要がある。本年度は大学認証評価も控えており、そこで明らかになった課題には速やかに対応できる体制も整えておく。

15. 高大連携委員会 年間活動報告

委員長 畑中 道代

本年度の課題
近年、高大連携の提携校以外の高校からの講義依頼が飛躍的に増加している。教育・研究・大学業務に多忙な教員が、高校現場に出かけて担当する高大連携授業は大きな負担となっている。そのため本年度は如何にすれば高校、本学両者にとって効果的な「高大連携授業」を実施することができるかを課題とした。
本年度の活動方針・目標
活動方針：養成を目指す将来の職業人の確保のため、各科の主体的な考えで高校との連携を推進する。 目標：高校生に大学教育の一端に触れさせることで、進路意識や職業意識の高揚をはかる。
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u> ： 協定を結んでいる県立高校 4 校へは、各学科で選出された教員の協力を得て、高校生に大学教育の一端に触れさせた。主に各学科が養成する職種の紹介、現状、やりがいなどを伝え、高校生の進路意識や職業意識の高揚を図った。提携校以外の依頼はある程度精査すると同時に、効果が望まれる高校を開拓した。医療検査学科では、臨床検査技師という職種の認知度を図るために教員が担当できる講義内容を積極的に高校へ伝え、出前授業の依頼を受けた。24年度は依頼がなかったが、25年度はニーズの高い高校を選ぶことにより数校の高校より依頼を受け出前授業を実施した。 受講した多くの生徒は、進路意識と進学意欲が高まったと感想を記している。 目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった
b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u> ： (1)提携による高大連携授業 ①県立明石南高校「高大連携授業」 看護学科教員を中心に看護系希望生徒（2年次5名）を対象に「看護基礎」を特別非常勤講師（県教育委員会委嘱）として担当した。N科教員を中心として15回実施。 ②県立東灘高校「放課後講座」 特色選抜「看護・医療・保育類型」生徒（1年次40名、2年次16名）を対象にN科教員2回、M科教員1回、E科教員1回、口腔保健学科教員1回が担当した。 ③県立三木北高校「模擬授業」 「総合学習の時間」の講師として2年次生徒（看護師志望者17名、幼児教育・保育士志望者16名）を対象としてN科教員2回、E科教員2回が担当した。 ④県立社高校「出前授業」 2年次生徒（26～29名）を対象としてN科教員1回、M科教員2回、O科教員2回）が担当した。

(2)医療検査学科による単発の出前授業

- ①県立小野高校 2年次 43名 「最適な医療を考える」
- ②宝塚東高校 2年次 30人程度 「医療とは何か？人を癒すことの意義と実際」
- ③県立福崎高校 2年次 14人 「神経系のしくみと疾患について」
- ④県立星陵高校 2年次 26名 「病院で「病理検査をします」といわれたら：診断に至るには臨床検査技師も必要」

次年度の課題

- ・高大連携授業は散発的に実施されるため、間近になって伝えられる高校からの情報（時間や参加人数などの詳細）が、委員間（事務、教員）および担当教員で共有することが難しい場合がある。次年度は授業実施やその報告に関わる情報の共有の方法を構築する。
- ・高校生一般から参加者を幅広く募る企画（本学での公開授業、化学実験など）についても今後の課題としたい。

16. 就職委員会 年間活動報告

a. 医療検査学科・就職委員会 委員長 向井 正彦

本年度の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ M3 対象のガイダンスを前期から実施する。 ・ M4 の 12 月末での内定率目標を 80%程度とする。 ・ 地方の就職先開拓を行う。 ・ 就職先の選択肢を幅広く広報する。
本年度の活動方針・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ M3 対象のガイダンスを前期から実施し、就活へのモチベーションを高める。 ・ M4 の進路内定率を 1 期生 (082M) の内定率推移を目標 (12 月末 79.7%) とする。 ・ 学生の出身地を調べ、M1～M3 の出身地に出向く。 ・ 引き続き公務員対策として一般教養対策講座、SPI 対策講座を年 2 回実施する。
主な活動内容
<p>a. 目標達成に向けた活動内容 (根拠資料・記録) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ M3 対象のガイダンスは前期に 5 回実施した。 ・ 3 期生の 12 月末時点の進路内定率は 70.8%で、2 期生 (46.4%) より改善したが 1 期生 (79.7%) には及ばなかった。3 月末の内定率は 89.9%である。 ・ 石川県小松市、金沢市、七尾市の 3 市で 4 病院を訪問した。 ・ 企業説明会を実施した。 ・ 一般教養対策講座、SPI 対策講座は夏と春の 2 回開催の範囲を分けず何度でも受講できる様に配慮して実施した。 ・ 3 期生は公立病院への内定者が 13 名 14.6% (国 2 名、都道府県 4 名、市町村 7 名) と多かった。一方検査センターを除く企業は無かった。 <p>目標達成度の評価 : 1. できた (2.) ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 委員会・組織の主要な活動内容 (根拠資料・記録) :</p> <p>1. 就職委員会 4/2, 4/26, 5/17, 6/21, 7/23, 8/16, 9/20, 10/18, 11/25, 12/20, 1/23, 2/21, 3/18 の 13 回開催 (根拠資料・議事録)</p> <p>2. ガイダンス M1 : 入学式当日の教員紹介時に、医療検査学科の就職活動が一般就職と時期・内容が骨なること、臨床検査技師国家試験に合格すれば就職率 100%であること、を保護者に説明 M2 : 4/8 の 1 回 M3 : 4/8, 4/26, 5/17, 6/7, 6/21, 9/6・7, 9/27, 10/25, 11/15, 12/6 の 10 回 M4 : 4/3, 4/23, 5/14, 5/28, 6/12, 6/26, 2/17 の 7 回</p> <p>3. 一般教養対策講座・SPI 対策講座 公務員・一般教養対策講座 : M2・M3 対象 8/7～8、3/26～27</p>

<p>S P I 対策講座：M2・M3対象 8/9、3/28 公務員・一般教養直前講座：M4対象 6/15</p> <p>4. 企業説明会（企業勉強会） M3対象 9/6・7、臨床検査機器企業1、臨床検査薬企業1、治験支援企業1、検査センター1、健診センター1、の5社・法人の説明会を開催、うち3社は2回目の参加</p> <p>5. 個別就職支援</p> <p>1) 第1回就職面談 3年生の10～11月に、進路の考え方について、就職委員が分担して3年生全員を対象に個別面談を行い、進路・就職への希望、就活への取り組み方などについて把握すると共に、学業成績や生活上の問題点の有無についても把握した。これらのデータは就職委員で共有して何時でも参照できる様にしている。</p> <p>2) 第2回就職面談 4年生の4～5月に、2回目の面談を行った。臨地実習で医療の現場を見ているので、考え方が変わったりすることも多く、最終学年として実際に就職活動を始める準備ができているかどうかについて把握した。これらのデータは就職委員で共有して何時でも参照できる様にし、次の個別指導にも活かしている。</p> <p>3) 就職試験直前対策 就職試験を受ける決断をしたときに、提出履歴書を事前チェック・添削し、また教員とキャリア支援課員との複数で本番さながらの模擬面接を実施した。とくに模擬面接は念入りに行った。</p>
<p>次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスの開始時期：M3、M4とも前期から行う。 ・M4の12月末での内定率目標を80%程度とする。 ・引き続き地方の就職先開拓を行う。 ・引き続き公務員、企業など就職先の選択肢を広く広報する。

<p>活動内容の補足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職内定学生で臨床検査技師国家試験不合格のため内定取消となった場合、次年度以降も求人をお願いしたり本学との良好な関係を継続するため、必要に応じて出向き人事担当者に挨拶している。平成25年4月に4カ所訪問した。
--

b. 看護学科・就職委員会 委員長 畑 吉節未

<p>本年度の課題</p> <p>1. 平成25年度は、3期生が進路・就職先を決定する年度である。前年度に効果的であった支援方法を駆使し、学生一人一人が納得のいく進路決定、就職試験への挑戦ができるよう効果的な指導を継続する必要がある。</p> <p>2. 保健師・養護教諭志望の学生の就職活動支援を効果的に行うために担当窓口の教員と協議を継続する。</p>
--

<p>3.1・2期卒業生の離職予防に向けて就職委員会で行える支援方法を検討する。 ①1期生の離職状況の実態把握 ②2期生への離職予防への支援方法の検討 等</p>
<p>本年度の活動方針・目標</p>
<p>1. 学生一人一人が将来のキャリア像を描き、納得のいく進路決定や就職試験への挑戦ができるよう、効果的な指導を計画的に行う。 2. 保健師・養護教諭志望の学生に効果的な指導が必要なため、それぞれの窓口教員との調整を行う。 3. 1・2期卒業生の職場適応に向けたフォロー調査を行い、就職支援への示唆を得る。</p>
<p>主な活動内容と結果</p>
<p>a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u></p> <p>1. <u>学生一人一人が将来のキャリア像を描き、納得のいく進路決定や就職試験への挑戦ができるよう効果的な指導を計画的に行う。</u></p> <p>①3年次に実施した「就職先決定に関する学生の意識調査」「看護におけるキャリアの考え方と選択に必要な視点・活動計画・病院見学への参加方法」と4年次の「就職委員による担当制の個人面接と指導」「模擬面接練習」等により進路決定や就職試験への取り組みを計画的に支援した。結果、看護師・保健師においては100%の就職率で就職先が決定した。 ②学生は、4年次の課題別総合実習を終えた7月頃に就職先を決定し、9～10月に受験した。短大時代と比較すると1施設に絞り受験をしている。 ③大学に移行してより国公立への就職率が6割近くに増えている。実習病院への就職率は約6割である。また、自分の目指す看護と就職先の病院の理念の吟味の結果、他府県にも就職先を求める学生もいた。</p> <p>2. <u>就職支援の評価となるデータを学生から得、支援方法の妥当性を検討する。</u></p> <p>①学科での模擬面接を6割近く利用しており、さらに状況に合わせ指導教員が個別練習も柔軟に対応した。その結果、利用した学生は効果的であった評価している。 ③個別面接・指導の教員を決めて（1教員当たり学生20名）対応した結果、学生が相談しやすく親身にかかわってもらったという感触を持っている。</p> <p>3. <u>看護師だけでなく保健師・養護教諭志望の学生にも効果的な指導を行う。</u></p> <p>①保健師として2名の学生が就職をした。 ②昨年と同様、就職委員としてこれらの学生ニーズにいかに対応するかは難しい課題であった。そこで保健師・養護教諭担当窓口の教員との適宜、情報共有を行い、入学時から卒業までの指導フロー情報を相互共有することができた。 ③今後も保健師・養護教諭志望学生への支援のため担当教員との協議の機会が必要である。OB・OG懇談会は養護教諭課程の教員と相談の結果、次年度から養護教諭課程独自で全学年を対象に行う事になった。</p> <p>4. <u>1・2期卒業生の離職予防に向けて就職委員会で行える支援方法を検討する。</u></p> <p>フォローのためののがきでの訪問を行ったが回収率が非常に低く、何らか工夫した改善策が求められる。</p> <p>5. <u>5回のガイダンスの学生評価</u> 適切な時期に適切な方法で支援できているという結果が</p>

<p>あった。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p>		
<p>b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</p> <p>【主な活動と委員会の開催】</p> <p>10回の委員会を開催し、委員間の情報共有を図ると共に5回のガイダンス活動の準備と実施・評価に努めた。</p>		
日時	活動内容	参加者・評価資料
平成25年 4月2日 〈委員会〉	<p>1. 委員会の目的・活動方針の確認</p> <p>2. 年間委員会活動計画の概要と各委員の役割分担</p> <p>3. 第100回看護師国家試験の合格状況と不合格学生の進路の確認</p> <p>4. 第1回就職ガイダンスの展開方法とアンケート内容の確認</p> <p>5. 3・4年生への個人面接の分担と方法</p>	<p>〈資料〉</p> <p>平成25年度就職委員会運営計画</p>
4月8日 第1回 ガイダンス	<p>【3・4年生共通】</p> <p>1. 就職委員の役割と今年度の活動予定</p> <p>2. キャリア支援課員・就職委員会教員の紹介</p> <p>【4年生独自】</p> <p><就職活動の視点と活動スケジュールの確認></p> <p>1. 看護学生にとってのキャリアの考え方</p> <p>2. 就職委員教員による支援</p> <p>1) 就職先決定に向けての考え方 2) 就職活動のスケジュール</p> <p>3) 病院見学や説明会への効果的な参加方法</p> <p>3. キャリア支援課の利用方法</p> <p><面接試験の模擬ロールプレイと評価視点の確認></p> <p>4. <指導担当教員と面接予定について></p>	<p>4年生 73名</p> <p>3年生 90名</p>
4月22日 〈委員会〉	<p>1. 第1回ガイダンスの評価</p> <p>2. OB・OG懇談会の進行方法と役割分担の検討</p> <p>3. 病院等から奨学資金を受けている学生の確認</p> <p>4. 卒業生へのはがきの内容・送付時期</p>	<p>〈資料〉第1回ガイダンスアンケート</p>
5月25日 第2回 ガイダンス	<p>キャリアモデルと出会う OB/OG懇談会</p> <p>1. 先輩看護職によるプレゼンテーション</p> <p>2. 学生との懇談</p>	<p>3年生 79名</p>
5月27日 〈委員会〉	<p>1. 養護教諭・保健師志望の学生の支援方法の検討</p> <p>2. OB・OG懇談会の評価と次年度への方策</p> <p>3. 4年生の就職先希望状況・奨学生の状況確認</p> <p>4. 卒業生への「お元気ですか」はがき訪問の内容検討</p>	<p>〈資料〉OB・OG懇談会アンケート</p> <p>（第2回ガイ</p>

		ダンス)
6月24日 〈委員会〉	1.4年生の就職希望状況 2.学生の修学資金の希望状況と対応方針の確認 3.模擬面接計画	
7月22日 〈委員会〉	1.第3回ガイダンスの展開方法 2.模擬面接計画 3.4年生就職活動状況の確認 4.卒業生の離職情報の確認	
9月6日 第3回 ガイダンス	【看護におけるキャリアの考え方と就職活動】 1.看護学生にとってのキャリアの考え方 2.就職委員教員による支援 1)就職先決定に向けての考え方 ①平成23年度の学生の進路・就職状況 ②就職先選択に必要な視点 2)就職活動のスケジュール 3)病院見学や説明会への効果的な参加方法 3.キャリア支援課の利用方法	3年生 88名
9月30日 〈委員会〉	1.4年生就職活動状況の確認 2.第3回ガイダンスアンケートの分析 3.卒業生アンケート回収状況の確認 4.ときわ病院によるガイダンスの日程検討	〈資料〉第3回 ガイダンスア ンケート
11月25日 〈委員会〉	1.4年生就職活動状況と結果確認 2.ときわ病院によるガイダンスの展開方法の検討	
1月27日 〈委員会〉	1.4年生就職活動状況の結果確認 2.教育提携病院（ときわ病院）との会の運営方法と評価方法の検討	
2月17日 第4回 ガイダンス	【進路・就職支援方法に対する卒業前調査】	4年生 75名
2月24日 午前 第5回 ガイダンス	【教育提携病院を通して就職活動を展開する視点を養う】 1.「今日の会の趣旨・教育提携病院を知ることの意味」 2.ときわ病院と神戸常盤大学の関係と歩み（法人局長） 3.ときわ病院の特徴 病院が目指すもの：映像でみるときわ病院 4.看護部長からのメッセージ ①病院が求める看護師像 ②就職試験の企画と面接評価の視点 ③神戸常盤大学の学生への期待 5.卒業生との交流 ①病院選択理由 ②働き甲斐、就職して良かった事	3年生 87名

	③活動へのアドバイス	
2月24日 午後 (委員会)	1. 平成25年度の活動評価 2. 進路先決定の最終確認 3. 4年生へのキャリア・就職支援アンケートの結果共有 4. 奨学資金希望者への組織的な対応について 5. 国家試験結果直後の病院対応についての確認	(資料) 4年生へのキャリア・就職支援アンケート結果
3月25日 (委員会)	1. 就職先への第101回看護師国家試験の結果の連絡 2. 国家試験委員会への情報提供 3. 「教育提携病院を通じた就職活動の視点を養う」アンケート分析	(資料) 就職活動を展開する視点を養うアンケート分析
次年度の課題		
<p>1. 平成26年度は、4期生が進路・就職先を決定する年度である。本年度に効果的であった支援方法を駆使し、学生一人一人が納得の行く進路決定、就職試験への挑戦ができるよう効果的な指導を継続する必要がある。</p> <p>2. 保健師・養護教諭志望の学生の就職活動支援を効果的に行うために担当窓口の教員と協議を継続する必要がある。(適宜就職委員会への参加をお願いしたい。)</p> <p>3. 今年度と同様に、離職予防に向けて就職委員会で行える支援方法を検討する。</p> <p>①1期生の離職状況の実態把握</p> <p>②2期生への離職予防への支援方法の検討 等</p>		

c. こども教育学科・就職委員会 委員長 上月素子

本年度の課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生ひとりひとりが希望の専門職種に就職できるよう、指導体制を整え就職支援プログラムを実施する。 ・就職先(保育所、幼稚園、施設等)との関係を維持し、連携を深める。 	
本年度の活動方針・目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生への細やかな就職指導を通して、希望の職種への進路確定を促す。 ・保育所・幼稚園・施設希望者のモチベーションを高めるための活動を計画し実施する。 ・小学校及び公立幼稚園・保育所希望者の基礎学力の向上に向けて教職支援センターと連携を図り、2年後の採用実現にむけた育成に努める。 ・リカレント教育講演会や懇親会の開催、既卒者の再就職者支援等により、就職空白期間における保育所・幼稚園・施設との関係を維持し連携を深める。 	
主な活動内容	
a. 目標達成に向けた活動内容(根拠資料・記録) :	【就職委員会議事録】
こども教育学科就職支援活動	(※印は希望者参加)
・4月 就職ガイダンス「専門職就職を目指した2年生の過ごし方」(2年生)	
・5月 第1回個別面接(1年生2年生 面接者:学科全教員)	
東京アカデミー講座(1年生2年生※ 企画:教職支援センター)	

- ・6月 姫路市保育士就職フェア（2年生※）
兵庫県私立幼稚園協会 就職フェア（2年生※）
- ・7月 就職ガイダンス「専門職就職に向けた夏休み以降の過ごし方」（2年生）
保幼施希望者の後期空き時間を利用した保育ボランティア実習希望調査（2年生）
小学校希望者採用試験に向けたグループ勉強会希望調査（2年生）
- ・8月 公立採用試験対策弱点フォロー勉強会（1年生2年生※）
- ・9月 兵庫の保育フェスティバル～保育所就職フェア～（2年生※）
就職ガイダンス「公立幼稚園保育所在職 OGOB 懇談会」（2年生）
（OGO B 神戸市2人・姫路市1人・西宮市1人・洲本市1人）
公立小学校教員採用試験受験グループ活動（2年生※）
- ・10月 第2回個別面接実施（2年生 面接者：就職・臨地実習委員会教員を中心に）
児童養護施設あいむフェスタ ボランティア参加（2年生）※
保幼希望者の後期空き時間を利用した保育ボランティアの実施（期間10月～1月
実施施設：神戸市立ふたば保育所（延べ人数72名）・民間保育園2園（2年生※）
- ・11月 就職ガイダンス「小学校 OGOB 懇談会」（1年生2年生※）
- ・12月 長田区カンガルーフェスタ ボランティア参加（2年生※）
研修会「困り感のある子ども理解」（2年生）
- ・1月 神戸市スクールサポーター説明会開催（1年生）
進路選択に悩む学生対象の個別面接（1年生2年生 面接者：就職委員）
- ・2月 第2回個別面接「2年生に向けて1年間を振り返る」（1年生 面接者：学科全教員）
就職ガイダンス「3年生に向けての春休みの過ごし方」（2年生）
保育所・幼稚園・施設希望者へのインターンシップの実施
（2年生※ 期間2月～3月 保育所16名 施設12名 幼稚園11名）
小学校志望者勉強会の実施（2年生※ 2月）
- ・3月 就職ガイダンス「H25年度公立採用試験合格者の体験から学ぶ」（2年生※）
目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった

b. 委員会の主要な活動内容【根拠資料・記録】： 【就職委員会議事録】

- ・毎月1回以上委員会開催 参加者：キャリア支援課（木村課長、小山課員）
E科教員（藤本・井上・多田・牛頭・戸川・上月）
- ・キャリア支援課・教職支援センターと協力し、上記aの企画実施にあたる。
- ・就職懇談会に参加し、保育所・幼稚園・施設との交流を深め情報収集を行う。
（姫路市保育協会・兵庫県幼稚園協会・大阪府私立幼稚園連盟・兵庫県保育協会）
- ・既卒者の就職後の悩みや再就職の相談に当る（対面・電話相談件数約30件）。特に公立採用試験の受験希望者には実技試験対策や面接指導などの具体的な支援を行う（公立採用試験 H25年度受験7名 合格3名 詳細は補足参照）。
- ・4月 H24年度P科卒業生里帰り会開催 参加者26名
- ・5月～8月 H24年度P科卒業生の就職先を中心とした就職巡回訪問指導 62園
- ・3月 保護者懇談会開催 参加者 1年生36名（28家族） 2年生20名（15家族）

次年度の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果を基に、一期生がそれぞれの希望の専門職種に就職できるよう指導体制をさらに整備し、本格実施に移す。 ・各学年に対応したこども教育学科の就職ガイダンスのプログラムを作り上げる。 ・就職空白期間における保育所・幼稚園・施設等の連携を深めるために公演会を開催する。 （谷川俊太郎・賢作氏の公演会—3月1日 神戸芸術センター—の内諾を得ており、年内の同氏の公演会に上月が出向き詳細の打ち合わせする予定） ・P科卒業生の公立保育所長・幼稚園園長との連携を深め、こども教育学科学生の公立採用試験に向けて力を借りる。

活動内容の補足
<p>過年度卒業生再就職指導</p> <p>公立幼保正規採用 3名 福知山市 (H23卒) 朝来市 (H24卒) 伊丹市 (H20卒)</p> <p>公立保育所臨時採用 2名 三木市 (H19卒) 南あわじ市 (H21卒)</p> <p>民間保育園正規採用 8名 神戸市・明石市</p> <p>H22卒生の未就職者(園の経営を希望)を卒後も指導を継続中。</p>

d. 口腔保健学科・就職委員会 委員長 溝部 潤子

本年度の課題
<p>平成24年度の年次報告の平成25年度の課題設定を継続した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 詳細な年間計画表の策定 2. 就職関連の問題については委員だけではなく教員全体で共有する 3. 病院、企業、行政への志望を増やす 4. 進学も視野に入れさせる 5. 就職委員長の固定化
本年度の活動方針・目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学年毎の目標を設定し就職活動を支援する。 2. 卒業までの3年間を通じた計画をたて、設定した目標達成のための表を作成する。 3. 就職関連の情報を共有する手段を検討する。 4. 求人施設開拓を行い、病院・企業への就職支援を強化する。 5. 早期より活動準備の必要な病院、企業、行政、進学に対する情報を提示して将来に結びつける。 6. 個人にあった細やかな就職支援を行う。
主な活動内容
<p>a. 目標達成に向けた活動内容(根拠資料・記録)：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学年毎の目標を設定し就職活動を支援する。 就職委員会で協議し、案を策定し学科会議でははかり、3年間を通じた就職支援体制を整えた。このことで、教員間での就職活動に対する情報の共有化を図ることがで

きた。

(各学年目標)

1年生は、歯科衛生士になることへの意欲をもち必要な準備を始める。

2年生では、理想とする歯科衛生士像を明確にして就職の方向性をさぐる。

3年生は、就職の方向性を決定し行動できる。

2. 卒業までの3年間を通した計画をたて、設定した目標達成のための表を作成する。

設定した目標を達成するための具体的な方策をガイダンス計画に織り込み、スケジュール表を作成した。学生に配布し、就職に対して早期から関心を持たせることができた。現2・3年は、この計画から不足していることを検討し、不足分を強化することができた。特に、3年生は、ガイダンスを増やしかつ模擬面接を実施するなどして相対的な支援と、個々の支援を両立することができた。

3. 就職関連の情報を共有する手段を検討する。

年間スケジュールを作成したことで、学生の動向が共有できるようになった。また、学科会議やメールを使用して、就職活動状況を報告するようにした。求人票が届く毎にキャリア支援課から学生配信しているが、学生への配信とオンタイムで教員全員に配信するようにした。これを受けて、実習施設等からの求人情報や就職活動について、速やかな対応ができるように配慮できた。

4. 求人施設開拓を行い、病院・企業への就職支援を強化する。

個人開業医の求人数に地域差があったことや、学生の住所地を配慮し兵庫県歯科医師会・神戸市歯科医師会西宮市・尼崎市・播磨地区・姫路市・伊丹市・赤穂市歯科医師会などに訪問して依頼した。病院や企業においても同様に、キャリア支援課職員と就職委員長が同行して訪問依頼した。

5. 早期より活動準備の必要な病院、企業、行政、進学に対する情報を提示して将来に結びつける。

病院・企業・行政・進学を希望する場合、一般教養試験等が課される場合がほとんどであることから、希望する学生には早期から対応する必要があることを周知させ、教養講座の受講を勧めた。1年生の夏季講座から受講する学生が見られ、また将来を具体的に考える学生が増えたように思う。加えて、キャリアを育むために、ボランティア活動などの機会がある場合には積極的な参加が見られるようになっている。

6. 個人にあった細やかな就職支援を行う。

従来より実施しているキャリア支援課職員と就職委員の教員による個別面談を、本年度も継続して行った。

5月に、学生が求職票を作成したものを持参させ、担任（就職委員）が個別面談をして聞き取りし情報を記入したものをキャリア支援課に保管して、キャリア

支援課職員が学生対応できるようにしているというシステムにより、学生への対応は、きめこまやかであったと思う。また、受験が決まった際には、学生の不安を払拭する目的で、履歴書の書き方や面接練習を実施した。学生と教員の時間調整から、5限終了後に面談練習や就職支援することも多く、かつ、教員は担任、就職委員、国家試験対策委員、職員は就職・国家試験委員を兼ねていたこともあり、学生にとっては細やかな支援を受けることができたと思うが、特に後期は教職員には時間的な負担が多かったように思う。

7. ココロエブックの活用

キャリア支援課の企画作成したココロエブックを活用して、就職支援を行った。就職活動として必要な事項がまとめられており、具体的な支援ができたと思う。

8. 就職状況

目標達成度の評価 ①できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：

①4月から1ヶ月に1回の定例の会議と必要に応じた臨時の会議の開催し、情報を共有し課題の解決に取り組んだ。

②年間計画表を作成し、学生に配布して周知した。また、HPにアップして学内外にも周知した。

③ガイダンスの企画と実施

- ・1年生は2回（平成25年7・12月）、2年生は3回（平成25年4・11・12月）、3年生は9回（平成25年4・5・6・7・10（3回）・11月・平成26年3月）に実施。新しい企画として、卒業前に卒後のキャリア支援としてガイダンスを実施した。

・1年生対象ガイダンス

4月4日（第1回：就職活動の概要・ボランティアやイベントへの参加・一般教養講習への参加・ココロエブックの配布）

12月20日（第2回：一般教養講座の紹介・企業や病院、保健所、進学の進路について）

・2年生対象ガイダンス

4月4日（第1回：就職活動の概要・ボランティアやイベントへの参加・ココロエブックの配布）

11月13日（第2回：「現場で活躍する歯科衛生士」西宮保健所 福永祐子氏、ときわ病院 宮田玲奈氏、宮本歯科・矯正歯科 椋橋恵氏、株式会社松風 井上真弓氏）

12月20日（第3回：一般教養講座の紹介・企業や病院、保健所、進学への進路について）

・3年生対象ガイダンスの内容

4月4日（第1回：就職活動の概要・ココロエブックの配布・キャリア支援課の就職支援・ディプロマポリシーの再確認・講演「保健所業務と私の就職活動：西宮保健所 福永祐子氏」）

- 5月1日（第2回：就職活動に向けて・昨年度の就職状況と活動から学ぶこと・国家試験と就職活動について・キャリア支援課の具体的な支援について）
- 6月10日（第3回：就職活動に向けて・履歴書を書くための準備）
- 7月30日（第4回：講演「現場で活躍する歯科衛生士」伊丹市立伊丹病院 道下千秋氏・株式会社松風 酒井李恵氏）・求職アンケートの実施・模擬面接への準備）
- 7月31日（第5回：模擬面接に向けて面接の態度・身だしなみについて）
- 10月2日（第6回：面接について・見学について・就職活動に関連する届け出・求人票の見方）
- 10月9日（第7回：履歴書について・書き方・演習）
- 10月24日（第8回：講演「現場で活躍する歯科衛生士」岡山大学病院 田中千加氏、たけうち子供歯科クリニック 小林莉奈氏、かわばた矯正歯科 濱清華氏・小林小百合氏、丸山歯科医院 山本実紀氏）
- 平成26年3月5日（第9回：1卒業式後から4月1日までの注意事項・社会人としてのマナー・卒後のサポート・就職アンケート・キャリアサポーターの参加・未内定者に対する就職支援）

④一般教養講座の受講を1年生から受講を指導し、一般教養試験が必須となる就職先へを希望する学生へ早期の対応を強化した。

⑤面接試験対応の強化

グループ面接研修を行い、就職活動に対する自覚を啓発した。ここでは、グループ面接を実施し、面接終了後グループワークを行い主体的に自身の身だしなみ・言葉使いを含む態度について振り返る支援を行った。

⑥キャリアサポーターの講演

2年生には、「保健所・病院・専門性の高い歯科診療所（予防）・企業」に勤務する歯科衛生士の4名より業務内容と就職活動の経験について聴講し受講後のレポートを作成することで、理想とする歯科衛生士像を明確にし、就職の方向性を探り具体化を支援した。3年生には、4月に「保健所」に勤務する歯科衛生士の講話を提供し、本学科のディプロマポリシーの理解をはかった。また、7月に「病院・企業」に勤務する歯科衛生士、10月に「病院・専門性の高い歯科診療所（小児歯科・矯正歯科・予防）」の5名の卒業生を含む歯科衛生士の講話を聴講し質疑応答やレポートを作成して、具体的な将来像を結ぶ支援をした。

⑦一般教養対策

キャリア支援課の実施する一般教養対策講座への参加支援と企画支援

次年度の課題

（新規）

1. 教員とキャリア支援課の連携と役割分担についての検討
2. 新卒の就職先の開拓に関わる卒後の就職支援の検討
3. 3年間を通じた就職支援の強化

17. 国家試験対策委員会 年間活動報告

医療検査学科・国家試験対策委員会 委員長 坂本 秀生

本年度の課題
臨床検査技師国家試験合格に向けての学習支援、その為の資料作成、模擬試験実施、補習プログラムの立案を行ない、受験者の意識付けを行なう。
本年度の活動方針・目標
学生国試委員会を発足し、学生の自主的な国試対策意識を高め、前期からの国試対策にはずみを付ける。履修制限者が毎年10名前後含まれ、これらの学生達も含め、全員が合格できるよう、きめ細かい対策を行う。
主な活動内容
<p>a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）：</p> <p>毎月1回の委員会にて基本的な国試対策を確認し、学生の学習進捗状況を含め1年を通して組織的に国試対策を行った。前期の模試、後期の総合演習試験の結果を解析し、要所で国試対策ガイダンスを行い、学生達のモチベーションを上げるように工夫を凝らす。</p> <p>国試対策用の資料として、2013年度版 国試対策問題集作成のため教員に執筆依頼し、編集作業を行い学生に無償配布する。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：</p> <p>4年生対象</p> <p>4月3日 M4対象:55回改変模試 88名</p> <p>5月9、16日 M4対象:56回改変模試 89名</p> <p>5月24日 学生国試対策委員との面談及び活動確認 9名</p> <p>6月10、11日 M4対象:57回改変模試 89名</p> <p>6月20日 M4生との交流会 希望者</p> <p>7月5、13日 M4対象:58回改変模試 89名</p> <p>7月25日 M4対象:国試模試 55名</p> <p>8月19日 夏補習(9月6日まで) 希望者</p> <p>8月20日 卒業生の話聞く会 希望者</p> <p>9月18日 M4対象:59回改変模試 73名</p> <p>9月20日 官報に基づいた国試受験に関する説明(教務課) 89名</p> <p>9月20日 M4対象:第1回医歯薬出版全国模試 89名</p> <p>9月25日 秋補習(10月15日まで) 26名</p> <p>10月23日 M4対象:第1回学内作成模試 87名</p> <p>11月15日 M4対象:第2回医歯薬出版全国模試 88名</p> <p>11月26-27日 臨床検査学教育協議会模試A 77名</p> <p>12月3-20日 冬補習 25名</p> <p>12月9日 国試受験申請手続き説明(教務課) 89名</p> <p>12月12日 M4対象:第2回学内作成模試 86名</p>

12月24-27日	冬休み補習	24名	
1月8日	M4対象:第3回医歯薬出版全国模試	88名	
1月20日	M4対象:第3回学内作成模試	89名	
1月22-30日	1月補習	47名	
1月26日	休日自習(2月16日まで)	希望者	
2月4-14日	2月補習	25名	
2月4-14日	国試過去問題 集中特訓	12名	
2月7日	臨床検査学教育協議会模試B	86名	
2月17日	国試受験ガイダンス、国試受験票の配付	86名	
2月18日	直前自己学修	希望者	
2月19日	第60回臨床検査技師国家試験 大阪商業大学	86名	
2月20日	国試自己採点、臨床検査技師免許申請について(教務課)	86名	
3年生対象			
4月8日	M3対象:国試対策ガイダンス	96名	
5月1日	B6カード作成用に58回国試問題の配付	96名	
7月5、12日	58回国試模擬試験	87名	
7月19日	B6カード作成用に57回国試問題の配付	96名	
8月5日	国試対策問題集の配付	96名	
9月30日	57回国試午前模試	87名	
10月4日	57回国試午後模試	87名	
10月4日	B6カード作成用に59回国試問題の配付	87名	
10月8日	57回国試 B6カード確認及び返却	96名	
12月13日	59回国試模試	80名	
12月13日	B6カード作成用に56回国試問題の配付	80名	
12月15日	59回国試 B6カード確認及び返却	80名	
次年度の課題			
<p>平成25年度の第60回国試全国平均合格率は81.2%に対し、本校は84.9%であり、全国平均を超えた。内訳として4年時までに全ての単位を取得した者の合格率は97.2%であり、全国新卒者合格率の94.4%を超えている。その一方で履修制限を受け4年で卒業出来なかった者、4年時に再履修科目のあった学生を含めた合格率は21.4%と低い。</p> <p>このことより、履修制限者への早くからの対応が課題と言える。次年度は拡大国試対策委員会も開催し、科目担当者からの意見を集約し、履修制限者を含めた成績不振者へ学科全体での対応が課題である。</p> <p>学科全体として国試対策として成績不審者へ取り組むに際し、前期か1らの模擬試験等で該当者の洗い出し、的確な計画を国試対策委員会として行う。</p>			

口腔保健学科・国家試験対策委員会 委員長 福田 昌代

本年度の課題
①国家試験不合格者への対応 ②学生への学習支援方法の検討 ③横式マークシート用紙への対応 ④キャリア支援課・就職委員会との連携 ⑤成績管理データの活用
本年度の活動方針・目標
①国家試験合格 100%を目指し、教職員全員が学生の学習状況を把握し支援する。 ②1 月末の時点で全員が国家試験合格点以上を達するように支援する。
主な活動内容
a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）： <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験については昨年度と同様、業者模擬試験 7 回、校内模擬試験 15 回実施した。 ・横式のマークシートが昨年度の国家試験より予告なしに導入されたため、当日の学生の負担や動揺を少なくするため校内模擬試験でも縦式に加え横式のマークシートを導入して実施した。 ・実施した模擬試験の結果を、学科教授会ならびに学科会議にて定期的に報告し、周知してもらった。また、成績が低迷する科目については担当教員や学科教員で補習などを行った。 ・後期特別時間割作成し国家試験対策補習を実施した。 ・成績不良者に対しては国家試験対策委員が定期的に面談し学習を促した。また、冬休み前には家庭での学習を促すため、また現状を理解していただくために保護者も含めた面談を実施した。 ・1 月中旬以降には成績不良者に対して個別の補習を実施した。 ・既卒生に対して国家試験対策を受講できるような方法を構築した。 ・自宅学習資料の作成：国家試験直前に模擬試験形式 220 問の問題を配布した。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった 第 23 回歯科衛生士国家試験合格率 新卒 100%，既卒 50% （全国合格率 97.1%）
b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）： <ol style="list-style-type: none"> ①委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 月 1 回、第 4 月曜日の午前中に開催した。 ②国家試験ガイダンスの開催 <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回：4 月 8 日（火）国家試験受験について、年間スケジュールについて 第 2 回：9 月 30 日（月）官報、後期スケジュールについて 第 3 回：12 月 18 日（水）国家試験受験案内、願書作成 第 4 回：12 月 20 日（金）願書作成 第 5 回：2 月 28 日（金）国家試験受験に対する心構え、受験票配布 第 6 回：3 月 5 日（水）自己採点、免許申請について ③校内模擬試験の作成（過去国家試験問題ならびに模擬試験問題を改変）

<p>④成績不良者の3者面談の実施（12月14日～18日）</p> <p>⑤DES歯学教育スクール夏期講習会学校開催：7月29日（月）</p> <p>⑥DES歯学教育スクール冬期講習会紹介</p>
<p>次年度の課題</p>
<p>①模擬試験成績不良者の受験に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績不良で学習姿勢も不良な学生の受験に対する対策について <p>②学生への学習支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験学習への姿勢が不良な学生への対応について ・過年度生の学力向上について ・学生の主体的な学習への取り組みの支援について ・自習学習教室の確保について <p>③成績管理データの活用</p> <p>今年度と同様に学科会議等で全教員に学生の成績状況を配布し周知してもらおう。</p> <p>④就職委員会との連携について</p> <p>成績不良の学生への就職支援については就職委員会と密な連携が必要である。</p>
<p>活動内容の補足</p>
<p>委員会報告</p> <p>第1回：4月22日（月）</p> <p><審議事項></p> <p>1. 平成24年度国家試験対策の振り返り（問題点および課題）</p> <p><報告事項></p> <p>1. 確認テストについて 2. 国家試験ガイダンスについて 3. 国家試験対策関連予算について</p> <p>第2回：5月27日（月）</p> <p><審議事項></p> <p>1. 本年度の委員会方針について 2. 国家試験不合格者・既卒者への対応について</p> <p>3. 「国家試験対策補講受講上の注意」プリントの作成について</p> <p><報告事項></p> <p>1. 第1回校内模擬試験の実施 2. 参考書の購入について</p> <p>第3回：6月24日（月）</p> <p><審議事項></p> <p>1. 後期時間割について</p> <p><報告事項></p> <p>1. DES夏期講習（基礎科目）の実施について 2. 問題集の購入について</p> <p>3. 写真撮影について 4. 夏期課題について</p> <p>第4回：7月25日（木）</p> <p><審議事項></p> <p>1. 後期国家試験対策時間割について 2. 校内模擬試験内容について</p>

3. 夏期課題について 4. 国家試験不合格者・既卒者への対応について

<報告事項>

1. DES 夏期講習（基礎科目）の開催について 2. 第2回校内模擬試験について
3. 問題集の購入について

第5回：9月30日（木）

<審議事項>

1. 校内模擬試験試験監督について

<報告事項>

1. 既卒生の現状について 2. プリンターの件

第6回：10月28日（月）

<審議事項>

1. 第4回校内模擬試験、第1回DES試験結果について 2. 補習の出席状況について

<報告事項>

1. 成績不良者の対応について

第7回：11月25日（月）

<審議事項>

1. 成績不良者の対応について 2. 願書記入について

<報告事項>

1. 11月28日実施の医歯薬校内模擬試験結果について 2. 補習の出席状況について
3. 参考書・問題集の購入日について

第8回：12月20日（金）

<審議事項>

1. 成績不良者の対応について（今後の補習に予定について）

<報告事項>

1. 三者面談の結果について 2. 願書記入の結果について

第9回：1月10日（金）

<審議事項>

1. 成績不良者の対応について（今後の補習に予定について）

第10回：2月4日（火）

<審議事項>

1. 成績不良者の対応について（今後の補習に予定について） 2. 直前ガイダンスについて
3. 来年度予算について

第11回：3月27日（木）

<審議事項>

1. 平成26年度国家試験ガイダンス等について

<報告事項>

1. 第23回歯科衛生士国家試験結果について

18. 臨地実習委員会 年間活動報告

a. 医療検査学科・臨地実習委員会 委員長 岩井 重寿

本年度の課題
<ul style="list-style-type: none">・医療現場の理解による医療人としての再認識の指導を行う。・臨地実習の実際をとおして問題点の検討と教育効果の向上を図る・新規臨地実習施設の開拓に努める。
本年度の活動方針・目標
教育現場や施設またはその両者間に存在しうる問題点の提起・改善を行うとともに学生に望ましい臨地実習を目指す。また、学生には医療現場での対人対応や検査検体の扱いについての周知徹底に努める。さらに、学生数の増加が予想されることから実習に支障が来たさないよう対応策をとる。
主な活動内容
<p>a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u>：</p> <p>実習に先立ってガイダンスで実習姿勢、心構え、モラル、ユニバーサルプレコーションなど医療機関で必須事項を指導した。また、今年度から学生自身で実習成果が把握できるよう実習記録ノートに“実習目標”と“まとめ”の頁を加えた（実習記録ノート）。実習終了後に実習状況報告を纏めて実習先での実際を把握した（学科会議、臨地実習事前打ち合わせ会）。学内と学外教育における解離の有無を調べるために実習部門のアンケート調査を実施した。いくつかの施設を訪問して新たな施設が開拓できた。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ②ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u>：</p> <p>定例委員会は毎月第一月曜日に開催した（議事録）。また、各種の事項に関する検討が委員間で随時に実施された。</p> <p>【4月】 1) 臨地実習施設に今年度のご挨拶を学科長と委員長の連名で発送した（今年度から就任・担当）。2) 委員会で運用計画を立案した。3) 臨地実習報告会の素案を作成した（学科会議議事録）「関連事項；施設への案内状を発送」。</p> <p>【5月】 1) 11日（土）13:00～17:00に実習施設指導者の参加のもとで臨地実習発表会をM4学生（12演題）とM3学生、教員で開催した「関連事項；学生ガイダンス、学生発表資料の事前確認と保管、次第作成」。2) 委員会で学生の実習先配属案作成に着手した。</p> <p>【6月】 1) 実習受け入れ可能人数の調査のため51施設に書類を発送した。</p> <p>【7月】 委員会にて1) 実習施設からの受け入れ人数の状況を確認した。2) 臨地実習事前打ち合わせ会（11月16日）と学生への実習ガイダンスの日程案を作成した（学科会議議事録）。3) 実習状況報告書を取り纏めた（学科会議議事録）。4) キャリア支援課に予防接種の実施状況を確認して今後の円滑な進行をお願いした。</p> <p>【9月】 1) 実習学生（83名）の配属先と巡回担当教員を最終立案した（学科会議議事録、教授会承認）。2) 新規実習施設の開拓の是非を検討した。3) 実習記録ノートの作成に着手した「関連項目；内容確認、印刷依頼、校正」。</p>

【10月】1) 臨地実習のありかたについて議論した。2) M科での新規実習施設の開拓以来と委員会案施設の開拓承認を得た(学科会議議事録)。3) 臨地実習事前打ち合わせ会の実施運用計画をたてた。

【11月】1) 臨地実習事前打ち合わせ会(17施設18名)を実施して昨年度の反省点・・要望・改善案を協議するとともに今年度のお願いを行った(配布資料)。2) 実習に臨む学生を対象に臨地実習ガイダンスを実施してその意義や姿勢などを述べた。また、ワクチン接種実施について最終喚起した。

【12月】11月下旬から継続して巡回教員が学生と実習施設へ赴き実習準備態勢を整えた。

【1月～3月】1) 実習病院を巡回して学生の状況と問題点などを確認した。2) 新規実習施設を訪問して依頼した。3) 成績評価を取り纏めたのち、各施設へのお礼を書面で実施した。

次年度の課題

- ・ 臨地実習と学内教育との相関性を再確認して教育効果が高められるよう努める。
- ・ 臨地実習に向けた各種姿勢の指導を充実させる。
- ・ 臨地実習学生数に余裕をもって対応可能な基盤を築くため、施設の開拓や受け入れ人数の観点で継続的遂行が必要である。

b. 看護学科・臨地実習委員会 委員長 生島 祥江

本年度の課題

- ・ 次年度の実習計画；3年生の臨地実習が新カリキュラム履修学生となるため、早期より関係施設との調整をする。また、課題別総合実習の時期も1年早い新カリキュラムの時期に合わせ、関係施設と調整をする。さらに、新病院へ移転したあるいは移転予定の病院と早期に実習受け入れ状況を確認し調整していく。
- ・ 次年度の課題別総合実習の施設を、履修学生数と指導教員に見合わせて確保する。
- ・ 学校主催の臨地実習指導者研修会の内容検討。

本年度の活動方針・目標

臨地実習に伴う問題を明らかにしながら、臨地実習が効果的に実施できるように取り組むとともに、次年度以降の実習計画に反映させていく。臨地実習指導者連絡会および研修会を通して、指導者の資質維持・向上に取り組んでいく。

主な活動内容

a. 目標達成に向けた活動内容(根拠資料・記録)：

- ・ 毎月第3月曜日4時限を定例として委員会を開催した。
- ・ 臨地実習において発生したアクシデント、インシデントを定例委員会で報告し、原因と対処を確認した。
- ・ 次年度の臨地実習計画案は、施設・他校との調整を経12月にほぼ立てることができた。
- ・ 臨地実習指導者連絡会は、臨地実習科目の目的・目標等の確認と学生の実習後の目標到達状況を確認するために、実習施設ごとに適宜開催し臨地実習指導者との連携を図った。
- ・ 臨地実習指導者研修会は、3月7日にテーマ「大学における看護実習のあり方ー学生の学び(学習)を促進するために、教員・指導者がどう関わるかー」でのもと、口腔保健

学科 柳敏晴教授の基調講演、看護学科教授生島がグループワークに向けて講演し、グループワークを実施し、終えた。

尚、詳細は看護学科臨地実習委員会議事録参照

目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：

- ・ 毎月第3月曜日4時限を定例とし、今年度は11回委員会を開催した。
- ・ 平成26年度の臨地実習計画案を、関連諸機関と調整を重ね2月学科会議にて報告した。
- ・ 各臨地実習科目の計画案を学科会議、教授会で承認を受けて実施した。
- ・ 臨地実習指導者連絡会を関連臨地実習科目に応じて企画・運営した。臨地実習中は、実習施設と随時連絡調整した。
- ・ 3月7日実施した臨地実習指導者研修会を企画・運営した。（学外参加者：37名、学内参加者：25名）
- ・ 臨地実習において発生したアクシデント、インシデントを委員会で共有した。
- ・ 看護学科教員全員で学生指導する看護活動基礎実習と課題別総合実習の企画を行った。次年度の臨地実習要綱の内容を見直し一部修正した。

尚、詳細は看護学科臨地実習委員会議事録参照

次年度の課題

- ・ 平成27年度もこれまでと同様に、早期から、実習施設、看護学校他関連諸施設との調整を行い、学生の学習成果が得られるような臨地実習計画立案をめざす。
- ・ 平成26年度の課題別総合実習計画は、履修学生数を見込んで施設の確保を目指したが、十分とは言えないのでさらに施設確保に努力する。
- ・ 学内の感染症対策移行期にある在学生に対する対策を明確化する。

c. こども教育学科・臨地実習委員会 委員長 多田 琴子

本年度の課題

- ・ 基礎実習Ⅰに小学校見学実習を含める方向での新規実習先の開拓をする。
- ・ 本年度開設された教職支援センターとの連携を図る。
- ・ 今年度より実施する介護等体験及び小学校実習においては、各市町村教育委員会が指定する日程で行われるので、実習期間等の情報収集を行う。

本年度の活動方針・目標

- ・ こども教育学科における実習科目の適正な運用を推進する。
- ・ 4年間の実習を見通し、学生の希望する進路に合わせた実習が滞りなく行われるようにする。
- ・ 新規実習施設を含む実習施設との連携を図り、実習内容の確認と充実を図る。

主な活動内容

a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）：

- ・ 基礎実習Ⅰにおいて、小学校の見学を組み入れる方向で調整を図った。平成26年度からの実施に向けて、近隣の小学校数校に依頼し、実習施設として追加することが出来た。
- ・ 教職支援センターとの連携では、実習箇所及び実習日程を知らせ、学生の動向の共有を

図った。

- ・介護等体験及び小学校実習においては、各市長村教育委員会が指定する日程で行われるので、実習期間等の情報収集を行った。3年生で行う小学校実習については、殆どの学生が、10月実習で調整できたが、1名、出身小学校との日程調整で5月実習になった。学生の実習に備えた科目履修や欠席が重なることを踏まえ、次年度に向けてさらなる情報収集と調整が必要である。
- ・実習科目の適正な運用については、本年度より行った小学校基礎実習（スクールサポーター）・基礎実習Ⅱ（保育園・子育てセンターえん・附属幼稚園）・施設実習Ⅰ・介護等体験事業（特別支援学校）の実習において、学生の免許取得希望等の調整と施設別実習指導を各担当者が適切に行った。
- ・学生の希望する進路に合わせた実習については、学生が希望する全ての実習を滞りなく体験することができた。しかし、残念なことに1名は実習日誌の提出その他において不備があり、再履修させることにした。
- ・新規開拓した施設を含む実習施設との連携では、各担当者が責任を持って実習内容の確認と充実を行い、臨地実習委員会並びに学科会議において全専任教員で状況を共有した。
- ・実習科目における履修規則及び履修細則においては、学生の教育効果とそれを勘案して調整を重ねたが、継続審議とする。

<根拠資料：E科臨地実習委員会議事録参照>。

目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：

- ・臨地実習委員会8回（25年4/8.5/20.7/8.9/30.11/7.12/2.12/16.3/10）開催した。
- ・2年目のE科臨地実習委員会としての小学校担当に一人の新メンバーを迎え、保育福祉関係3名、幼稚園2名、小学校2名と教務事務から1名の8名で活動を始めた。2年次は基礎実習Ⅱ・施設実習Ⅰ・小学校基礎実習・介護等体験・保育所実習Ⅰの実習を行った。全ての実習巡回で各施設担当職員及と担当教員とが丁寧な学習内容を確認し、実習施設との連携と実習内容の充実を図った。実習後のレポートでは、学生自身の学びに深まりが読み取れた。実習巡回の報告は学科で行い、委員会以外の教員とも共有した。
- ・次年度実習に向けては、各担当者が地域や教育委員会並びに学校園所施設と連絡を取り、その経過を臨地実習委員会において報告し、共通理解した。

<詳細はE科臨地実習委員会議事録参照>

次年度の課題

- ・平成27年度開設の課題別実習について、将来の職種及び取得資格を見据えた適正な実習が出来るように次年度中に整えておく。
- ・志望する進路に迷いがある学生の、実習及び進路変更に対応する指導のありようを検討する。
- ・それぞれの実習における心得等の調整を図り、共通した実習の手引き書作成に向けて継続して検討する。

d. 口腔保健学科・臨地実習委員会 委員長 上原 弘美

本年度の課題			
<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度前期実習内容の見直し。 臨地実習の前後また期間中の学内指導の充実。 			
本年度の活動方針・目標			
<ul style="list-style-type: none"> 年間スケジュールを作成し、滞りなく臨地実習が実施できるようにする 口腔保健衛生学実習Ⅱ（前期実習）の実習内容の見直し 定例（1 回／月）に臨地実習委員会を開催し、委員全員の意見が臨地実習に反映できるようにする 臨地実習指導者会議を開催し、当科の教育方針を臨地実習指導者に理解していただき効果的な実習ができるようにする 			
主な活動内容			
<p>a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）：</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間スケジュールを作成し、委員に周知した。全員がスケジュールを把握することで、円滑に準備を進め、問題なく臨地実習をおこなうことができた。 平成 25 年 8 月 22 日（木）第 1 回臨地実習指導者会議、平成 26 年 3 月 20 日（木）第 2 回臨地実習指導者会議を開催した。 <p>第 1 回の会議では実習内容の説明に加え、本学科の教育内容を各科目担当者から説明するとともに、臨地実習での学びを学生の実習後レポートを提示して紹介した。その後実習指導のあり方について意見交換会を開催した。指導者の方々に現在の教育プログラムの考え方・臨床実習のあり方を理解していただくよい機会となった。第 2 回の会議では上原より「歯科衛生士教育における臨地実習の位置づけ」についての発表ののち効果的な指導について指導者と教員によるグループワークにより意見交換をおこなった。当学科の実習目的を十分に理解していただくことができたと思う。（臨地実習指導者会議議事録）</p> <ul style="list-style-type: none"> 口腔保健衛生学実習Ⅱで昨年度までおこなっていた人間ドックでの実習をおこなわないこととした。その理由は、他の実習施設での実習（障害者や要介護者を対象とした実習）とは実習内容が大きく異なっており、学生間の学習内容に差が生じないようにするためである。 臨地実習会議は、定例で毎月第 3 月曜日 9:30～とし、第 1 回 4 月 15 日（月）から第 11 回 3 月 17 日（月）まで全 11 回を開催した。今年度は短期大学部の第三者評価の会議と日程が重なることが多々あり、日程調整に苦心したが 7 月を除き毎月開催することができた。また授業期間中は月曜日午前中に専任教員の授業があるため、前期・後期ともに委員全員の出席がかなわない会議もあった。開催後は議事録を輪番制で作成し、不参加だった委員にも可及的に速やかに情報を伝達し共通理解できるように努めた。（臨地実習会議議事録） <p>目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p>			
<p>b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨地実習期間 			
前期	4 月 16 日（火）	地域口腔保健支援実習Ⅰ（保護者実習含む）	3 年生

	～7月28日(土)	診療補助実習Ⅱ 口腔保健衛生学実習Ⅱ	
後期	10月10日(木) ～2月8日(土)	診療補助実習Ⅰ 総合歯科実習 口腔保健衛生学実習Ⅰ	2年生
通年	6月・11月	地域口腔保健支援実習Ⅱ	3年生

・臨地実習指導者会議 2回開催 (平成25年8月22日・平成26年3月20日) (臨地実習指導者会議議事録)

・臨地実習会議 11回開催 (平成25年4月15日・5月20日・6月17日・8月2日・9月9日・10月21日・11月18日・12月16日・平成26年1月20日・2月17日・3月17日) (臨地実習会議議事録)

・毎回の実習前には、科目担当教員による学内指導・実習が効果的におこなわれた。また毎週の帰校日には必要な事項の伝達・実習日誌の確認など学生指導をおこなった。実習後には科目担当者によるカンファレンスを実施し、実習を振り返り、次のステップへの目標を学生一人ひとりに気づかせる機会とした。

・1年間に渡る実習の総まとめを7月31日におこなった。グループワークをすることで、1年間の実習による成果を学生自身が見つけ出すことができた。

次年度の課題

・平成26年度後期実習を見直し、学内歯科診療所を有効的に活用できる臨地実習の内容を組み立てる。

・後期から臨地実習が始まる2013年度生は、臨地実習対象学生数が前年度よりも20名程多い。全学生が効果的に実習できるよう新規の実習施設を確保する。

・臨地実習指導者会議を開催し、臨地実習指導者の本学科の教育への理解を促す。

e. 看護学科通信制課程・臨地実習委員会 委員長 中野 順子

本年度の課題

- ・委員会組織活動の充実
- ・実習依頼の一元化の強化
- ・4月の実習オリエンテーションのあり方の検討
- ・新規の施設(関東進出に向けての)確保に向けた取り組み

本年度の活動方針・目標

- ・年間活動スケジュールに基づく臨地実習委員会の定例化及び、計画的な活動の推進
- ・全施設の訪問時期の一定化を図り、全領域の一元化の徹底
- ・実習事前・国試オリエンテーションの同時開催の実施に向けた内容の検討
- ・年度初めより新規施設確保に向けて早めの活動開始

主な活動内容

a. 目標達成に向けた活動内容(根拠資料・記録)：

- ・委員会を月1回開催し、年間の活動計画のスケジュールに基づき委員会活動を実施した。
- ・実習施設の訪問時期と担当者を決め、年内にはほぼ次年度の実習依頼を終了することが出

来た。一元化については、基礎・看マネ実習卒の依頼と一覧表示を行い、委員による全体把握が可能な委員会活動とした。

- ・26年度実習事前・国試オリエンテーション実施の為の検討を行った。学生の参加率を上げる為に実習事前オリエンテーションでは、各領域の説明時間を25分から45分へ延長し、内容の充実を図るよう計画した。
- ・全体オリエンテーション配布資料の内容を検討し「臨地実習のしおり」に掲載することにし、「指導者用しおり」についても検討し、26年度より新規施設への説明時にも対応可能な内容に見直しをした。
- ・新規施設確保を早めに開始した。関東地域についてはなお強化が必要である。

目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：

- ・4月、各領域別実習オリエンテーションの実施、運営（4回）
- ・5月、実習・実習スクーリング配置への準備作業
- ・6月、各領域別実習の配置作業及び調整と配布資料の送付
- ・7月～10月、施設実習前オリエンテーションの実施・同行、実習期間中の学生対応の為の当番実施。（実施の為の連絡メモの作成・使用）
- ・10月～12月、次年度の実習依頼と調整の為の施設訪問の実施（112施設）
- ・12月、基礎・看護マネジメント実習オリエンテーションの実施（4回）
- ・1月、実習終了後の施設向け報告書（実習のまとめ）の作成と送付（109施設）
- ・臨地実習指導者会への参加（要請のあった施設約10施設）

次年度の課題

- ・関東地域の実習施設の確保
- ・関東でのオリエンテーション実施に向けての検討
- ・年間スケジュールに基づく運営の継続と充実

19. 通信教育委員会 年間活動報告

委員長 長尾 厚子

本年度の課題
1) 受験者数の確保：関東方面進出を具体化し、広域的な受験者確保に努める。 2) 認証評価の受審に向けての準備を行い、適正な審査結果を得ると同時に、今後の課題を明確にする。 3) 国家試験合格のための支援を強化する。
本年度の活動方針・目標
<活動方針・目標> 1) 受験者数の確保に向けて、関東方面進出を具体化し、広域的な受験者確保に努める。 ①次年度より定員を 350 名から 250 名に減少し、関西方面だけでなく、関東方面での受験者の確保に向けた対策を検討する。 ②関東方面進出に向けた、実習施設の確保に向けて検討する。 2) 認証評価の受審に向けての準備を行い、適正な審査結果を得ると同時に、今後の課題を明確にする。 ①認証評価準備委員会を中心に評価内容について話し合い、今後の課題を明確にする。 3) 国家試験合格のための支援を強化する。 ①国家試験対策委員会の活動を支援する。
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u> ：通信教育委員会議事録 1) 受験者数の確保 昨年度は199名の受験者であったが、今年度は182名であった。近畿地方の受験者の確保については、兵庫県・奈良県・大阪府・滋賀県・京都府の看護協会主催の進学説明会に参加した。 今年度は関東地方進出に向けて、神奈川県・東京都・千葉県看護協会へも説明および入試要項等の配布を依頼した。広報活動も、関東地方広域にわたってリビング誌等に掲載し、受験生確保に向けた。結果、関東地方からの受験者は約30名近くとなった。 2) 認証評価に向けての準備、および受審結果からの課題について検討する。 認証評価に向けての準備については、準備委員会が中心となり、昨年度より細部にわたって準備した。9月に短期大学基準協会の受審の結果、「適正」との評価を得た。また、通信制課程では授業評価についての検討課題が明確になり、課程内FDで取り上げ、検討を進めている。 3) 国家試験合格のための支援 103回看護師国家試験の合格率は新卒71.6%、既卒34.6%であり、昨年度より低下している。支援対策として、専門基礎分野の強化のために、業者模試・学習会・DVD上映会などを実施した。 目標達成度の評価：1.できた ②.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった
b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u> ：通信教育委員会議事録 通信教育委員会は毎月第2月曜日を定例にし、平成25年度は11回開催した。構成メ

ンバーは、通信教育委員長・通信制課程の専任教員と事務職員である。

1) 教育課程及び単位認定に関する事項

①既修得単位の認定について

放送大学では毎年開講科目の変更や追加があるため、入試要項作成に向けて新しく開講された科目を確認し既修得科目を検討、追加した。また、他大学・専門学校での既修得科目の認定についても教授会での審議事項として提出するための審議を行った。

2) 授業、試験および単位の認定に関する事項

授業については、時間割および会場について検討した。試験の実施については、会場試験・CCNシステムでの試験の実施・運営について検討した。

3) 入学試験・広報活動に関する事項

一般入試・推薦入試に加えて、受験生の確保及び関東進出に向けて自己推薦入試を2回追加し、計6回の入学試験を実施した。さらに再入学者の選考を実施し、入学者182名（再入学者3名を含む）であった。

広報活動は、看護協会の進学説明会に出席し、学校案内・資料配布を行った。また、関東方面をはじめ、地方紙などの紙面広告を幅広く行った。今年度資料請求数は607と昨年度（649）より減少となった。

4) 入学・卒業・退学・休学・除籍等学生の身分に関する事項

卒業認定に関する通信制課程原案、および、退学・休学・除籍・復学についても教授会の審議に向けて準備した。

5) 学生の賞罰に関する事項

「水田亘記念賞」の受賞者について検討し、決定した。

6) スクーリングおよび学外実習に関する事項

スクーリング授業科目の実施に当たって、地方会場（岡山・京都・東京）の予約が1年前であることから、次年度の時間割について検討した。また、実習および実習スクーリングについても期間・時間割について検討した。

7) 国家試験対策

模擬試験の実施、受験手続、国家試験に関する事項について検討した。

8) その他

①毎月のレポート提出状況の報告：全科目のレポート提出状況の把握。

②再提出レポート、年度替わりのレポートの取り扱いについて検討。

③認証評価受審に関する事項：受審に向けての準備および、結果からの課題の確認。

次年度の課題

1) 受験者数の確保

①関東地方の受験者数の確保

②関西地方の受験者数の確保（特に兵庫県内）

2) 実習施設の確保

①関東地方の実習施設の確保

②母性・小児看護学領域の実習施設の確保

3) 国家試験合格に向けての支援の強化

20. 遺伝子組換え実験安全委員会 年間活動報告

委員長 澤田 浩秀

本年度の課題
平成 23 年度に「神戸常盤大学遺伝子組換え実験安全管理規程」が制定され、さらに遺伝子組換え実験安全委員会が設立された。本年度は、医療検査学科学生に対する教育訓練の他、実験施設の安全整備を実行すること、可能であれば遺伝子組換え実験を利用した研究成果発表会（または学外研究者によるセミナー）を行う。
本年度の活動方針・目標
1. 新たな遺伝子組換え実験計画に対する申請書の審査 2. 遺伝子組換え実験施設としての緑風館 5 階に立ち入る可能性のある学生（医療検査学科）に対する教育訓練（講習会）の実行 3. 実験施設の安全整備および遺伝子組換え実験を利用した研究成果発表会の企画
主な活動内容
a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）： 1. 平成 25 年度は、新たな遺伝子組換え実験計画承認申請書が 3 件提出された。3 件とも平成 25 年 6 月 28 日に委員会を開催し、審議を行った。いずれも機関承認実験である。 2. 医療検査学科学生に対する教育訓練は、学科ガイダンスの行事として平成 24 年 4 月 3 日（水）に 2 回生に対して実施した。 3. 本年度もほとんど実行できなかった。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった
b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）： 1. 平成 25 年度に提出された遺伝子組換え実験課題、審査対象者、審査結果は下記の通りである。 ①実験課題名：変異型フィブリノゲン A α 鎖を用いたフィブリノゲン生合成に関する研究 審査対象者：医療検査学科助教 澤村暢 審査結果：承認 ②実験課題名：アカンソアメーバにおける遺伝子型決定の解析 審査対象者：医療検査学科講師 高松邦彦 審査結果：承認 ③実験課題名：ヒト DSCR9 遺伝子および DSCR10 遺伝子の機能解析研究 審査対象者：医療検査学科講師 高松邦彦 審査結果：承認 2. 教育訓練は、坂本秀生安全主任者を講師に迎え実施した。教育訓練は約 1 時間の講習会として行われ、全員の出席を前提とした。教育訓練の有効期間は 3 年間であり、2 回生以上の教育訓練受講者は卒業時まで教員同伴の元で緑風館 5 階の入室が可能である。
次年度の課題
次年度も、新たな遺伝子組換え実験計画に対する申請書の審査、医療検査学科 2 回生に対する教育訓練の実施はもとより、できる限り実験施設の安全整備を実行するよう心がける。

21. 国際交流センター 年間活動報告

センター長 覚道 健一

本年度の課題
<ol style="list-style-type: none">1. フィリピン・中国との交流チャンネルの開拓を検討する。2. 「大学コンソーシアムひょうご神戸」の事業を拡大する。3. 学生が留学生と交流できる仕組みをつくる。4. 学生を海外に送り出す環境を作る。5. 教員の国際交流活動を支援する。6. 学生の外国語学習を促進する。
本年度の活動方針・目標
<ol style="list-style-type: none">1. 学生のボストンなどでの海外研修、ネパール研修生の受け入れ事業を成功させ、学生の国際交流への誘いを行なう。2. 新規事業を開拓する。3. 学生の目を国際交流に向ける。
主な活動内容
<p>a. 目標達成に向けた活動内容(根拠資料・記録):</p> <p>7回の委員会を開き、課題と予定について議論し、可能なものについては実施した。</p> <p>目標達成度の評価:1.できた 2.ほぼできた ③あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>b. 委員会・組織の主要な活動内容(根拠資料・記録:議事録参照):</p> <ol style="list-style-type: none">1. 大学ホームページ、広報誌を活用し、国際交流センターの活動報告などを掲載し、学生、教員にアピールする。2. 11月23日(土)学祭での学生発表を実施した。3. ネパール研修生を以下の日程で受け入れた。 12月2日(月)【ウェルカムパーティー】 12月3日(火)幼稚園訪問 12月6日(金)駒ヶ林小学校訪問【サヨナラパーティー】 12月7日(土)京都訪問4. ICA 草の根事業の一環でネパールからの訪問団5名が1/26~2/3まで来日し来学した。5. フィリピン サン・ラザロ病院研修実施を本年度末(3月16-23日)に行なう。
次年度の課題
<ol style="list-style-type: none">1. 新年度ガイダンスにて、国際交流センターの活動について各学科の委員がガイダンスを行ない、学生にアピールする。2. ネパールの【リージョナルカレッジオブサイエンスアンドテクノロジー校】より本学との交流の打診があり、受け入れについては、航空運賃先方負担、日本滞在費については神戸常盤大学負担として協定を結び、次年度2名分の予算を申請することとした。3. 新設国際交流センターの予算確保。

活動内容の補足

以下の要望書を作成し、次年度活動の課題を克服しようと計画している。

2月25日、国際交流センターは、平成25年度第7回委員会を開催し、国際交流センター委員会の総意として以下の要望を提出いたします。

1) 委員会構成についての要望

現在各学科代表者で構成されている国際交流センターの委員会構成員ではカバーされていない部門がある。国際交流には多くの重要な関連部署があり、教員からは①語学系教員（英語担当者：山崎教授）、②国際保健医療活動担当教員（医療検査科：坂本教授、看護学科：森松教授）などの参加が望ましい。また学生部、新たに設置された教養部の要望など踏まえ、来年度委員選考に際して配慮いただきたい。

2) 予算についての要望

国際交流委員会2013年度予算は、外部予算、同窓会予算に加えて、ネパール交換留学生に関する予算が計上されたのみである。2014年度予算についても新たな事業の予算申請はされていない。そのため、学生の国際交流の振興、深化と教員の国際交流活動への支援など、新規事業の創設、企画、実行に制約を生じている。新設されたセンターであるので、国際交流センター委員会要望を取り入れた予算申請、新規事業を可能にする予算の確保を要望する。

22. 地域交流センター 年間活動報告

センター長 大森 雅人

本年度の課題
共に生き、共に学ぶ「共生」の理念の基に、10年以上にわたり、学園の内外で広範な学びと地域交流および国際交流における諸活動を展開してきたエクステンションセンターが昨年度末に発展的に解消し、新体制のもとに今年度より「地域交流センター」として、生まれ変わった。「地域活性化事業」、「教育・研究事業」、「ボランティア（一般）事業」の3つを柱に、これまで築き上げてきた「地域とのパイプ」を活かし、学生の課外活動の場を創出するとともに、地域課題に対して、学園を挙げて、取り組む体制を整備する。
本年度の活動方針・目標
<ul style="list-style-type: none">・ 学園の地域交流および地域貢献活動の総合窓口として機能する・ 地域活動の拠点である「わいがやラボ」の広報活動を行う・ 既存の地域活動に加え、新たに地域の活性化に繋がる事業を計画する
主な活動内容
<p>a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u>：</p> <p>近年、地域からのニーズが多様化する中で、学園の知財を使って、地域ニーズに即した事業を展開するとともに学生の「学びの場」を創出した。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 公開講座・ 学生の地域活動・ 長田区との連携活動・ 離島プロジェクト・ TOKIWA 健康フェア・ コミュニティハウスの開設 <p>目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p> <p>b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u>：</p> <p>1. 地域活性化事業</p> <p>高齢化社会の課題である高齢者の健康と福祉を中心とした公開講座などの活動を行った。（9講座を実施し受講者数176名であった）</p> <p>TOKIWA 健康フェア2013では、健康をテーマに25を超えるブースを出店し、過去最多となる1,000名を超える来場者を記録した。</p> <p>2. 教育・研究事業</p> <p>平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された「災害対応を組み込んだ機動的サポートシステム（神戸常盤モデル）の構築」（通称：お元気でっCar）を活用した健康サロンを地域で展開するとともに、神戸市長田消防署の「安全あんしんまちづくり研究助成制度」に採択された学生（3名）による研究活動（「巨大災害に備える長田の避難所モデル構築のための基礎的研究－地域住民が避難所に寄せる期待－」）を行った。</p> <p>3. ボランティア（一般）事業</p>

新たに設置された地域活動拠点「わいがやラボ」の中心に、新企画を立ち上げた。

- ・ 「わいがやラボ」リーフレット作成
- ・ フェイスブックの開設
- ・ 離島プロジェクト（小豆島活性化事業）
- ・ 学生企画イベント（SS フェス）

など、各学科の専門性を活かした様々な活動を行い、地域貢献を果たしながら、その経験を自らの成長に役立てている。

次年度の課題

今年度組織された新しいセンターのため、学内外および学生に対して十分に広報が行えなかった。またセンター委員も、手探りで事業計画を行った面もあり、より計画的に事業を展開したい。なお、各活動自体は、学生が中心に活発に実施することができた。

- ① 地域交流センターの運営体制の確立
- ② わいがやラボ、地域交流センター全体の広報活動
- ③ コミュニティハウス事業への学生の参画

23. 神戸常盤ボランティアセンター

センター長 中田 康夫

本年度の課題
<ul style="list-style-type: none">・これまで教職員が主体となり活動と学生を繋げる形が多かったが、学生が主体となり学生自身が活動と他の学生を繋ぐボランティアセンターを目指し、学生スタッフの育成に取り組む。・昨年度より課題に挙がっている有事の際（特に災害時）のボランティア活動者の養成に向け、登録研修制度の設立を目指す。・引き続き幼稚園・高等学校との連携を強化する。
本年度の活動方針・目標
<ul style="list-style-type: none">・各学科の特色、および学びを活かし、活動を行う・大学のみでの活動にとどまらず、高等学校、幼稚園を巻き込んだ幅広いボランティア活動を展開する・長田区社会福祉協議会と連携することで、地域福祉全般での活動フィールドとつながりを持つ
主な活動内容
<p>a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u>：</p> <ul style="list-style-type: none">・2012年度のボランティア登録者数 163名に対し、177名と年々増加傾向にある。また、2011年度より課題に挙がっていた学科間の学生の偏りについても、ほぼ均等になりつつある。・学科に特化した活動の1つとして、O科は「Tooth☆ピッカーズ（子どもたちへの歯磨き指導ボランティア）」、M科は兵庫県細胞検査士会を中心とした「LOVE49 キャンペーン in KOBE（子宮頸がん予防啓発）」を積極的に取り入れ、継続した活動を行っている。・高等学校では、新入生に対してボランティアセンターガイダンスを実施し、これまでの高校ボランティア部との連携はもちろんのこと、ボランティア部以外の生徒に対してもボランティア・コーディネートを行い、多くの生徒が活動を行った。幼稚園では、これまでボランティアセンターが関わってきた「1.17KOBEに灯りをinながた」のろうそく作りを継続して実施した。・有事の際のボランティア活動者の養成については、東日本大震災復興支援活動において参加学生への事前オリエンテーションと振り返りを徹底し、学生自身が災害支援について考える時間を設けた。また、滋賀県高島市での水害支援活動、フィリピン台風被害への募金活動等、学生が常に自身の身近な課題として災害を捉えることができるよう積極的に活動を促進した。・学生スタッフの育成については、本学のカリキュラムの特性上、常に学生が自由に活動できる状態ではないが、活動の中で学科・学年問わず交流が生まれ、緩やかな繋がりの中で相互に教え合いながら行う活動が増えている。 <p>目標達成度の評価：1.できた ②)ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p>b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u>：</p> <p><2014年3月末現在のボランティア登録者></p> <p>ボランティア登録者数 合計 177人（内訳 大学 121人 高校 56人）</p>

医療検査学科 28 人（内訳 1 年 6 人 2 年 3 人 3 年 9 人 4 年 10 人）
 看護学科 32 人（内訳 1 年 14 人 2 年 6 人 3 年 8 人 4 年 4 人）
 こども教育学科 18 人（内訳 1 年 12 人 2 年 6 人）
 口腔保健学科 43 人（内訳 1 年 10 人 2 年 8 人 3 年 25 人）
 高等学校 56 人（内訳 1 年 17 人 2 年 32 人 3 年 7 人）

<2013 年度活動件数>

本 VC が主体あるいは他団体との協働による事業・・・21 件

地域団体・福祉施設等からのボランティア依頼件数・・・30 件

<活動の概要>

行事名	内 容
LOVE49 キャンペーン in KOBE	子宮頸がん予防啓発
長田在宅支援センター夏祭り	夏祭り手伝い
長田区自立支援協議会つどう部会	発達障害児を対象にした行事の企画、実施
かえっこバザール	かえっこバザールの運営
東日本大震災復興支援活動 「ときわ手作り屋台村 in 宮古」	岩手県宮古市にて夏祭りを企画、実施
滋賀県高島市水害支援ボランティア派遣	水害により浸水した被災家屋の後片付け
おやつはべつばら	Tooth☆ピッカーズによる歯磨き指導
TOKIWA 健康フェア	炊き出し、被災地支援活動報告
UD フェア	UD カフェの企画、実施
一七市拡大版 2013	ベビーカステラ、射的ブースの企画、実施
学祭	東日本大震災復興支援物産展、フィリピン台風支援募金
サンタが家にもやってくる	預かったプレゼントをこどもたちに届ける
1.17 KOBE に灯りを in ながた	炊き出し、募金活動、会場設営など

上記活動のほか、長田ボランティアセンター運営委員会への参画や、こうべ UD フェア 実行委員会、長田区自立支援協議会つどう部会、一七市拡大版 2013 実行委員会、1.17KOBE に灯りを in ながた実行委員会、「子宮の日」LOVE49 キャンペーン in KOBE 実行委員会等へ参加し、地域団体との連携・協働のもとに活動を行っている。

ボランティアセンターの運営に関しては、年 2 回運営委員会を開催して運営に関する協議を行うとともに、最低 2 ヶ月に一度は法人内の委員を招集し、喫緊の課題の検討と情報共有を行うためのスタッフ会議を行い、運営が円滑に行えるようにしている。

次年度の課題

- ・引き続き、学生が主体となり学生自身が活動と他の学生を繋ぐボランティアセンターを目指し、学生スタッフの育成に取り組む。
- ・有事の際（特に災害時）のボランティア活動者の養成に向け、早い段階から災害について学び、考える機会を与える登録研修制度の設立を目指す。
- ・幼稚園・高等学校との連携をさらに強化する。
- ・2014 年 8 月にボランティアセンター設立 5 周年を迎えるため、これまでの総括と今後の展望に向けて 5 周年記念誌（仮題）の発刊に取り組む。

24. ライフサイエンス研究センター

責任者 坂本 秀生

本年度の課題
センター利用者の拡大及び研究活動の活発化を本年度の課題とし、本センターの有効利用を目指した。有効利用により研究成果として、国内外での学会発表、論文発表の増加も課題とした。利用者の増加に伴い、不足気味である設備の充実化もあわせて課題とした。
本年度の活動方針・目標
利用者の増加に伴い、共有利用機器使用、共有試薬及び消耗品注文方法の明確化を行う。本センター利用者の研究が活性化され、学内外での競争的研究資金獲得に繋げる。 目標として、科研費などの大型研究費を1人でも多く獲得出来る環境を整える。
主な活動内容
<p>a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u>：</p> <p>坂本秀生：ヒト Cables の機能解析として、Cables 遺伝子を細胞内で調整できるシステムの構築、Cables 遺伝子発現機に関する研究を行う。</p> <p>井本しおん：1) ビスホスフォネートやスタチンなどメバロン酸経路阻害剤がマクロファージの食能やアポトーシスに及ぼす影響の検討、2) 血小板活性化指標としての血小板一白血球凝集測定の有用性の検討を行う。</p> <p>高岡 裕、大田美香、菅野亜紀：(1) 東洋医学（鍼灸）、(2) 分子シミュレーション応用、(3) 自然言語処理技術の医療情報応用、の3研究課題に取り組む。</p> <p>澤田 浩:国立長寿医療研究センター（愛知県大府市）との共同研究で、同センターでマウスの飼育管理および実験を行う。</p> <p>澤村 暢：浜松医科大学医学部臨床検査医学講座前川真人教授と「変異型フィブリノゲン Aα鎖を用いたフィブリノゲン生合成に関する研究」として、血液凝固因子であるフィブリノゲンを構成する3つのタンパク（FGA, FGB, FGG）の内、FGA 欠損によって引き起こされる無フィブリノゲン血症の、発症機序に関連する研究を行う。</p> <p>三浦真紀子：2012年に分離された <i>N.gonorrhoea</i> 41株について薬剤感受性試験を実施し、Azithromycin(AZM)に耐性または低感受性を示した株の遺伝学的特徴について検討する。23S rRNA の4つの allele における1塩基変異とメチラーゼ遺伝子(<i>ermA</i>, <i>ermB</i>, <i>ermC</i>, <i>ermF</i>)の有無、薬剤排出ポンプ(MtrCDE pump)の過剰発現をもたらす <i>mtrR</i> プロモータ領域の1塩基欠損について PCR 及び、シーケンス解析を進める。</p> <p>目標達成度の評価：1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった</p>
<p>b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u>：</p> <p>坂本：研究代表者として科学研究費基盤Cを得た。学術論文 3編、学会発表 海外3件、国内8件の発表を行った。</p> <p>井本：原著論文2件、総説1件、学会発表1件の発表を行った。</p> <p>澤田：平成 25 年度ジョイント研究費を獲得した。ドーパミン神経毒である 1-methyl-4-phenyl-1,2,3,6-tetrahydropyridine (MPTP) をマウスに投与することにより、パーキンソン病モデルマウスを作成した。このモデルマウスに LRRK2 阻害薬を投与すること</p>

によって、ドーパミン神経細胞の変性が抑制されるか検証した。RRK2 阻害薬として、LRRK2-IN-1、GW5074、GSK-2578215A、NVP-TAE684 の4種類を用いた。神経変性に関する評価方法として、マウスの脳・黒質部分の切片を作成し、ドーパミン神経細胞およびミクログリアを免疫組織化学的に可視化し、細胞の変動について形態学的解析を行った。

高田、大田、菅野：競争的戦略資金については、研究代表者として2課題の科学研究費（基盤研究（C））、研究分担者として3課題の科学研究費（基盤研究（C））で、計590万円を受け入れ研究を遂行した。原著論文6本（欧文3本、和文3本）、専門書1本（欧文）、技術報告論文1本（和文）、招待講演・特別講演等5回、学会発表9回の発表を行い、グッドデザイン賞（研究・教育・医療のためのサービス・システム）公益財団法人日本産業デザイン振興会、第14回日本クリニカルパス学会学術集会 学術集会優秀賞、第14回日本クリニカルパス学会学術集会 座長賞等を受賞した。

澤村：学内ジョイント研究費を獲得し、ヒト肝臓 cDNA ライブラリーよりフィブリノゲン遺伝子（*FGA*, *FGB*, *FGG*）の単離を行った。また、野生型 *FGA* から変異型 *FGA* を作成し、それぞれの遺伝子をタンパク発現ベクターに組み込みクローニングを行った。現在フィブリノゲン非産生細胞である *cos-1* 細胞に遺伝子導入し発現実験を行っている。今後、蛍光顕微鏡を用い細胞内局在についても解析を進めていく。また、常盤フォーラムにて学科長推薦として、「Prekallikrein 欠乏症患者の分子遺伝学的解析」について発表を行った。

三浦：耐性株で23S rRNA の4つの allele すべてに、マクロライド系薬への耐性化に関与するとの報告がある部位に1塩基変異が確認された。また、低感受性株において1つの allele に1塩基変異が確認されており、薬剤耐性化との関連性について今後検討する。

次年度の課題

利用者の研究がさらに活発化されるよう、研究環境の整備を行う。また、スペース的にも余裕があるので、利用者の増大と競争的研究資金の獲得が増えるようにする。

活動内容の補足

学術論文

1. Eiji Nakano, Ryusuke Ono, Taro Masaki, Seiji Takeuchi, Yutaka Takaoka, Eiichi Maeda, Chikako Nishigori: Differences in Clinical Phenotype among Patients with XP Complementation Group D: 3D Structure and ATP-Docking of XPD *In Silico*. J Invest Dermatol doi: 10.1038/jid.2014.14. , 2014
2. 渡辺哲也、渡部 謙、山口俊光、南谷和範、大内 進、高岡 裕、喜多伸一、石橋和也：点図触地図自動作成システムにおける点格子模様の識別性の評価. 電子通信情報学会論文誌 D J96-D (11), 2737-2745, 2013
3. Naoko Yasui*, Yutaka Takaoka*, Hisahide Nishio*, Dian K Nurputra, Kenji Sekiguchi, Hirotohi Hamaguchi, Hisatomo Kowa, Eiichi Maeda, Aki Sugano, Kenji Miura, Toshiyuki Sakaeda, Fumio Kanda, Tatsushi Toda: Molecular Pathology of Sandhoff Disease with p.Arg505Gln in HEXB: Application of Simulation Analysis. J Human Genet 58, 611-617, 2013 (*, co-first author)
4. 石橋和也、嘉幡貴至、小田 剛、渡部 謙、渡辺哲也、高岡 裕、喜多伸一：触地図上で発見しやすい触知記号の大きさ -点字経験者と未経験者を対象にした検討-. 視覚障害リハビリテーション研究 2, 1-10, 2013
5. 渡辺哲也、渡部 謙、山口俊光、南谷和範、大内 進、宮城愛実、高岡 裕、喜多伸一：立体コピー触地図の触読性の評価. 電子通信情報学会論文誌 D J96-D (4), 1075-1078, 2013

6. Tsuyoshi Oda, Aki Sugano, Masashi Shimbo, Kenji Miura, Mika Ohta, Masako Matsuura, Mineko Ikegami, Tetsuya Watanabe, Shinichi Kita, Akihiro Ichinose, Eiichi Maeda, Yuji Matsumoto, Yutaka Takaoka: Improvement in Accuracy of Word Segmentation of a Web-Based Japanese-to-Braille Translation System for Medical Information. J Commun and Comp 10(1), 82-89, 2013
7. 井本しおん：骨粗鬆症治療薬ビスホスホネートの新たな役割—抗腫瘍効果の可能性—。神戸常盤大学紀要第6号 2013。
8. 井本しおん、西郷勝康、坊垣美也子、松元恵理子、後藤正徳。ビスホスフォネートがマクロファージの食食能に及ぼす作用の検討：高輝度ビーズとヒト単球系培養細胞株 THP-1 を用いた食食能の定量測定。臨床病理 62(1): 23-30, 2014.
9. 井本しおん、松元恵理子、坊垣美也子、澤田浩秀、西郷勝康。フローサイトメトリーによる血小板 - 白血球凝集と活性化血小板の解析。神戸常盤大学紀要第7号 印刷中。
10. 佐野太亮、布引治、岩井重寿、澤田浩秀、青野早姫、天間友理香、能瀬衣沙子、宮下奈都美、猪俣啓子、山下弘幸、覚道健一：甲状腺乳頭癌と橋本病の鑑別について。神戸常盤大学紀要7号、p69-74、2014

学会発表

1. Promoter of Cables 1, a cyclin-dependent kinase binding protein affected by cyclic AMP pathway. Sakamoto H, Lynch MP and Rueda BR. American Association for Clinical Chemistry Annual Meeting 2013. Houston, TX USA. July 30, 2013
2. POCT beyond the hospital as a preventive medicine model, using the Mobile Health Check system in Japan. Sakamoto H, Hata K, Matsuda M, 他12名. 2013 ASCP Annual Meeting. Chicago, IL USA. September 19, 2013.
3. Contribution of POCT to Home Health Care in Japan. Sakamoto H and Hata K. 4th Congress of Asia Association of Medical Laboratory Scientists. Singapore, Singapore. October 4, 2013.
4. Imoto S, Saigo K, Bohgaki M, Goto M, Matsumoto E. Effects of bisphosphonates on phagocytosis of human monocytes/macrophages. 第75回日本血液学会学術集会 2013年10月12日 札幌。

25. 口腔保健研究センター

センター長 野村 慶雄

本年度の課題
① 歯科検診結果（附属ときわ幼稚園、神戸常盤女子高）の解析 ② 口腔保健に関する研究業績の蓄積と公表（新入生の歯科検診結果と意識調査結果） ③ センター主催の講演会企画 ④ 大学ホームページへの情報公開
本年度の活動方針・目標
① 附属ときわ幼稚園・神戸常盤女子高校の歯科検診 ② TOKIWA 地域健康フェアの歯科検診等の口腔保健事業 ③ 地域の口腔保健関連事業への参画 ④ 歯科検診結果の解析
主な活動内容
a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）： 1. 口腔保健事業 1) 長田区連携事業 ①平成 25 年度長田区子どものむし歯予防のための検討会議 ②長田区・神戸常盤大学連携協定にもとづく打ち合わせ会 ③長田区民まちづくり会議 にこやか部会 ④長田区との地域連携会議 2) 歯科健診 ①神戸常盤女子高校歯科健診 ②附属ときわ幼稚園歯科健診 ③TOKIWA 地域健康フェア歯科健診 ④新入生歯科健診 3) 診療所業務 ①口腔ケア ②フッ素塗布 2. 啓発活動 ① 長田区の事業所への口腔保健啓発（口腔保健研究センター、歯科診療所運営会議議事録） ② 子育て支援センター「えん」での口腔保健啓発事業（口腔保健研究センター、歯科診療所運営会議議事録） ③ 長田区こどものむし歯予防のための検討会議（口腔保健研究センター、歯科診療所運営会議議事録） ④ 長田区民まちづくり会議（口腔保健研究センター、歯科診療所運営会議議事録） ⑤ 口腔保健啓発のための講演・研修（口腔保健研究センター、歯科診療所運営会議議事録）

3. 研究活動

①委託研究として足立教員が高齢者の誤嚥性肺炎再発に関する調査を行った。

目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：

- ① 口腔保健研究センター、歯科診療所運営会議を6回開催し、口腔保健研究センターのフィールドの一つである歯科診療所の活性化について検討した。予防的診療業務に加え唾液検査と歯周病検査を追加した。
- ② 子育て支援センター「えん」での出前講座に加え、幼児へのフッ素塗布を実施した。
- ③ 長田区こどものむし歯予防のための検討会議に参加し、長田区の乳幼児のう蝕予防について検討した。（口腔保健研究センター、歯科診療所運営会議議事録）
- ④ 長田区民まちづくり会議に参加し、長田区における健康教育・イベントでの歯科検診について検討した。（口腔保健研究センター、歯科診療所運営会議議事録）
- ⑤ 地域のみならず全国において口腔保健啓発の講演会・研修会において34回出務した。

次年度の課題

- ①附属ときわ幼稚園・神戸常盤女子高校の歯科検診（継続）
- ②TOKIWA 地域健康フェアの歯科検診等の口腔保健事業（継続）
- ③地域の口腔保健関連事業への参画（継続）
- ④健康保健センターとの連携事業の推進
- ⑤口腔保健に関する研究業績の蓄積

活動内容の補足

- ・附属ときわ幼稚園の歯科検診
2日間：44人（3～6歳）
- ・幼稚園でのフッ素洗口実施に向けての指導
- ・神戸常盤女子高校歯科検診
3日間：1年生314人 2年生296人 3年生282人
- ・新入生歯科健診
医療検査学科87人 看護学科89人 こども教育学科69人 口腔保健学科89人
- ・子育て支援センター「えん」でのフッ素塗布 延48人
- ・歯科診療所受診者数
272人（新患157人）

26. KTU 大学教育研究開発センター 年間活動報告

センター長 足立 了平

<p>本年度の課題</p> <p>1. 教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文科省が進める教育改革の実態が学内教職員に理解、浸透していない ● 専門教育と教養教育の接合に関する教育研究活動が低調 ● 上記課題解決のためには他委員会との連携が必要 <p>2. 研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学内研究活動が低調
<p>本年度の活動方針・目標</p> <p>1. 教育</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大学改革実行プラン（文科省）の全学的検討 ② 専門教育と教養教育の接合—特に教養教育に関する教育研究活動の全学的検討 ③ 他委員会（FD、図書・紀要、自己点検・評価委員会など）との協働 <p>2. 研究</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 科研費申請数の増加 ② 学内競争資金（テーマ別・ジョイント研究）の再編 ③ 個人研究費の整備に向けた学内パブリックコメントの募集
<p>主な活動内容</p> <p><u>a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）：</u></p> <p>1. 教育</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「教育に関する研修会：大学はこう変わる！-教育の質保証と教学 IR」（25年8月19日・参加者71名） ② 教養教育改革に関する議論は「教育イノベーション機構」の新設により機構に移行。 ③ 第2回常盤学術フォーラムにおいて、FD委員会との共催によるFD研修会を開催 <p>2. 研究</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「研究を支援する研修会：科研費獲得のツボ」（25年8月5日・参加者28名）平成26年度科研費申請者数：22名（平成25年度：15名） ② テーマ別研究とジョイント研究を統合し「新・テーマ別研究」を新設（26年度より募集開始）—区分「科研サポート」を設定 ③ KTU 会議において個人研究費のあり方について議論を深めたが、運営委員会に上梓するまでには至らず。 <p>目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった</p> <p><u>b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究者ハンドブックの発行 2. テーマ別研究費取扱規定、個人別研究費取扱規定を作成 3. 第2回神戸常盤学術フォーラムの企画・運営

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">4. 教育研究における学外競争的資金の獲得に向けての議論5. SPSS の購入6. 個人研究費改革：実績報告書の提出を義務化（26年度より実施） |
|--|

次年度の課題

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">1. 教育<ul style="list-style-type: none">① COC (Center of community) 構想における地域をフィールドとした教育研究が少なく、次年度はこれを積極的に進める。② 研究と教育の統合：研究を基盤にした教育の在り方が議論されることが少ないためFD委員会など関連部署との更なる連携を推進2. 研究<ul style="list-style-type: none">① COC (Center of community) としての大学を論じる際、地域課題を抽出する研究ほとんどないことからこれを推進② 新・テーマ別研究のブラッシュアップなど、研究活動の活性化に関する提案を継続 |
|---|

27. 健康保健センター 年間活動報告

a. 健康管理室 センター長 岩越 美恵

本年度の課題
1) 健康管理室の医師・看護師当番表の作成 2) 健康管理室の備品や消耗品（薬剤など）の整備 3) 救急救命セットの設置 4) 学生相談室との連携を密にする 5) 健康管理室年間利用状況報告書の作成
本年度の活動方針・目標
上記課題の解決・実行
主な活動内容
a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）： 1) 教職兼務の医師・看護師が救急対応を行うため、当番表はなじまず、キャリア支援課が研究日を参照して、フリーの医師・看護師に連絡して対応した。 2) 3) H25年5月13日に健康管理室委員会で、備品、消耗品、救急セットの確認 4) H25年5月24日に、第1回学生相談について考える会を学生相談部・学生部と合同で開催し実態を把握。 H26年1月27日にハラスメント委員会主催で、学生相談部（嘱託カウンセラー2名を含む）、学生部、健康管理室で学生の相談窓口担当者研修会を開催。 5) 健康管理室年間利用状況報告書作成 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった
b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）： 1) 性同一性障害への対応について： 5月20日5時PM～6時30分に、全教職員を対象に、大阪医大精神科の康純先生の勉強会を開催。 2) H25年6月14日、京都大学楽友会館にて第3回全国大学保健管理協会総会に出席 3) 25年4月19日、7307会議室で健康管理室委員会打ち合わせ。 4) H26年度入試救後医師当番表の作成 5) H25年度第1回健康保健センター会議 ①新入生抗体検査・ワクチン接種の見直し：H26年度から看護学科学生もB型・C型肝炎の検査とB型肝炎ワクチン接種の奨励→お願いに変更する。 ②子ども教育学科のワクチン接種基準抗体値の緩和 ③H26年度から健康管理手帳を新入生に配布し、毎年の健診結果やウイルス抗体値とワクチン接種記録（コピー）、キャリア基礎授業の健康関連資料のファイルを奨励 ④新入性歯科健診の承諾所及び、健診結果や抗体値、ワクチン接種記録の個人が特定されない形での研究利用の承諾書の作成 6) H25年12月16日、神戸薬科大学にて、平成25年度全国大学保健管理協会近畿地方撫会保健師・看護師班第22回兵庫地区研修会に参加。

7) H26年1月10日、甲子園大学にて、全国大学保健管理協会近畿地方会兵庫地区、次期幹事校の引き継ぎ会に出席
次年度の課題
1) 救急セット：アンビュバッグと吸引器の購入 2) B型肝炎ワクチン3回接種後、抗体未獲得学生への対応 3) 全国大学保健管理協会近畿地方会兵庫地区幹事校として、H27年度近畿地区研修会開催当番としての準備 4) 新入生歯科健診に承諾書の必要性の検討 5) 「健康」づくりに携わる職業人養成大学としての本学の「敷地内禁煙」が守られていない現状に対して、学生部と共同で「学内禁煙化委員会」の立ち上げの検討。

b. 学生相談室 責任者 後藤 晶子

本年度の課題
1. 学生が利用しやすいようなカウンセリングルームの開設の形態を検討する。 2. 教員に対するコンサルテーション機能をより強化する。 3. 健康保健センター、ハラスメント対策委員会と窓口のあり方について検討する。 4. 上記課題について、非常勤カウンセラーとも連携して検討する。
本年度の活動方針・目標
1. カウンセリングルームをより気軽に利用できるしくみを検討する。 2. 教員に対するコンサルテーション機能を整える。 3. ハラスメント対策委員会と連携しての共催で、ハラスメントにかかわる研修の開催。 4. 非常勤カウンセラーと協議する。
主な活動内容
<u>a. 目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）：</u> 1. ハラスメント防止対策委員会・学生委員会と共同で、「学生の相談窓口担当者研修会」を開催した。（資料添付） 2. 教員のコンサルテーションについて案内を作成し教員に配布した。（案内文書） 3. カウンセリングルームで箱庭ウィークを開催し、カウンセリングルームを利用しやすい雰囲気づくりをした。（案内文書・参加記録） 4. 前期後期の授業開始時に、学科学年ごとに非常勤カウンセラーからカウンセリングルームの案内をしてもらった。 5. カウンセラーによるカウンセリングルーム便りを発行した。 6. 通常の開設時間以外に試験終了後もカウンセリングが必要な学生に対して、カウンセリングルームを開室した。 7. 相談室委員の教員による学生サロンで、個別に問題を抱えた学生に対応した。 また、問題が大きくなったときには、相談室長が学科長と連携をとりながら慎重に対策を

講じた。

8. カウンセリングの予約についてのポータルを用いた方式、カウンセリングルームのより利用しやすい場所への移動等を検討したが、実現には難しさがあることが判明した。

9. 上記を含め、非常勤カウンセラーも交えての検討を行うことができた。

10. より力のある非常勤カウンセラーへの交代を実現させた。

目標達成度の評価：1. できた ② ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった

b. 委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）：

1. 今年度のカウンセリングルームの利用者数は、延べ76（51）人、実数54（13）人で昨年度より増えた。（ ）は昨年度数。

2. 委員会会議を2回開催した。（aで記述した内容の諸打ち合わせ等は含まない）

次年度の課題

1. 引き続き学生が利用しやすいようなカウンセリングルームの在り方を検討する。

2. 効果的な教員に対するコンサルテーションの在り方を検討する。

28. 神戸常盤大学子育て支援センター「子育て広場えん」

センター長 上月素子

本年度の課題
大学付属の子育て支援センターとして、役割を見直し活動の充実を図る。
本年度の活動方針・目標
①センター3年目を迎えるにあたり、地域に求められる大学付属の子育て支援センターのあり方を再考し、新規事業にも取り組み充実した活動内容にする。 ②スタッフが継続して勤務できる体制の整備と育成を図り子育て支援センターの安定的運営に努める。 ③大学生の多様な学びの場としての受け入れ体勢を整備する。
主な活動内容
<p>a. 目標達成に向けた活動内容 【根拠資料・記録】：</p> <p>①今年度の事業</p> <p>3周年記念行事 【各月の日程表・日報・記録ファイル】 12月7日（土）神戸市立地域人材支援センター講堂（午前・午後二部制）参加者：200名 プログラム：人形劇（ハローベビー部）親子体操（近藤先生）親子コンサート（戸川先生・バイオリスト 本吉優子）スタッフプログラム（おはなし・英語であそぼう・いっしょに体操）ママカフェ（スタッフ・E科学生ボランティア お茶とお菓子） 手作りプレゼント：「えん」ロゴ入りエコバック・シャボン玉もどき・がらがら</p> <p>長田区との連携事業 【各月の日程表・日報・記録ファイル】 ふれあいプラザ（月1回子育て応援プラザ）健康相談（5月6月9月11月1月3月保健師） 子育て相談（月3回子育てサポーター）遊びのマエストロ養成講座実習（10月）あつまれたまごママ（月4回若年片親虐待対応事業）</p> <p>なでしこレディースホスピタルとの連携事業 【各月の日程表・日報・記録ファイル】 月2回木曜日 ベビーマッサージ（5月～12月助産師）・アロマセラピー・ハンドマッサージ（4月・1月～3月助産師）※交通費・材料費の実費を支払う</p> <p>法人及び大学学科間の連携事業 【各月の日程表・日報・記録ファイル】 O科フッ素塗布（8月9月12月1月主担当御代出先生）及び個人カルテ作成による継続的歯の相談の実施。N科まちの保健室の実施（6月10月主担当江上先生）。附属女子高等学校保幼進学コース生徒の見学受け入れ及び講座の実施（5月担当上月）附属ときわ幼稚園園児募集説明会（8月）</p> <p>スタッフの企画事業 【各月の日程表・日報・記録ファイル】 てあそびうたあそび（火）今月のうた・親子あそび（水）いっしょに体操（水・木） 今月の絵本・おはなしの時間（金）英語であそぼう・おかあさんといっしょ（土） 季節の手作りプレゼント：今月の歌カード・子どもの日・クリスマス・お正月・雛祭り 毎月の環境構成：壁面構成・今月の折り紙 その他：第2子3子へお誕生カード</p> <p>学生受け入れ事業 【各月の日程表・日報・記録ファイル】 O科（フッ素塗布のサポーター12月1月）N科（まちの保健室のサポーター6月10月。） E科：基礎実習Ⅰ（90名8月5回）基礎実習Ⅱ（15名9月3回）。3周年記念事業の学</p>

生ボランティア受け入れ（E科2年生15名、ハローベビー部員1・2年生30名）ハローベビー部学生による春休みプログラム（人形劇及び学生プログラム3月5回計18名）。
兵庫県立大学4年生の卒業論文の研究調査の受け入れ（1名1月3回）。

スタッフの育成事業

【記録ファイル】

子育て支援センターの見学訪問： 5月7日神戸市立看護大学「コラボカフェ」見学（山口・松本・西村・上月）7月30日西宮市立子育てセンター「のびのびあおぞら館」見学（山口・松本・西村）7月27日明石市子育て支援センターフェスティバル見学（山口・松本・上月）時間外の活動内容検討会（9月10月11月12月3月 スタッフと上月）

その他

【記録ファイル】

- ・定例及び新規事業参加者からの聞き取り及び感想記録を基に改善を図る
 - ・職務マニュアルの改定版の作成 リスクマネジメント強化も含めて業務内容を整理する
 - ・「えん」NEWリーフレット及び名刺型利用カードの作成（担当者 戸川・近藤先生）
- 目標達成度の評価：1.できた 2.ほぼできた 3.あまりできなかった 4.できなかった

b. センターの主要な活動内容（根拠資料・記録）：

上記活動内容を実施するために次の活動を行う。

- ・「えん」運営委員会を月1回以上開催し活動内容を精査し計画を立案する。 【会議録】
委員会メンバー 猿渡・後藤・戸川・近藤・上月
- ・活動内容や参加者の様子についてスタッフで共有化を図り改善する。 【記録ファイル】
曜日で勤務するスタッフが異なるため、日々の気付きや課題点についてセンター長に報告するとともに、ノートに記録し他の曜日のスタッフへ周知を図り改善策へとつなげる。
スタッフ：火曜日（榮・片岡）水曜日（山口・片岡から山口・松本に変更）木曜日（山口・西村）金曜日（松本・西村）土曜日（片岡と井上恵子又は井上愛）。
- ・長田区子ども家庭支援課（中筋係長他）と相談し、企画実施する 【記録ファイル】
- ・地域人材支援センター事務局長向さんと相談し、企画実施する 【記録ファイル】
- ・経費等事務面については法人と相談し進める。
- ・大学コンソーシアム「地域子育て支援拠点事業に関わる大学間連絡協議会」（ハグカフェ）の研究調査活動に上月が参加し活動内容の質的改善と他の大学附属子育て支援センターとの連携を図る 【記録ファイル】

次年度の課題

4学科の専門性を十分活かして、大学附属の子育て支援センターとして地域に貢献できるプログラムのさらなる充実を図りたい。

活動内容の補足

1. 稼働日数 年間225日

開館曜日時間 火曜日～土曜日の5日間 10時～12時 13時～4時までの5時間

休館日 日・月と月曜日が休日の次の火曜日、センターが定めた春・夏・冬の休館日、警報が出された日

2. 利用者数

年間入場者数 合計7,867名 1日平均17名（開設から22,677名 昨年度6,837名）

29. 教職支援センター 年間活動報告

センター長 後藤 晶子

本年度の課題
今年度より開設のセンターとして、学生の公立学校園・保育所への就職支援、および学校現場との連携の基本的な体制を構築する。
本年度の活動方針・目標
1. 教職等支援を中心とした長期プログラムの策定と今年度の実施計画を策定し推進する。 2. 効果的な計画推進のため、学内諸組織との連携、受験予備校等の団体との連携を図る。 3. 学生への周知・指導・支援を効果的に実施する。 4. センターの物理的環境の整備、業務内容の見直しを随時実施する。
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u> ： 1. 教職等支援に必要な内容を検討し、大学・学科等の年間スケジュールに配慮しながら、可能な日程に配置して、4年間を見通した長期プログラムと今年度年間プログラムを策定した。（教職等支援を中心とした長期プログラム） 2. センター会議で、計画案、経過報告、事後総括を共有して、学科、キャリア支援課との連携を図るとともに、計画の円滑な遂行を目指した。（センター会議議事録） 3. 受験予備校（東京アカデミー）と養成講座等の開設について交渉した。（日程表） 4. 学生への発信はポータル、掲示、学科教員から等、複数のツールで実施した。また、個別に勧誘も行った。 5. E科就職委員長が会議に出席、弱点フォロー勉強会の開催など学科との連携を図った。（センター会議議事録） 6. 採用試験対策用書籍、学習会に必要な物品等を整備した。 目標達成度の評価：1. できた ②ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった
b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u> ： 1. 定例会議を毎月1回、計11回開催。 2. 定例学習会をE科1,2年、N科2,3,4年各学年別に毎週開催。（事務室長による指導） 3. 学力把握テスト（教職支援センター作成）を3回（4・10・1月）実施。 4. 弱点フォロー勉強会を8,9月に3回実施。 5. 東京アカデミーによる「一般教養：基礎力養成」講座を10～2月の毎週火曜6限に実施。 6. 次年度受験学生対象に、全国模擬試験（12月）自治体別模擬試験（2・3月）を実施。 7. 教職を目指す全学生対象に、合格者座談会（神戸市立小学校新規採用教諭招聘）を11月実施）
次年度の課題
1. E科にとって初めての3年生に対し、受験前年度対策を効果的に進める必要がある。 2. 在学生の学年数が増加することにより、一層学科との連携が求められる。 3. N4生臨地実習5ヶ月の空白期間の受験対策を検討することが必要である。 4. 全学的な教室不足の中で、教職支援対象の学年増による定例学習会のための教室の確保も課題である。

30. 事務局 年間活動報告

事務局長 坂本 啓

本年度の課題
1. 入学定員及び学生の質を確保するため、入学選抜の在り方を各学科と検討 2. 新たに設置された教職支援センター事務室業務の円滑な執行 3. 各学科の就職委員会と連携した就職支援の実施 4. 「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」の応募に向けた検討 5. 各種研修会への参加及び課長職の業務発表会等による事務局職員的能力向上
本年度の活動方針・目標
1. 積極的な広報活動を展開し、質の高い学生を確保し、大学力向上に向けた礎を築く。 2. 教職等支援を中心とした長期プログラムの策定と当該年度の実施計画を推進する。 3. キャリアサポーターによる勉強会を実施し、早期の就職意識の向上に繋げる。 4. 教職員混成のチームを編成し、地域連携活動に注力していくために申請を行う。 5. 課長会議で研修会受講者の発表を行い、理事長に対し各課長の業務発表を行う。
主な活動内容
a. <u>目標達成に向けた活動内容（根拠資料・記録）</u> ： 1. 学生募集のための各種広報媒体の活用のほか、広く説明会などを展開した。 2. 学生の学力や資質・能力等に配慮し、4年間を見通した長期プログラムを策定した。 3. キャリア支援課職員の業務・情報の共有化を図り就職担当教員との連携を強化した。 4. 補助金応募にあたり、法人事務局、担当教員に協力し申請書の作成を行った。 5. 各種研修会に積極的に参加し、事務局職員として知識向上を図った。 目標達成度の評価 1. できた ②. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった
b. <u>委員会・組織の主要な活動内容（根拠資料・記録）</u> ： 1. 大学広報雑誌への掲載、業者主催入試説明会参加、高校訪問、母校訪問を実施した。 2. 定例学習会、学力把握テスト、弱点フォロー勉強会、合格者座談会等を開催した。 3. 就職支援講座、勉強会等を開催したほか、教職支援センターとの連携を図った。 4. 申請書の作成・提出・ヒアリング等の事務的な協力を行った。 5. 若手職員及び課長が、プレゼンテーションを行うことにより能力向上を図った。
次年度の課題
1. 大学認証評価受審の調書等作成準備と適切な対応 2. 学校法人会計基準改正による、システムプログラム変更等の円滑な作業の推進 3. 各学科、新機構の教育課程の円滑な編成及び授業の運営 4. 各学科と入学者選抜の在り方等の検討の推進 5. 平成26年度創設の修学支援金の的確な業務処理 6. 学内研究費の運用方法の検証と見直し及び外部資金獲得のための業務の支援 7. 看護学科通信制課程における学生募集方策の展開 8. 図書館の利用者サービスの促進及び学習支援、授業連携支援の検討 9. 教育研究活動組織の改編検討及びEM・IRの基盤整備の推進 10. 学科と連携・協働しながら教職支援の在り方や学校現場との連携の基本的な姿の確立

11. SD活動の充実

*次年度の課題は、1 庶務課 2 経理課 3 教務課 4 入試広報課 5 キャリア支援課
6 研究協力課 7 通信制事務課 8 図書館事務室 9 学長室 10 教職支援センター事務室
11 法人本部の課題を記載した。

活動内容の補足

1.
 - ・学校訪問 7 4 1 校
 - ・オープンキャンパス 4 回（6 月、7 月、8 月、9 月） 参加者数 2, 0 5 2 名
 - ・本学主催入試説明会 2 回（6 月）参加校数 4 3 校
 - ・業者主催入試説明会約 1 5 0 会場 参加者数約 1, 5 0 0 名
 - ・母校訪問学校数 6 2 校 訪問学生数 6 6 名

目標達成度の評価：2 ほぼできた
2.
 - ・定例学習会：こども教育学科 1・2 年生 看護学科 2～4 年生学年ごと毎週開催
 - ・学力把握テスト（教職支援センター作成）：3 回
 - ・弱点フォロー勉強会：3 回
 - ・大手受験塾による一般教養基礎力養成講座：1 0 月～2 月毎週火曜日実施
 - ・全国模擬試験、自治体別模擬試験実施
 - ・合格者座談会（1 1 月）実施
 - ・スクールボランティア派遣 2 0 名

目標達成度の評価：2 ほぼできた
3.
 - ・学生支援体制の充実：課内の業務・情報の共有化
 - ・就職支援講座の実施：一般教養講座、SPI 講座
 - ・就職支援の実施：各学科就職委員会との連携、キャリアサポーターによる勉強会

目標達成度の評価：2 ほぼできた
4.
 - ・大学COC事業については、書面審査は通過したが不採択となった。
 - ・外部資金に関する学内窓口を整理する提案
 - ・特許申請、発明開拓の推進
 - ・動物実験実施に向けた検討

目標達成度の評価：2 ほぼできた
5.
 - ・研修会・研究会等への職員参加 3 3 回
 - ・各課長業務課題発表会（4 月）実施

目標達成度の評価：1 できた

第2部 本年度の「学生による授業評価」

概要

昨年度と同様、非常勤を含めた全教員の原則全ての授業（学外実習科目、個人授業等を除く）を対象に、以下の要領で実施した。

1) 各教員は、学期末（通年科目は年度末）の最後の授業時に学生による授業評価アンケート（資料A）を実施する。アンケートは無記名である。

2) 前期の評価結果は後期のはじめに、後期の評価結果は年度末に、各教員に通知される。

授業科目毎の評価結果が各教員に、学科全科目の平均評価結果が自己点検・評価委員会に通知される。通知様式は同じである。医療検査学科平均通知を例示する（資料B）。

3) 各教員は評価結果を検討して、今後の授業改善に向けた対策等を「授業評価報告書」にまとめて学科長に報告するとともに、「学生へのメッセージ」を作成して学生にフィードバックする。昨年度までは年度末にまとめて提出していたが、本年度より前期分を先に提出することにした。前期分の調査結果を早めに授業改善対策に活用することを目指したものである。

4) 「学生へのメッセージ」は、これまで紙ファイルで提示されていたが、本年度より学内共有フォルダにアップロードされ、学内コンピューターで閲覧できるように改善した。

5) 「授業評価報告書」に記載された授業改善案を各学科内で共有するなど学科内FDに活用する。本年度は、学科内だけでなく全学科の授業改善策を情報共有できる取り組みを行った。詳細は第3部を参照されたい。

6) 前後期分の調査結果および調査結果に基づく学科内FDについて各学科の自己点検評価委員が「学科の授業評価報告書」としてまとめ、年次報告書に掲載する。

資料 A 学生による授業評価アンケート調査票

1) 通学課程 (M, N, E, O) の調査票

調査票は、選択形式による評価 (設問に対する回答を選択肢から一つ選んでマークシート記入する) と、記述による評価 から成っている。

● 選択形式による評価 :

設問 1～20 から成る (表 1、表 2 参照)。

設問 1 : 学科

設問 2 : 学年

設問 3～16 は学科共通の設問であり、5つのカテゴリーに分かれている。

カテゴリー I : 学生自身 (設問 3～5)

カテゴリー II : 授業内容 (設問 6～8)

カテゴリー III : 授業方法 (設問 9～12)

カテゴリー IV : 学習成果 (設問 13～15)

カテゴリー V : 総合評価 (設問 16)

設問 17～20 は、学科毎 (または教員毎) に設定する質問項目である。

表 1. 学科共通の設問項目 (設問 3～16)

問		設問文
I 学生 自身	3	この授業への出席状況は？
	4	この授業に関連して、授業以外に学習した時間。(授業1回あたりの平均時間)
	5	この授業に意欲的に参加した。
II 授 業 内 容	6	授業の到達目標がシラバスや授業でわかりやすく示された。
	7	毎回の授業内容はよくまとまっていて、よく理解できた。
	8	授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった。
III 授 業 方 法	9	聞きやすい話し方だった。
	10	板書、スライド、教材などの使い方は、わかりやすく適切だった。
	11	授業の進行速度は適切だった。
	12	学生の質問や意見への対応が十分になされていた。
IV 学 習 成 果	13	自分にとって新しい考え方・発想を得ることができた。
	14	授業で扱った分野に対する基本的な知識を得ることができた。
	15	自分で調べ、考える姿勢が身についた。
V 総 合 評 価	16	この授業を受けて満足している。

表 2. 学科毎の設問項目

医療検査学科

M	17	[実習科目]レポートや課題などのチェックは適切だった。
	18	[実習科目]器具・備品・試薬などの準備は適切だった。
	19	[実習科目]スタッフの補助・対応は適切だった。

看護学科

N	17	[演習科目]到達度の確認は適切であった。
	18	[演習科目] (複数教員授業の場合) 教員間の連携、対応は適切であった。
	19	抽象的な内容については、適度に事例を示して具体的な説明があった。
	20	授業内容は、教員独自の意見や考えを適度に示し、心に響くものであった。

こども教育学科

E	17	教員の学生への対応は公平であった。
---	----	-------------------

口腔保健学科

0	17	[実習科目]実習器財や材料の準備は適切に行われた。
	18	[実習科目]教員の人数や配置は適切であった。

設問 3～20 に対する回答は、以下の 5 つの選択肢からのひとつを選ぶ方式である。

設問 3 5;すべて出席 4; 1 回欠席 3;2 回欠席 2;3 回欠席 1;4 回以上欠席

設問 4 5; 2 時間以上 4;1～2 時間 3;30 分～1 時間 2; 30 分未満 1; ゼロ時間

設問 6～20 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない (ふつう)

2 どちらかといえばそう思わない 1 そう思わない

- 記述による評価 : 3 つの設問から成る。

- ① この授業でよいと思った点があれば書いてください。
- ② この授業で改善すべき点だと思った点があれば書いてください。
- ③ 教室、教育設備等で改善すべき点があれば書いてください。

2) 看護学科通信制課程 (CCN) の調査票

通信制課程の授業形態に合わせるため設問内容が通学課程とは異なっているが、調査票は通学課程と同じく、選択による評価と記述による評価から成っている。

- 選択による評価 ; 19 の設問があり、通学課程と共通する 5 つのカテゴリーに分かれている (表 3 参照)。設問 3～19 に対する回答は 5 つの選択肢 (5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらでもない (ふつう) 2 どちらかといえばそう思わない 1 そう思わない) からひとつを選びマークシート記入する。

- 記述による評価； 通学課程と共通の3つの設問である。

表3. CCN 調査票：選択による評価の設問項目

	問1	あなたの性別は？
	問2	あなたの年齢は？
カテゴリーⅠ (学生自身)	問3	あなたはシラバスを読んで授業内容を確認して臨みましたか。
	問4	3日間の授業に意欲的に取り組みましたか。
	問5	この授業を受けて今後の学習に意欲的に取り組みますか。
カテゴリーⅡ (授業内容)	問6	授業内容は無駄や重複がなく順序立てて整理されていた。
	問7	専門的内容に対し、わかりやすい説明があった。
	問8	抽象的な内容については適度に例を示して具体的な説明があった。
	問9	授業内容は表面的ではなく教員自身の意見や考えを適度に示し、心に響くものであった。
カテゴリーⅢ (授業方法)	問10	聞きやすい話し方だった。
	問11	授業の進行速度は適切だった。
	問12	授業の要点・テーマ・目的がわかりやすい展開であった。
	問13	板書・スライド・教材などの使い方は適切だった。
	問14	ノートをとるための時間はちょうど良かった。
	問15	学生への質問の量、タイミングや方法は適切であった。
カテゴリーⅣ (学習成果)	問16	自分にとって新しい考え方・発想を得ることができた。
	問17	授業で扱った分野に対する基本的な知識を得ることができた。
	問18	自分で調べ、考える姿勢の大切さに気づいた。
カテゴリーⅤ (総合評価)	問19	この授業を受けて満足している。

資料B 学生による授業評価結果の通知様式

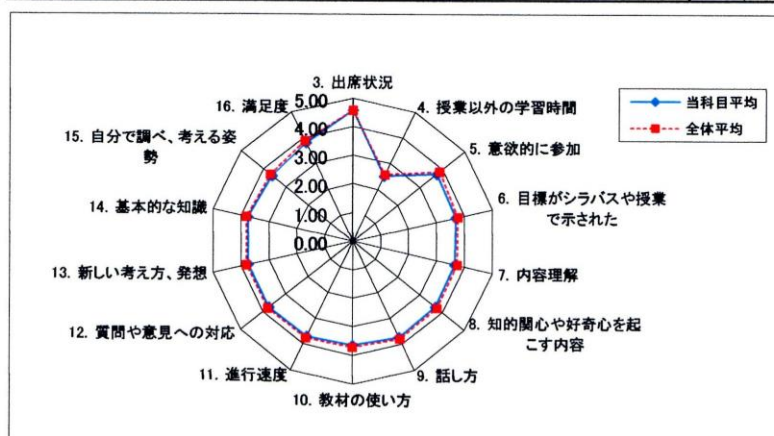
医療検査学科の評価結果を例示（科目別も同じ様式）

2013年度前後期 学生による授業評価調査

科目コード	科目名	担当教員名	受講者数	回答者数
M	医療検査学科 全体		10093	8679

1	所属学科	M科	N科	E科P科	O科	2	学年	1年生	2年生	3年生	4年生
		8556	87	0	1			3609	2424	1959	626

問	設問文	5	4	3	2	1	当科目平均	全体平均
		5 とてもいい と思う	4 いいと思う （結構）	3 どちらでもない （ふつ）	2 いいと思う （結構）	1 とてもいい と思う		
I 学生 自身	3 この授業への出席状況は？	6345	1358	614	191	110	4.58	4.58
	4 この授業に関連して、授業以外に学習した時間。(授業1回あたりの平均時間)	892	1013	2038	2328	2373	2.51	2.56
	5 この授業に意欲的に参加した。	1993	2890	3235	350	82	3.74	3.87
II 授業 内容	6 授業の到達目標がシラバスや授業でわかりやすく示された。	1694	3109	3473	304	81	3.70	3.77
	7 毎回の授業内容はよくまとまっていて、よく理解できた。	1646	3241	3041	619	121	3.65	3.74
	8 授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった。	1752	3236	3049	490	138	3.69	3.77
III 授業 方法	9 聞きやすい話し方だった。	2137	3035	2786	556	156	3.74	3.81
	10 板書、スライド、教材などの使い方は、わかりやすく適切だった。	1791	3047	3027	613	173	3.66	3.72
	11 授業の進行速度は適切だった。	1862	3206	3019	444	136	3.72	3.77
	12 学生の質問や意見への対応が十分になされていた。	1962	2967	3312	313	103	3.74	3.80
IV 学 習 成 果	13 自分にとって新しい考え方・発想を得ることができた。	1786	3325	3133	331	77	3.74	3.81
	14 授業で扱った分野に対する基本的な知識を得ることができた。	1749	3487	3045	299	75	3.76	3.81
	15 自分で調べ、考える姿勢が身についた。	1490	3015	3614	424	108	3.62	3.69
V 総 合 評 価	16 この授業を受けて満足している。	2111	3034	2856	339	96	3.80	3.87



分野	当科目平均	全体平均
I 学生自身	3.6	3.7
II 授業内容	3.7	3.8
III 授業方法	3.7	3.8
IV 学習成果	3.7	3.8
V 総合評価	3.8	3.9

神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部

1. 保健科学部 医療検査学科

1. 調査方法

- 1) 調査時期：平成 25 年度前期末・後期末
- 2) 調査対象：医療検査学科の科目担当者
- 3) 調査方法：学生による授業評価調査票記入
- 4) 設問：概要資料 A を参照のこと
- 5) 授業評価実施数
授業評価アンケート回答数（学生の延べ人数）：8679 名

2. 学生による授業評価の集計結果

- 1) 設問別回答分布
平成 25 年度前後期 医療検査学科の学生による授業評価調査の設問別回答分布を図 1 に示す。

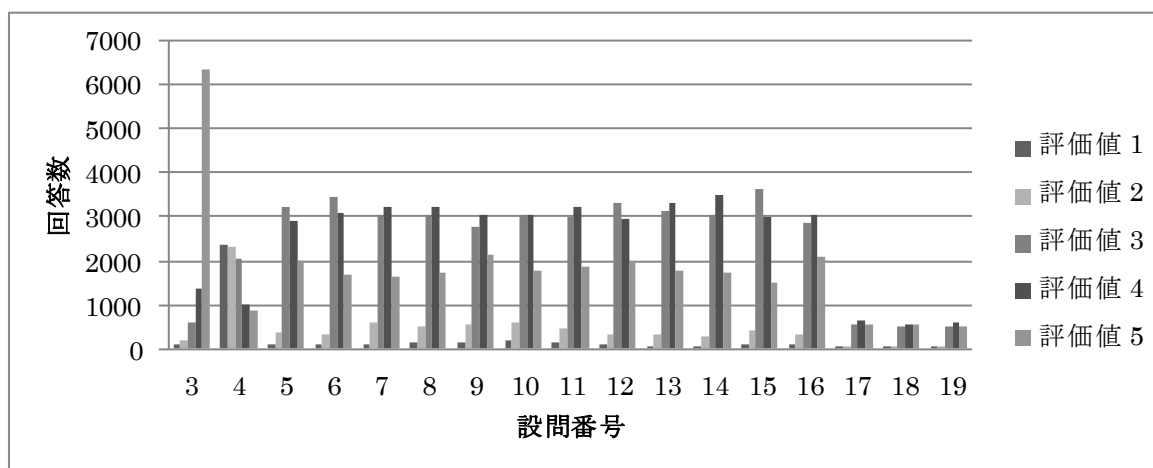


図 1 設問別回答分布

2) 各設問の平均値

図 1 に示すように、問 5～19 のうちで平均値が高い設問は、問 18（実習準備）、問 19（実習スタッフ）、問 17（実習レポート等のチェック・指導）と、実習科目に対するものであった。実習科目に関する設問を除くと、問 16（満足度）、問 14（基本的な知識を得た）が高かった。一方、平均値の低い設問は問 15（自分で調べ考える姿勢を身につけた）、問 7（まとまっていてよく理解できた）であった。問 3（出席率）及び問 4（学習時間）は他の設問と選択肢が異なるため比較からは除外している。

平成 25 年度の設問別平均値を平成 24 年度と比較した（図 2）。多くの設問で今年度の評価の方が高い値を示し、評価が上昇傾向にあることがわかる。

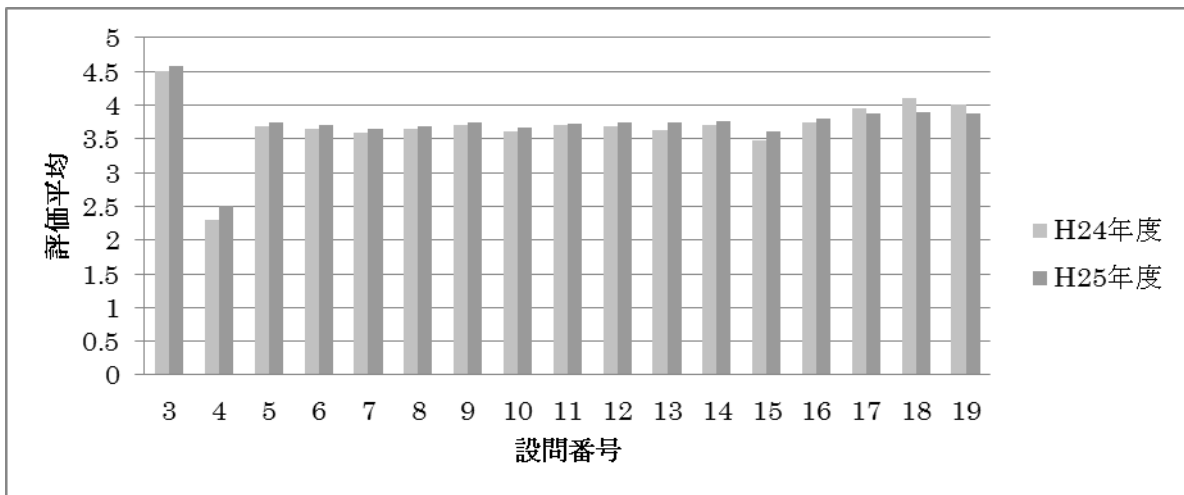


図2 設問別平均値の年次推移

3) カテゴリー別平均値

平成 25 年度の 카테고리別平均値を表 1 に示す。カテゴリー I の学生自身がやや低くなっているが、設問 3 (出席率) と設問 4 (学習時間) は他の設問と選択肢が異なるため、一概に比較はできない。

平成 24 年度の結果と比較すると、全体的に評価結果が上昇していることが分かる (図 3)。

表 1 カテゴリー別平均値

I 学生自身	II 授業内容	III 授業方法	IV 学習成果	V 総合評価
3.6	3.7	3.7	3.7	3.8

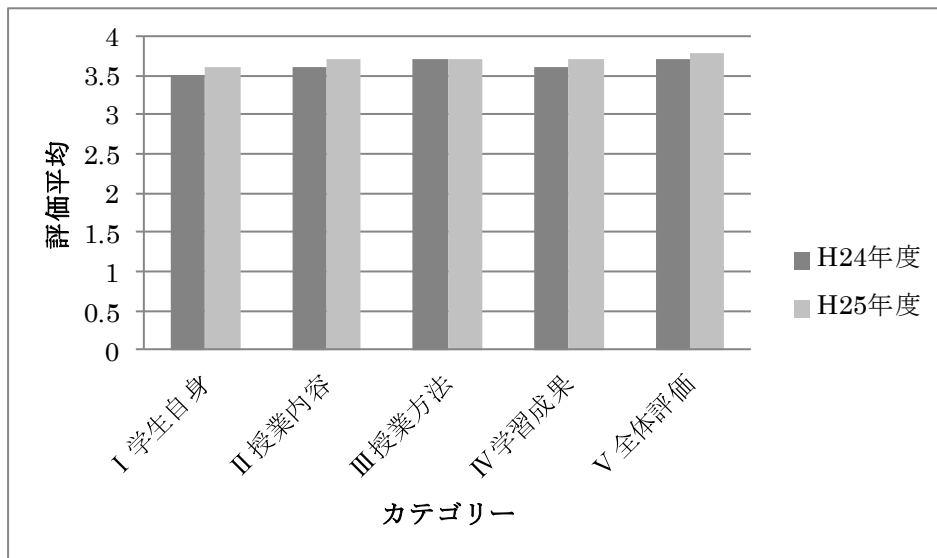


図3 カテゴリー別平均値の年次推移

3. 集計結果の解析と問題の所在

1) 設問・カテゴリー別評価とその年次推移

設問別にみて高い評価を得たのは、設問 17～19 の実習科目に関する設問で評価平均は 3.90～3.92 であった。次いで高い評価を得たものは、設問 16（満足度：評価平均 3.80）、設問 14（基本的な知識を得た：評価平均 3.76）の順であった。一方、評価が相対的に低かったのは、問 15（自分で調べ、考える姿勢を身につけた：評価平均 3.62）、問 7（まとまってよく理解できた：評価平均 3.65）であった。何れについても昨年度と同じ傾向を示した。

この結果から、実習科目については担当教員の熱心な指導が学生に高く評価されていることが分かる。一方、学習成果に対する評価では、学生は授業を通じて「基本的な知識」を得たと感じているものの「自分で調べ、考える姿勢」は知識ほどには身につけていないとしている。但し、何れの設問も評価平均は 3.5 を超えており、特に大きな問題点はないものと考えられる。

また、設問・カテゴリー別評価の年次推移をみると、何れも上昇傾向が認められた。

2) 学年別評価

前期及び後期に得られた全ての授業評価アンケートを学年別に集計し、比較を試みた。その結果、2 年生（平成 24 年度入学生）の評価が他の学年よりやや低く、4 年生（平成 22 年度入学生）の評価がやや高い傾向にある（表 2）。昨年度、学科長に提出された授業評価報告書から解析した学年別の評価結果でも、平成 24 年度入学生（昨年度 1 年）がやや低く、平成 22 年度入学生（昨年度 3 年）がやや高い傾向にあった。これらの結果から、入学年度によって授業評価の評価基準が変動している可能性もある。今後もデータの解析を継続して行なっていく必要がある。

表 2 学年別評価結果

学年	カテゴリー別評価平均					設問 4 学習時間 評価平均
	I 学生自身	II 授業内容	III 授業方法	IV 学習成果	V 総合評価	
1	3.67	3.76	3.80	3.81	3.92	2.49
2	3.52	3.50	3.53	3.53	3.58	2.47
3	3.64	3.68	3.70	3.66	3.76	2.59
4	3.55	3.93	3.99	3.95	4.09	2.46

設問 4 学習時間評価 5: ≥2 時間 4: 1～2 時間 3: 30 分～1 時間 2: <30 分 1: 0 時間

3) 相関分析

次に、設問間の相関係数を求め、有意差の検定を行なった（表 3）。その結果、設問 3（出席状況）と設問 4（授業外学習時間）を除く全ての組合せで有意な正の相関が得られた。

カテゴリーⅣの学習成果に注目すると、設問 13（新しい考え方・発想を得ることができた）、設問 14（基本的な知識を得ることができた）、設問 15（自分で調べ、考える姿勢が

身についた)は互いに高い相関を示すが、これ以外に設問7(授業内容はよくまとまっていて、よく理解できた)及び設問8(授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった)と学習成果の自己評価とが高い相関を示した。学生達は授業方法より、授業内容の良い授業の方が、より多くの学習成果を得られると感じているようである。

表3 相関分析

設問	I 学生自身			II 授業内容			III 授業方法				IV 学習成果			総合評価
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
3	1	0.01	0.18	0.10	0.09	0.10	0.08	0.07	0.09	0.09	0.11	0.11	0.09	0.10
4		1	0.29	0.21	0.19	0.19	0.14	0.14	0.13	0.18	0.19	0.20	0.31	0.19
5	**	**	1	0.64	0.62	0.64	0.55	0.53	0.53	0.56	0.61	0.62	0.59	0.66
6	**	**	**	1	0.71	0.64	0.61	0.61	0.61	0.62	0.60	0.62	0.57	0.65
7	**	**	**	**	1	0.75	0.70	0.70	0.67	0.66	0.67	0.71	0.60	0.74
8	**	**	**	**	**	1	0.66	0.63	0.63	0.64	0.73	0.70	0.63	0.75
9	**	**	**	**	**	**	1	0.71	0.67	0.67	0.61	0.63	0.55	0.69
10	**	**	**	**	**	**	**	1	0.70	0.66	0.60	0.63	0.53	0.67
11	**	**	**	**	**	**	**	**	1	0.68	0.62	0.63	0.54	0.68
12	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	0.66	0.66	0.61	0.67
13	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	0.77	0.69	0.73
14	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	0.71	0.75
15	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	0.67
16	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1

上三角：相関係数、下三角：相関係数の検定 (**: $p < 0.01$)

4. 授業の改善策の検討

今年度も「学生による授業評価」を受けて学科長宛に提出された授業評価報告書に、多くの授業改善策が提案された。これらの改善策をまとめ13のカテゴリーに分けたものを資料1に示す。この資料を医療検査学科教員に提示し、この中から学科FDとして重点的に取り上げたいものを挙げてもらった。その結果を表4に示す。現在、医療検査学科教員が重要であると考えているのは「学生の意識づけ(学生が自ら「学修する」習慣をつける)」、「アクティブ・ラーニング」「課題の内容とフィードバック」「学生を引きつける授業内容」等の項目であった。次年度はこれらの中から学科内FDのテーマを設定して具体的なアイデアを出し合い、より良い授業を作ることを検討していきたい。

表4 医療検査学科教員が重視する「授業改善策」

「改善策」カテゴリー	学科FDで取り上げたいと回答した人数（複数回答）	
1) 授業の目的・到達目標を明確に示す。	2	
2) 他の科目との関連性を提示し、学習意欲を上げる	3	
3) 学生を引きつける授業内容	5	
4) アクティブ・ラーニング<演習など>	5	13
5) アクティブ・ラーニング<グループワーク>	4	
6) アクティブ・ラーニング<その他の手法>	4	
7) 教員によるデモンストレーション	4	
8) 学生の理解度をチェックする。	1	
9) 課題の内容とフィードバック	6	
10) 視聴覚機器の使い方・使い分け	1	
11) 配付資料の内容	4	
12) 同一科目担当教員間の意志疎通	3	
13) 学生の意識づけ	10	

【資料1】 医療検査学科 2013年度授業評価報告書で示された「改善策」まとめ

1) 授業の目的・到達目標を明確に示す。
2) 他の科目との関連性を提示し、学習意欲を上げる
3) 学生を引きつける授業内容 興味を引くトピックス（ニュースになっていることなど）を取り入れる。
4) アクティブ・ラーニング<演習など> 演習形式の講義 授業中に学生の手を動かすことができるようにする。（眠くならないように）
5) アクティブ・ラーニング<グループワーク> グループワークで取り組むプロジェクト・発表会 発表会ではグループ数を減らし、あらかじめ質問者を決めて、活発な学生の発言・参加を誘導する。
6) アクティブ・ラーニング<その他の手法> 学生による active learning 的手法を取り入れる。
7) 教員によるデモンストレーション 演示実験、実物の提示
8) 学生の理解度をチェックする。 小テスト、小テストの解説。中間テストの実施
9) 課題の内容とフィードバック 講義内容の予習を兼ねた自修課題。事前課題 各回の授業のキーワードを提示し、学生に概略を記載させる。 学生が興味のある内容を調査し、それに合わせた課題を与える。 図書館で調べ、レポートで報告する課題 自分で調べ、考えざるを得ない学修について工夫する。 優秀なレポート、課題を公開する。 提出物の確認を遅れずにリアルタイムに行う。
10) 視聴覚機器の使い方・使い分け パワーポイントと配付資料（パワーポイントとは異なる）の併用 パワーポイントを使用した授業は進度が早くなりがちなので、演習問題などを多く取り入れる。 内容に合わせ、OHC、板書を使い分ける 視聴覚教材を使った演習
11) 配付資料の内容 サブノートとまとめプリント（自宅での復習用）の併用 配付資料の書き込み用空欄を広くする。 実習書の改善、オリジナルテキストの作成
12) 同一科目担当教員間の意志疎通 同一科目担当の教員同士が共通認識を持ち、授業改善について協議する。 オムニバス形式の教員間で講義内容の整合性・一貫性を調整する。
13) 学生の意識づけ 学生が自ら「学修する」のが普通であるという習慣を1年次に身につけさせる。

2. 保健科学部 看護学科

1. 調査方法

- 1) 調査時期：平成 25 年度前期末・後期末
- 2) 調査対象：看護学科の科目担当者
- 3) 調査方法：学生による授業評価調査票および学科長に提出された教員の授業評価報告書
- 4) 設問：概要資料 A を参照のこと
- 5) 授業評価実施数
 - ①授業評価アンケート回答数（学生の延べ人数）：6,199 名
 - ②うち学科長に報告書が提出された科目数： 78 科目

2. 学生による授業評価の集計結果

- 1) 設問別授業評価結果（図 1）

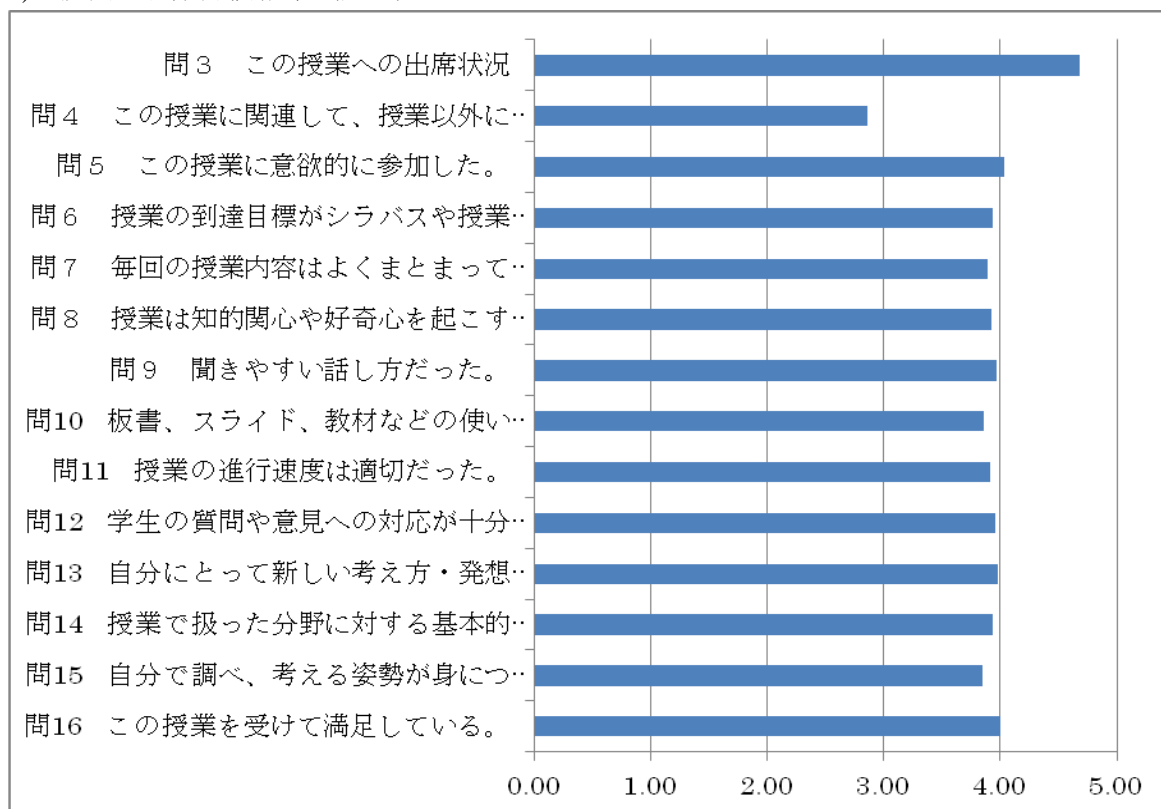


図 1 設問別回答分布

設問別にみても、各設問において平均値は、すべて 3.8 以上と高い評価を得ている。特に、4.0 以上と高い評価を得た設問は、問 5(意欲的な授業参加)、問 16(授業満足)である。一方、問 3 (出席状況)は高いものの、問 4 (授業一回あたりの自己学習時間)は少ない。

演習科目に対する設問は、回答延べ人数が少ない傾向があるが、他の問いと大きな差はなく、問 18 (到達度の確認) 3.97、問 18 (教員間の連携) 3.93 となっている。看護学科独自の設問である、問 19 (具体的な説明) 4.05、問 20(心に響く内容)3.99 と、いずれも高評価を得た。

2) カテゴリー別平均値（表 1）

平成 25 年度の カテゴリー別平均値は、Ⅰ 学生自身、Ⅱ 授業内容、Ⅲ 授業方法、Ⅳ 学習成果のいずれもが平均 3.9 である。昨年と比較すると、カテゴリー総てが 0.1 上昇している。特に、Ⅴ 総合評価において、4.0 と高い評価を得た。

表 1 カテゴリー別平均値

	Ⅰ 学生自身	Ⅱ 授業内容	Ⅲ 授業方法	Ⅳ 学習成果	Ⅴ 総合評価
平成 25 年	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0
平成 24 年	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9

3) 学科長に提出された教員の授業評価報告書結果

①学科長に提出された教員の授業評価報告(兼任教員・非常勤を含む)について、まとめた。本年度は、78 科目が提出された。（表 2）

表 2 学科長に提出された授業評価結果(兼任教員・非常勤を含む)のまとめ

科目数	一科目あたりの履修者数	出席率(%)	定期試験成績平均	カテゴリー別評価平均				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
78	60.4	96.3	77.2	3.77	3.71	3.76	3.75	3.88

教員（兼任教員・非常勤教員を含む）が、学科長に提出した授業評価報告書のまとめの結果では、カテゴリー別評価平均が、いずれも全体で出された看護学科平均値より少し低い値が示された。

教員の自主的な提出科目 78 科目の平均であることから、表 1 の数字と異なる結果となっているが、全体的にみると同様の結果を示している。常勤と非常勤教員の評価が混在していること、他学科教員の兼任授業評価も含めた結果であることなどの条件は同様である。以下、学年別、必修・選択科目別の分析は、このデータに基づく分析である。

②学年別評価結果（表 3）

表 3 学年別評価結果（複数学年が履修する科目を含み、延べ 84 科目）

学年	科目数	一科目あたりの履修者数	出席率(%)	定期試験成績平均	カテゴリー別評価平均値				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	30	61.6	95.8	76.3	3.59	3.66	3.67	3.65	3.80
2	24	65.7	91.9	71.4	4.00	4.11	4.10	4.13	4.23
3	20	60.6	93.3	73.2	3.83	3.96	3.93	3.96	4.14
4	10	52.1	95.8	76.0	4.07	4.15	4.19	4.15	4.23

学年ごとの集計結果からは、カテゴリー別評価の平均値は、2 年生と 4 年生においては、5 つのカテゴリーが、すべて 4.0 以上となった。なお、本授業評価は、実習科目は、含まれていない。

③必修・選択科目別評価結果（表4）

表4 必修・選択科目別評価結果

必修・選択	科目数	一科目あたりの 履修者数	出席率(%)	定期試験 成績平均	カテゴリー別評価平均				
					I	II	III	IV	V
必修	46	81.2	87.20	71.6	3.84	3.79	3.83	4.28	3.87
選択必修	15	52.4	72.4	80.1	3.40	3.96	3.99	3.94	4.05
選択	17	14.8	77.9	81.0	4.09	4.32	4.40	4.41	4.57

必修・選択科目別の集計では、必修科目に比べて選択科目は、カテゴリー別の評価平均値がすべてにわたって高かった。自主的に選択した授業科目においては、学生の授業参加意欲も高く、学習成果だけでなく総合評価も高いことが示唆される。また、授業内容や方法なども好ましく捉える傾向があることが推察される。

3. 集計結果の分析と問題の所在

1) 本調査は、24年度に設問項目の検討がなされ、個々の授業の平均値を検討することには限界はあるものの、学科の全体的な傾向として集計結果を受けとめ、専任教員だけでなく、非常勤教員を含めて授業評価に取り組んでいる。本年度は、本調査の結果をもとに検討した授業改善案をまとめて、学科会議で共有した。5分野の回答の平均値が3.9以上と昨年より、上昇したことは、個々の教員が継続して授業改善に取り組んだ現れであると推察され、良好な授業改善の成果が出たものと考えられる。しかし、一部全体評価の平均値が、「3.0」以下の授業科目も存在するので、今後も積極的な授業改善の具体的な検討を継続する必要がある。

2) 「学生自身」が、3.9以上と昨年比べて1.0ポイント上昇した。しかし、学生の学習時間は、依然充分とはいえず、学生の学修状況を分析するなかで、実態的な学修を引き出す動機づけを今後も継続していく必要があることが示唆される。

3) 学生の授業評価は、担当教員がその結果を真摯に受け止め、自己の教育活動を振り返るきっかけになるもので、多くの教員が具体的な授業改善につながる取り組みを実践している。学科長に授業評価報告を提出するだけでなく、効果的な授業改善案について学科内の情報共有化を図ることや姿勢が、望ましい教育体制の基盤づくりの核となっていくと考える。

4. 授業の改善策の検討

学科長に提出された報告書からは、各教員が学生の授業評価を受けて、自己の授業を見直しながら、授業改善の必要性を意識して実践していることが推察される。ほとんどの教員が、改善を要すると考えられる評価項目の改善策を具体的に推進している。学科全体として、実際に学生の授業評価が年々上昇してきていることは、個々の教員にとっても励みとなっている。しかし、学生自身の自己評価項目「意欲的な授業参加態度」や「自己学習時間」が低い学生も存在するので、学生側の気づきを促しながら、授業参画への

動機づけや主体的な学習による授業理解度の向上にむけて、個別的な教員側のサポートも重要である。

本年度においては、授業の質向上を図るための環境作りとして、効果的であった授業改善策の情報共有化を行ったことも、教員間の共通認識を形成していくことにつながり効果的であったと考える。

授業評価の方法については、授業形態や科目の特性も大きいため、複雑な課題もあるが、学科会議での教員相互の情報交換や、FD研修などを通じ、教員自身が主体的な授業改善に向けての自己努力を継続していくことが重要である。

3. 教育学部 こども教育学科

1. 調査方法

- 1) 調査時期：平成 25 年度 前期末・後期末
- 2) 調査対象：こども教育学科の科目担当者
- 3) 調査方法：学生による授業評価調査票記入
- 4) 設問：概要資料 A を参照のこと
- 5) 授業評価実施数
 - ①授業評価アンケート回答数（学生の延べ人数）：4798 名
 - ②うち学科長に報告書が提出された科目数：62 科目

2. 学生による授業評価の集計結果

1) 設問別回答分布

平成 25 年度前後期こども教育学科の学生による授業評価調査の設問別回答分布を図 1 に示す。

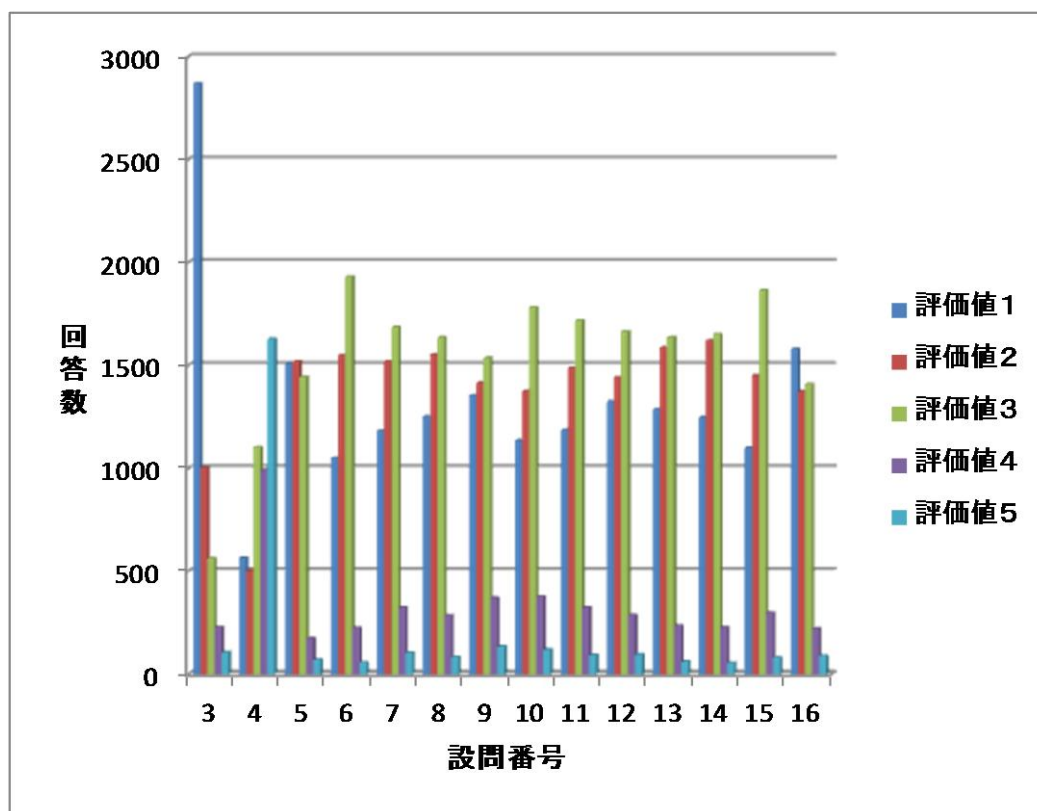


図 1 設問別回答分布：評価 5 を左に表示

2) 各設問の平均値

各設問の平均値を図 2 に示す。設問 3～16 の各設問において平均値が 4.0 以上だったのは、設問 3 の「この授業への出席状況は？」のみだった。また、最も平均値が低か

ったのは、設問4の「この授業に関連して、授業以外に学習した時間。（授業1回あたりの平均時間）」であり、中央値3ポイントを下回っていた。その他の項目はすべて3.6～3.9の範囲に分布していた。

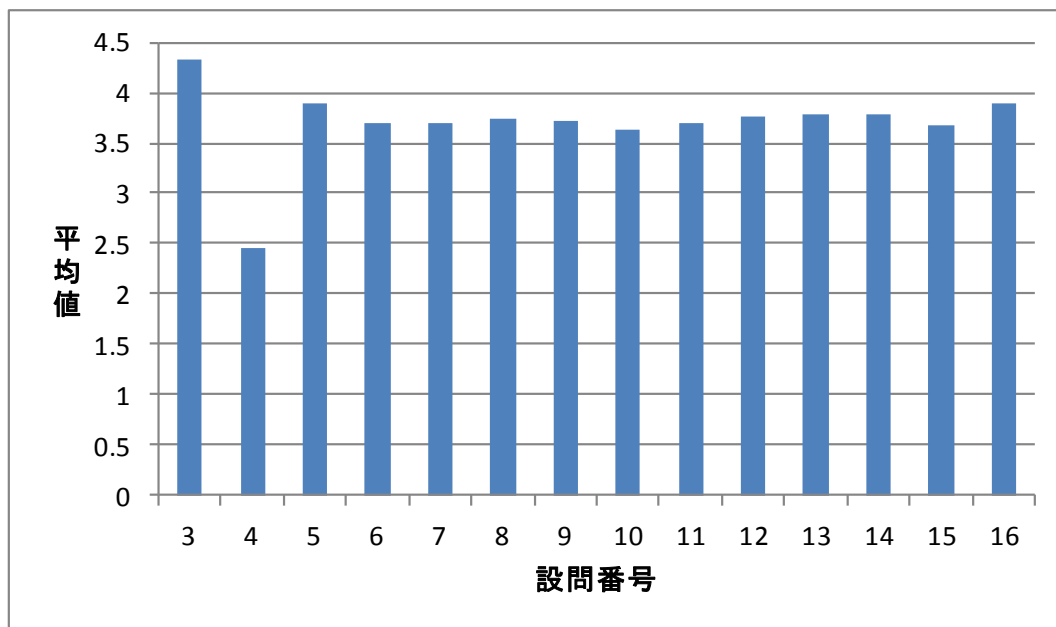


図2. 設問別平均値

3) カテゴリー別平均値

カテゴリー別平均値を表1、図3に示す。各平均値は3.6～3.9の間に分布していた。高いものから V総合評価> II授業内容=III授業方法=IV学習成果> I学生自身の順であった。

表1 カテゴリー別平均点

I 学生自身	II 授業内容	III 授業方法	IV 学習成果	V 総合評価
3.6	3.7	3.7	3.7	3.9

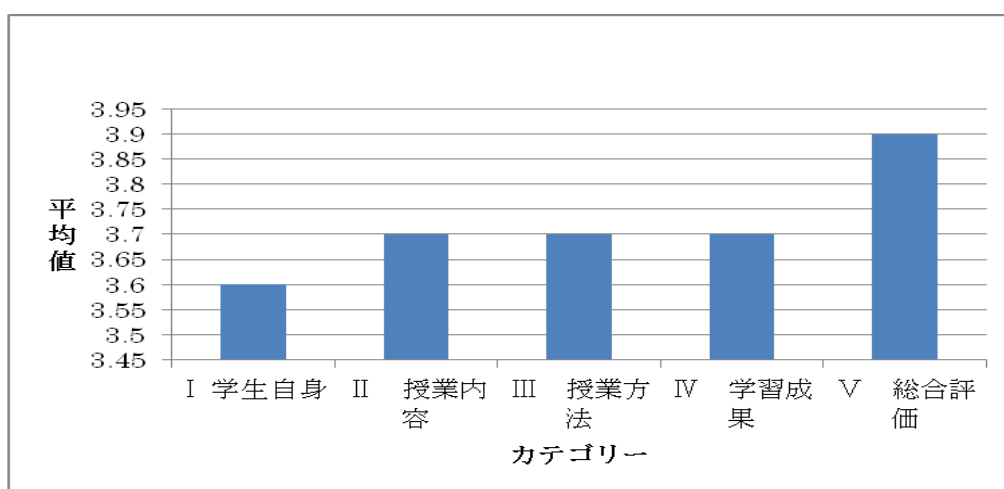


図3 カテゴリー別平均点

3. 集計結果の分析と問題の所在

1) 全体評価

設問別評価では、出席状況（最高値 4.32）、授業時間外の学習（最低値 2.45）であり、授業時間内での学習には積極的に参加しているが、授業時間外での学習には非常に消極的であることを示している。

また、これらの設問を除くすべての設問において、はやや肯定的な回答であることを示す 3.6～3.9 の値であった。これら上位3位の設問は、設問 5「この授業に意欲的に参加した。」（3.90）、設問 16「この授業を受けて満足している。」（3.88）、設問 13「自分にとって新しい考え方・発想を得ることができた。」（3.79）、設問 14「授業で扱った分野に対する基本的な知識を得ることができた。」（3.79）であった。一方、下位3位の設問は、設問 10「板書、スライド、教材などの使い方は、わかりやすく適切だった。」（3.63）、設問 15「自分で調べ、考える姿勢が身についた。」（3.67）、設問 6「授業の到達目標がシラバスや授業でわかりやすく示された。」（3.69）であった。

これらのことから、教員がすぐに着手できることとして、教材内容の見直しと、授業の到達目標の提示があげられる。また、結果から浮かび上がってくる学生像は、授業には意欲的に参加しているが、自ら調べたり考える姿勢にまで結びついておらず、授業時間内では受け身的な学習に偏っている可能性がある。授業時間外の学習時間を増やすという点からも、学生が「調べた」「考えた」という自覚を持てるような授業を進めていくことが、学生自身の学習に対するモチベーションにもつながると考える。

2) カテゴリー別評価

すべてのカテゴリーにおいて肯定的評価を得ているものの、相対的に全学科の平均値よりも 0～0.1 ポイント程度低かった。中でも I 学生自身に関しては 5つのカテゴリーの中で最も低かった。このことは各教員は問題意識として、学生自身が学ぶことに意欲を持って主体的に学習に臨めるようにしたいという意見も出ており、今後の授業内容の精査、授業展開において改善方法を模索している。

4. 授業の改善策の検討

今年度は「学生による授業評価」を受けて学科長宛に 62 科目の報告書が提出されたが、この中で多くの授業改善策が提案された。また、今年度より全学科より前期に出されて改善策を学科会議で共有、確認し合うことにより後期の授業に活かせるようにした。

以下に本学科より出された改善策を示す。

<授業内容>

- ・模擬保育という体験学習の後の学びの共有時間を取る。
- ・他の科目とのグループワークや模擬保育等の調査と調整。
- ・実習体験がない学生に、現場のイメージをもって主体的に取り組める内容の工夫が必要。
- ・プレゼンテーションから「ディベート学習活動」へと難易度を上げていく。
- ・発表会時期の検討。

- ・より具体的な内容や興味を持てる話題を検討。
- ・興味を持てるテーマを選ぶ。
- ・教科書に沿った演習と自由な創作のバランスを再考。

<授業方法>

- ・本物を見せ体験させる。
- ・わかりやすく説明する。
- ・ゆっくり話す。
- ・解説をもう少し丁寧に加える。
- ・ふりかえりを丁寧にする。
- ・授業を受ける意義について授業開始時に説明しモチベーションを高める。
- ・来年度は、事前にプリント等を配布し、実験準備も学生にさせる。
- ・板書の字をもっと丁寧に書く。
- ・身体を動かして、学生自身が体感する授業方法が有効。
- ・質問や意見を学生に聞く機会を多くする。
- ・学生との応答関係を築きながら授業をすすめる。
- ・実習に出向くための教材を学生自身が調べて発表する。
- ・学生の授業の感想を次の授業に入れて双方向性の授業。
- ・指導する対象に最も適した指導方法を見つけ出す。
- ・時間配分を考え直す。

<課題・レポート等>

- ・授業内で10回以上の提出物。
- ・学内サーバ上にファイルを提出。
- ・手書きの小レポートに関しては、PDF化して記録を残した上で、何らかのコメントを書いて返却。
- ・学外での活動（講演会の参加、展示の見学）など、レポートとして提出できる仕組みを検討。
- ・レポートの書き方にも指導が必要。
- ・授業外学習は個別の授業だけの対応は難しいので学科全体で取り組む。
- ・課題は厳選して量を減らす。
- ・授業にフィードバックする具体的な課題を出す。
- ・学生の自律的学習につながるような授業外学習のための課題を出す。
- ・家庭学習や課題などの量的増加のみならず、質的な内容についてもより深い部分での指導が必要。

<視聴覚・配布資料・テキスト>

- ・ワークシート形式。
- ・授業ノートの活用方法の工夫。
- ・資料を配付しすぎない。
- ・例示などを具体的にみせる。
- ・配布資料を授業回毎に作成。
- ・授業ごとにレジメを作って配る。

- ・配布資料の空欄の取り方を注意。
- ・スライドの枚数を増やしても中に入れる文字数を少なく見やすくする。

<その他>

- ・自然発生的な私語についての対策ないし工夫を模索。
- ・授業中の私語については個人的に声をかけるべき。
- ・他者の学びを自分の学びにできるようになるまで担当教科の中で繰り返し語り続けていく。
- ・シラバス通りの授業内容を示す。
- ・グループ活動への指導は複数の教員が担当するなど、丁寧な指導体制が求められる。
- ・学生の学習意欲の喚起が課題、学習の必要性を訴える。
- ・学生の意欲を引き出すための努力が必要。
- ・学生が能動的になるような授業改善が必要である。
- ・事前指導の時期や方法の徹底について検討。
- ・授業準備時間をもっと増やす。
- ・能力に差のある学生達に同時にわかりやすく教える工夫。
- ・授業を支援するオリジナルのサポートシステムの開発。
- ・学生の自律的学習につながる動機付けを促す授業にする。
- ・1人1人に合った指導の形をできるだけ早く見つける。
- ・公平に対応を受けているという認識を学生が持つように気をつける。
- ・遅刻欠席の学生の対応で、他の学生の時間を無駄にしない。
- ・オムニバス：授業開始前に、授業改善に向けて担当教員間での話し合いを深める。
- ・オムニバス：非常勤の先生に早い段階でのスケジュールの確認や準備を行う。

特に今年度は学生の様子から授業外の学習が一時期に集中するなどといった学生の負担が見受けられたこともあり、学科FDでは、各授業科目の内容の重複および脱落の確認を行うため、教員間で授業回毎のキーワードを報告したり、課題などの授業外学習の実施状況も確認し、学生の過負担の調整を図った。専任教員、非常勤教員ともに他の教員との授業内容の情報共有及び精査が十分とはいえない部分もあり、完成年度に向けて毎年新しい科目が開講される本学科では、今後も気をつけたいところである。

4. 短期大学部 口腔保健学科

1. 調査方法

- 1) 調査時期：平成 25 年度 前期末・後期末
- 2) 調査対象：口腔保健学科の科目担当者
- 3) 調査方法：学生による授業評価調査票記入
- 4) 設問：概要資料 A を参照のこと
- 5) 授業評価実施数
 - ① 授業評価アンケート回答数（延べ人数）：4424 名（受講者数 5061 名、回答率 87%）
 - ② うち学科長に報告書が提出された科目数： 40 科目

2. 学生による授業評価の集計結果

1) 設問別回答分布（図 1）

平成 25 年度前・後期口腔保健学科の学生による授業評価調査の設問別回答分布を図 1 に示す。

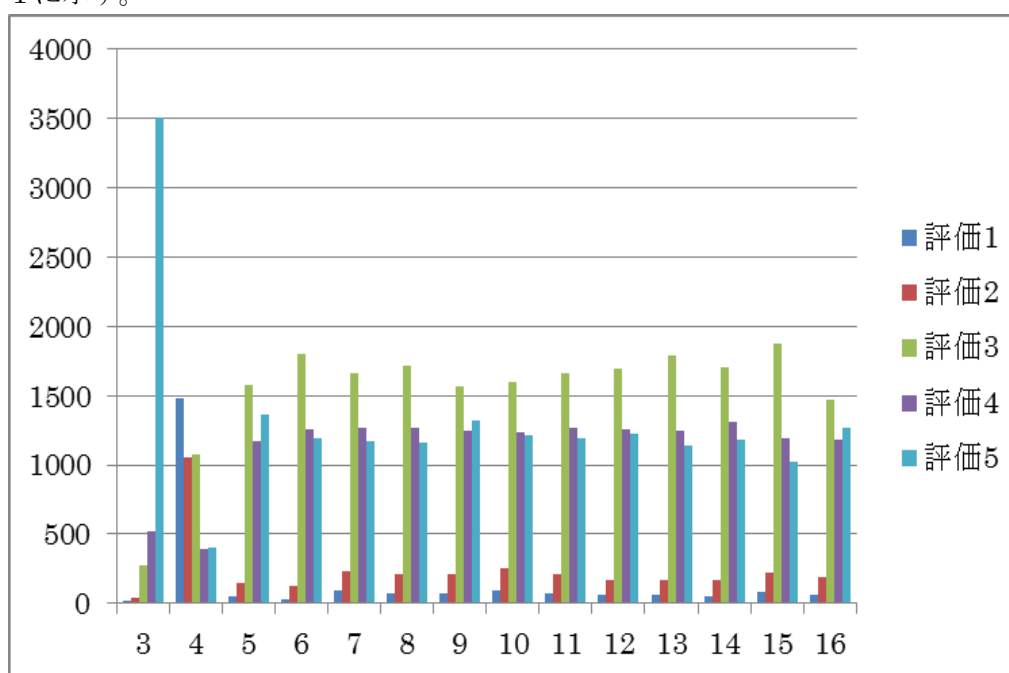


図 1 設問別回答分布

2) 各設問の平均値（図 2）

各設問の平均値を図 2 に示す。設問 3「授業への出席状況」の平均値が 4.71 と突出して高く、設問 4の「授業以外の学習時間（授業 1 回あたりの平均時間）」は 2.36 と他の設問に比較して極端に低い評価であった。その他の項目はすべて 3.6～3.9 の範囲に分布しており設問間に大きな差は認めなかった。

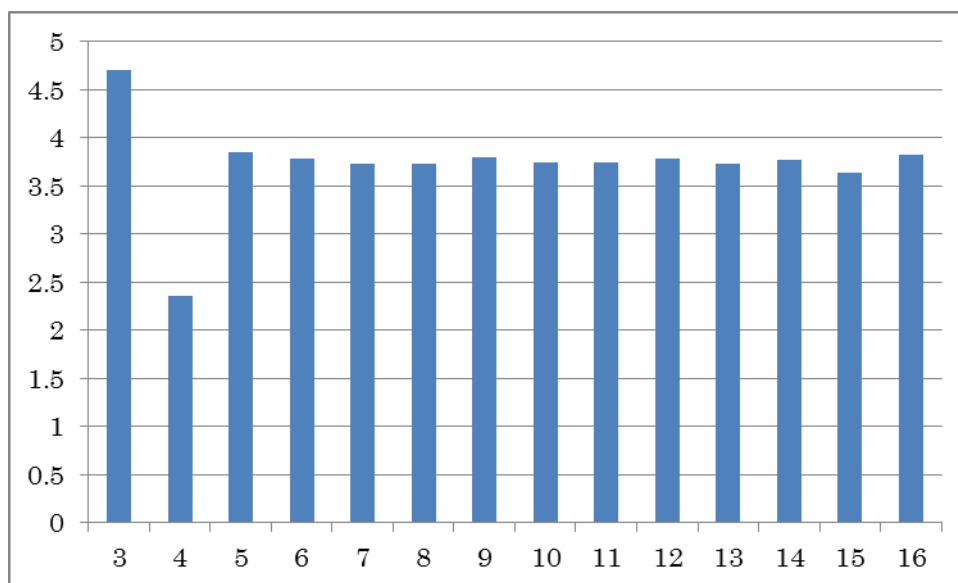


図2. 設問別平均値

3) カテゴリー別平均値 (表1)

カテゴリー別平均値を表1に示す。各平均値は3.6~3.8の間に分布しており、ⅡからⅤの各カテゴリー間に大きな差はない。

表1 カテゴリー別平均点

I 学生自身	II 授業内容	III 授業方法	IV 学習成果	V 総合評価
3.6	3.7	3.8	3.7	3.8

3. 集計結果の分析と問題の所在

1) 全体評価

設問別評価では、全学科を通じて設問3の出席状況が最突出して高い評価(平均4.71±0.18)であり、設問4の授業時間外の学習が最低評価(平均2.36±0.58)となった。この傾向は前年度とまったく同様であり、授業には出席しているが、授業時間外での学習には消極的であることを示している。さらに設問4では前期よりも後期の授業外学習時間がさらに低下していることから時間の経過と主に学習意欲の低下が進行していると考えられる。

また、これらの設問を除くすべての設問において前年度と同様に3(どちらでもない普通)と評価した学生が圧倒的に多く、1, 2が非常に少ないという傾向が2年連続で認められたことは、今後、設問内容と回答肢が適切であったのか検討する必要があると思われる。

ただ、詳細に分析すると、評価が高い傾向であった(5が4よりも多い)のは設問5「意欲的に参加」、9「聞きやすい話し方」および設問16「満足度」であり、低評価(1, 2)が比較的多い設問は7「授業内容の理解」、8「知的好奇心を惹起」、9「聞きやすい話し方」(設問9は二極傾向化)、10「板書、スライド」、11「進行速度」、

15「自分で調べ、考える姿勢」であった。

これらのことから、授業には意欲的に参加しており、一部には授業内容や進行速度に不満を持つ者もいるが概ね授業には満足している学生が多いことに気付く。しかし、自ら調べ考える姿勢がなく、授業時間外の学習時間も少ないことから授業そのものが「習得する」「考える」授業にはなっておらず、いまだに「教えられる」ことが中心であることを物語っている。教員が目標にすべきこととして、授業の中で（できれば授業の前に）学生が「疑問を持ち考える」ことを意識した授業方法であり、予習を前提とした授業内容である。抜本的な授業内容の見直しを図らなければいつまでも評価3程度の授業が続くことになる。

2) カテゴリー別評価

全学科平均ではすべてのカテゴリーで4.0を下回っている。本学科は、Ⅲ「授業方法」以外のカテゴリーにおいて全学科平均よりも低い(0.1ポイント)評価であった。全学的にⅠ「学生自身」の中でも「授業外学習時間」の少なさが目立つ。全ての学科において革新的な授業内容の導入やカリキュラム再編などの教育改革が求められているといえる。

4. 授業の改善策の検討

今年度は「学生による授業評価」を受けて学科長宛に40科目の報告書が提出された。今年度より全学科より前期に出されて改善策を学科会議で共有、確認し合うことにより後期の授業に活かせるようにした。以下に、授業評価報告書から抽出した「効果の見られた授業方法」や「改善策」を前期分と後期分に分けて掲載する。

1) 前期分

<授業内容>

- ・ 分かりやすい授業進行。
- ・ 学生が、知らなかったことを知る喜びを得られるような授業
- ・ 学生が親しみやすい内容から始め、まず意欲を引き出す構成にする
- ・ より具体的な内容や作業を取り入れる
- ・ 学生が興味を持てるホットな話題を取り入れる
- ・ 時間数を増やす、もしくは到達目標を下げる

<授業方法>

- ・ 学生自身が疑問を感じ、自主学習する姿勢につなげる
- ・ 自宅学習が効率よくおこなえる授業内容を考える
- ・ 小人数のグループ演習
- ・ 学生自身に実践のフィールドを探させる
- ・ 限られた授業回数の中で学生にフィードバックできる方法を考える
- ・ 正しい筆記用具の持ち方など基礎基本に立ち返る時間を確保する

<課題・レポート等>

- ・ 小テストの実施
- ・ 臨地実習への準備としてのまとめのノート作成

- ・ 厳しい採点基準を設ける

<視聴覚・配布資料・テキスト>

- ・ 配布資料は通常の印刷では分かりにくいいため、講義内容を収録したCD-ROMの作成および配布時期を早める
- ・ 自己学習や予習、復習できるように教科書を事前に提示する
- ・ パワーポイントは内容を絞り見やすく
- ・ 前準備をしっかり整える
- ・ 漫画を使った教材。

<その他>

- ・ 座席は自由に座らせる
- ・ 可能な限り人員を配置してこまやかな指導を実施
- ・ 教員間の信頼関係の構築
- ・ 見やすい板書
- ・ 授業を妨害する学生対策を講じる
- ・ 授業の順序性を考えて開講時期を設定する
- ・ 配布資料を事前学習用に前もって渡しておく

2) 後期分

<授業内容>

- ・ 2年間同じ内容で指導要領を作製しているので、対象のニーズに合わせた内容に変更していく
- ・ 1回の授業のボリュームを適正にする
- ・ 本授業（実習）の目的や意義を理解させ、理解を深める
- ・ 科目間のつながりや順序性、開講時期などを適正にする
- ・ 自ら学習するような動機づけとその方策を身につけるような授業の組み立てが必要
- ・ 臨床現場と教科書とのギャップを埋める努力も必要
- ・ 最初に概略を述べる

<授業方法>

- ・ 板書を増やす
- ・ 重要箇所を虫食い（穴埋め）にして確認させる。
- ・ パワーポイントによる講義
- ・ 一方的な講義形式ではなく、演習やグループワークを実施し、学生自身が考え知ろうとする気持ちを引き出せる組み立てを行う
- ・ 授業のはじめに到達目標を明示し、学修の認識を高める
- ・ 就職先の拡大に合わせて病院医療や地域医療にまで視野を広げ意義を伝えていく
- ・ 限られた短い授業時間でも、その中で知識や技術を身につけられるような工夫が必要

<課題・レポート等>

- ・ 授業毎に前回の復習小テストを実施する
- ・ シミュレーターを使用する

- ・ 実習レポートを事前に配布し予習させる

<視聴覚・配布資料・テキスト>

- ・ 講義内容を収録したCD-ROMなどを作製して学生に渡す。その時期を早める
- ・ 図や動画を用いて興味を沿そその内容にする
- ・ イメージを創りやすい授業運営のために、病態動画を増やす
- ・ パソコンなどの使用機器が苦手な学生のために指導時間を増やす必要がある

<その他>

- ・ 複数教員による授業では、教員による指導方法の統一を図るために、研修会や公開授業への参加を勧める
- ・ 毎回の授業で、一人ひとりと対話できる時間を設け、気持ちを確認しながら授業を進める
- ・ そう重要ではないと思われる事項でも国家試験に出ているので、一通り教科書は説明する
- ・ 授業は真剣にかつ楽しく興味を持って受講できるような工夫が必要

5. 短期大学部 看護学科通信制課程

1. 調査方法

- 1) 調査時期：平成 25 年度 春期・秋期スクーリング後
- 2) 調査対象：看護学科通信制課程のスクーリング科目担当者
- 3) 調査方法：学生による授業評価調査票記入
- 4) 設問：概要資料 A を参照のこと
- 5) 授業評価実施数
 - ①授業評価アンケート回答数（学生の延べ人数）：1471 名
 - ②うち課程長に報告書が提出された科目数： 8 科目

2. 学生による授業評価の集計結果

1) 設問別解答分布

平成 25 年度前後期 看護学科通信制課程の学生による授業評価調査の設問別解答分布を図 1 に示す。

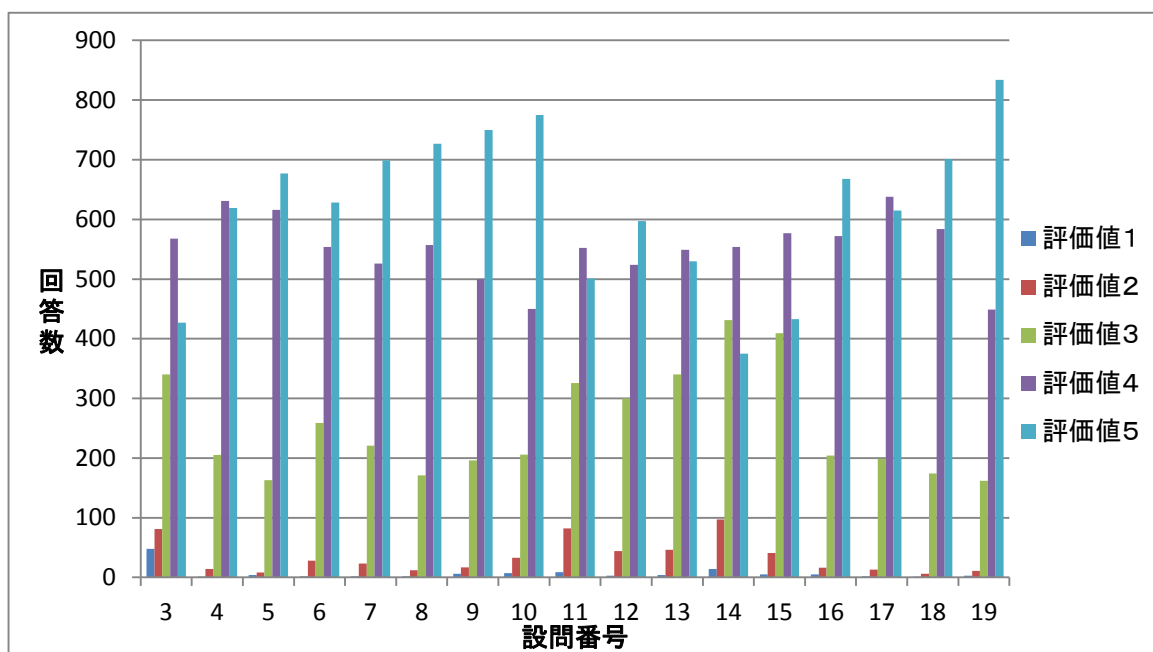


図 1 設問別回答分布

2) 各設問の平均値

設問 3～19 の各設問において平均値が 4.0～4.5 と高かった設問は 13 項目ある。4.35 以上の項目 3 項目あり、最も高かったのは総合評価で「この授業を受けて満足している」であった。ついで授業内容の問 8「抽象的な内容については適度に例を示して具体的な説明があった」、学習成果の問 18「自分で調べ、考える姿勢の大切さに気付いた」であった。一方、平均値が低い設問は授業方法の「ノートをとるための時間」、学生自身の「シラバスを読んで授業に臨む」であった。

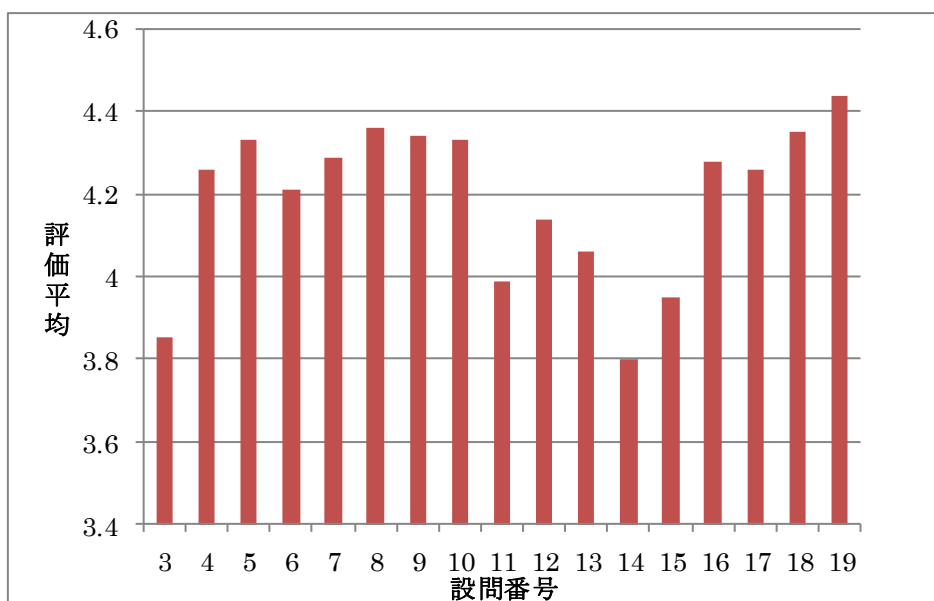


図2 設問別平均値

3) カテゴリー別平均値

すべてのカテゴリーにおいて4.0以上であった。高いものから V総合評価>II授業内容=IV学習成果>I学生自身>III授業方法の順であった。

表1 カテゴリー別平均値

I 学生自身	II 授業内容	III 授業方法	IV 学習成果	V 総合評価
4.2	4.3	4.0	4.3	4.4

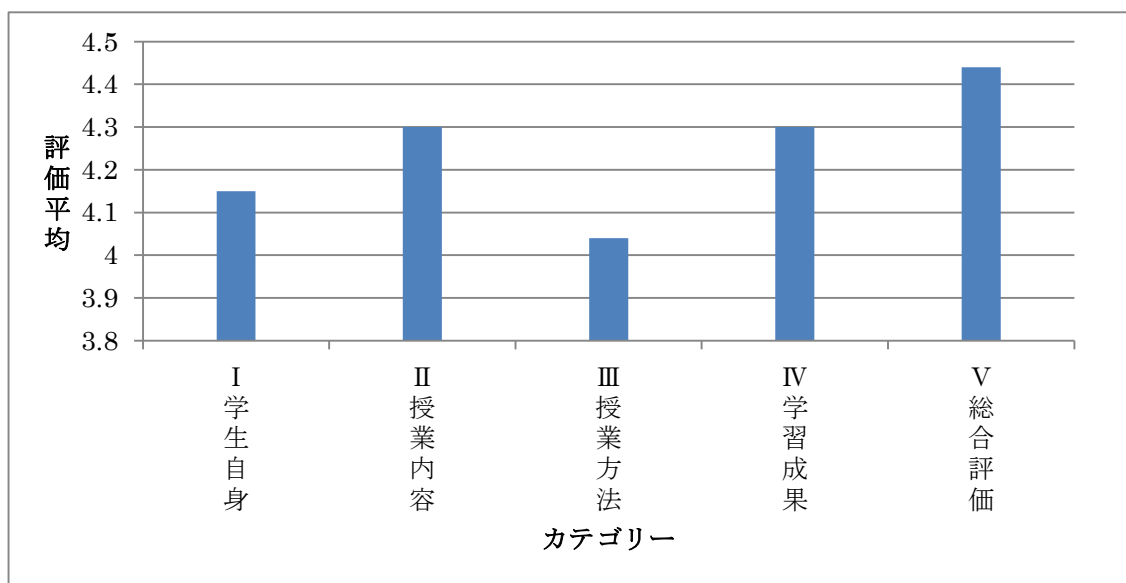


図3 カテゴリー別平均値

3. 集計結果の分析と問題の所在

1) 設問・カテゴリ別評価

設問別評価では、平均値が4.0～4.5と高かった設問は、17設問中13項目あり全体に高い評価を得ている。最も高かった項目は、「この授業を受けて満足している」であり、総合的に授業に対する評価が高いことを意味している。授業評価を受けた8科目は学習の基礎となる内容であり、入学後早い時期に履修する科目である。「自分で調べ、考える姿勢の大切さに気付いた」が高い評価を受けていることからこれからの学習に向かう姿勢を養うことにつながっていると考えられた。また、「抽象的な内容については適度に例を示して具体的な説明があった」ことが、学習意欲を高める要因になっていることも考えられる。一方、平均値が低かった「シラバスを読んで授業に臨む」「ノートをとる時間がちょうどよい」などは、例年教員間で課題として抱えている内容である。カテゴリ別評価でも、すべてのカテゴリにおいて4.0以上と高い評価を得ているが、Ⅲ. 授業方法に関しては5つのカテゴリの中で最も低かった。今回の評価を受けて、授業内容や授業方法の具体的な改善策を検討することが求められる。

2) 春期スクーリングと夏期・秋期スクーリングの比較

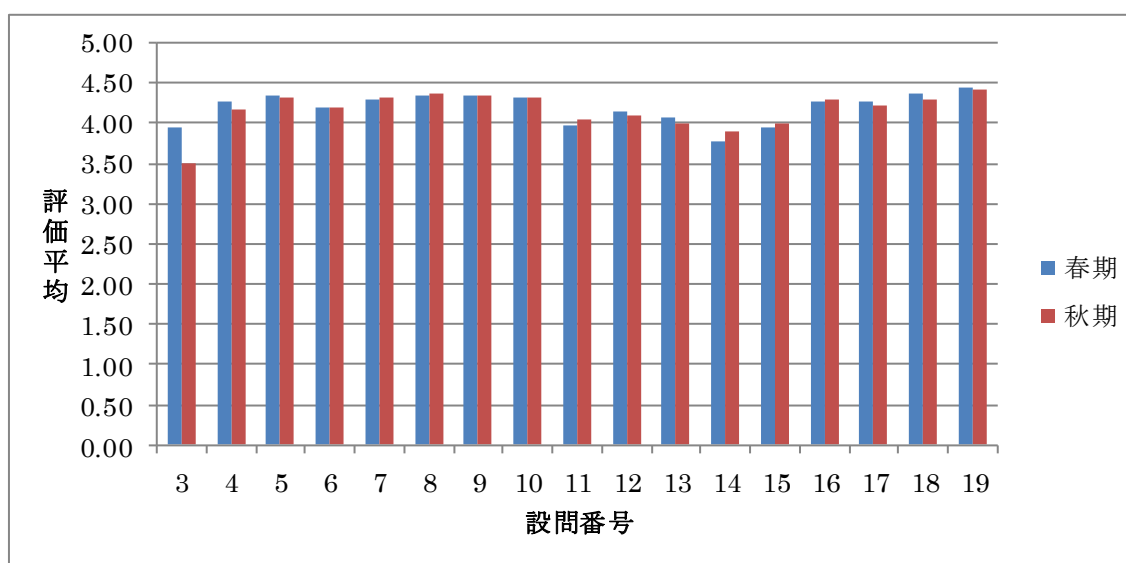


図4 各設題平均値の比較（春期と秋期）

これまで、入学直後に開講される春期スクーリングの受講生に比べて、秋期スクーリング受講生は全体に平均点が低い傾向が見られていたが、今年度は17設問中6設問で秋期スクーリングの評価平均が高いという結果だった。特に授業内容や授業方法での問いに高い評価が得られていた。学習成果では「自分にとって新しい考え方・発想を得ることができた。」の問いに対して高い評価が得られている。秋期スクーリング

が低い評価となった設問では「シラバスを読んで授業内容を確認して臨む」があった。

秋期に履修する学生に対して、科目に向かう姿勢を維持するための働きかけを検討する必要があると考えられる。

4. 授業の改善策の検討

1) 前期授業評価報告書をもとに10月の課程会議で「授業の改善策について」討議し、次年度シラバスの内容の見直しに生かした。教員からは以下のような改善策が挙げられた。

- ・通信制課程の教育理念、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーディプロマポリシーに沿った授業案の見直しを再度行う。
- ・シラバスを読んで授業に臨むことを、入学式の挨拶時に呼びかけることを検討する。
- ・授業前に概論授業の全体像を提示し、それぞれ話す内容について、目的と位置関係がわかるように工夫する。
- ・後から読んで理解の補助になるようにレジュメの内容を改善する。
- ・事例を活用することで、学生の理解を深める。
- ・「ペースが速い」と感じる学生のために、メモやノートの取り方について講義を行う。
- ・スライド資料にテキストのページ数の提示を行う、資料にもページ数を表示するなどして丁寧に説明する。
- ・身近な事例や直近のニュースや他の科目の関連の話を交えながら授業を構成する取り組みを実施していくことを考える。
- ・授業内容全体のバランスと時間配分を見直す。

特にディプロマポリシーに沿った授業案の見直しと学生に何を到達させたいか、全体像の中での授業の目的を明確にすることを教員間で意思統一した。通信制課程では、対面授業の後は自宅での学習となりモチベーションを維持することが学生の一番の課題となる。入学当初の対面授業で、その後の学習の動機づけとなるように授業を継続していきたい。

2) 2月の課程会議では授業の改善策の全学科まとめを提示し、教員から以下の意見がでた。

- ・ 授業の進め方に関しては細かい内容ではあるが、改めてこのような工夫をしようと思わせるものもあり役に立つと思う。FDのヒントになる内容である。
- ・ 内容と方法に関しては精選・簡潔にすることの必要性を感じた。
- ・ 授業内容で自分の授業内容に活用できる具体的内容があり参考になった。
- ・ 毎回の到達目標を明確にしながらか感動を与える授業をすべきだと感じた。
- ・ 導入に時間をかけているのを見直さないといけないなど、自分の課題に気づけた。
- ・ 自分の授業方法を模索している。研修に行ったりもしているが、授業の改善策の全学科まとめを見たときに他の先生方が模索している様子が分かり勇気をもらえた。

通信制課程での授業スタイルの特性から、具体的な改善策として、すぐ活用できるものではないが、他学科の教員の意見を共有することで教員の授業改善に対する意欲の向上に役立ったと思われる。

第3部 自己点検・評価委員会 年間活動方針報告

はじめに

平成25年度は、短期大学部が第三者評価を受審しただけでなく、翌年度に受審予定の大学認証評価に対応していくという、自己点検・評価活動にとって重要な年でした。このため、年間活動方針には「自己点検・評価を改善・向上につなげる方策の検討」という大きなテーマを掲げました。

具体的な目標としては、

1. 年次報告書を活用したフィードバック体制の強化
2. 改善・向上に有用な情報の共有化

以上の2項目を定め、取り組みを進めてまいりました。以下にご報告いたします。

1. 年次報告書を活用したフィードバック体制の強化

自己点検・評価活動の最大の目的は、点検・評価の結果を改善・向上に結びつけることである。そのためには、適正にフィードバックされる体制、PDCAサイクルが有効に機能するシステムの構築が必要である。そこで、まず本学の自主的な自己点検・評価活動である年次報告書を活用したフィードバック体制の強化をめざした。

1) 年次報告書記入様式の改定

平成24年度から準備を進め、年次報告書（年間活動報告書）の記入様式を、PDCAサイクルを構築しやすいものに改定した。

例えば、委員会の年間活動報告様式（様式2）は、以下の項目から成り立っている。

- ・本年度の課題：前年度の年次報告書に掲げた「今後の課題」に基づいて記載
- ・本年度の活動方針・目標：課題解決への対策を具体的に記載
- ・主な活動内容
 - a. 目標達成に向けた活動内容：達成度の自己評価欄を設定
 - b. 委員会・組織の主な活動内容

・次年度の課題：年間活動を通じて明らかになった重要課題を記載

平成24年度年次報告書から、改定した様式によって作成されている。

改定様式を用いることにより、

①年間活動開始時点で課題を明確化し、②課題解決のための活動方針・目標を設定し、③活動方針・目標への取り組みを自己点検・評価し、④年間活動全体を通じて明確になった課題を「次年度の課題」として掲げることで、改善・向上への取り組みを次年度に繋げることが期待できる。

2) 「年次報告書に基づく評価報告」による年度内フィードバック体制の構築

前以て評価の基準を「年次報告書に基づく活動状況の評価基準（チェック項目）」（資料3-1参照）にとりまとめ、年次報告書作成依頼時（平成26年3月）に作成要領と共に配布し、評価基準に則った年次報告書の作成を依頼した。

平成 25 年 6 月に刊行された「平成 24 年度年次報告書」の内容を、教員個人の活動報告を除く全てについて自己点検・評価委員会が点検・評価し、評価結果を「平成 24 年度年次報告書に基づく評価報告」にとりまとめ、9 月末に全教職員に配布した。

これによって、【「年次報告書」の作成 → 点検・評価 → 「年次報告書に基づく評価報告」 → 活動の見直し → 課題を明確にした「年次報告書」の作成】という PDCA サイクルが構築されたことになる。

また、9 月末に評価報告をフィードバックすることによって、残りの期間における年間活動を見直し改善することも可能となった。

このシステムは、平成 25 年度の短期大学基準協会による短期大学の第三者評価において、「特に優れた試みと評価できる事項」との評価を得ることができた。

このシステムが今後も改善・向上に向けて有効に機能することを期待している。

2. 改善・向上に有用な情報の共有化

平成 24 年度以前から自己点検・評価委員会では、「学生による授業評価」の有効性を高める方策の検討」を年間活動方針として取り組んできた。各教員が「授業評価報告書」に記載した授業改善策を自己点検・評価委員がとりまとめ、学科内で情報共有することにより、教員個人にとどまらず学科レベルで授業改善に取り組むことをめざしてきた。

本年度は、「授業評価報告」に記載された授業改善策を、学科レベルだけでなく全学的に情報共有し授業改善に活用することをめざし、以下のように取り組みを進めた。

「全学科の授業改善策まとめ」作成への取り組み

- 1) 前期の授業評価に対する「授業評価報告書」提出時期の変更
これまで年度末にまとめて提出していた「授業評価報告書」を、平成 25 年度から前期分を先に提出（提出時期を 9 月末）してもらうことにした。
- 2) 前期分の「授業評価報告書」に記載された授業改善策を自己点検・評価委員が抽出して「学科の授業改善策まとめ」を作成した。これを学科会議で提示し、学科内での授業改善の資料として役立てた。
- 3) 全学科の「学科の授業改善策まとめ」を自己点検・評価委員会で集積し、「全学科の授業改善策まとめ前期分」を作成した。これを学科会議で提示し、学科内での授業改善を協議する資料として役立てた。詳細は、第 2 部：【本年度の「学生による授業評価」】を参照のこと。
- 4) 年度末に提出された後期分の「授業評価報告書」についても、前期分と同様、まず各学科の自己点検・評価委員が「学科の改善策まとめ」を作成し、学科会議で提示、さらに全学科の「学科の改善策まとめ」を自己点検・評価委員会で集積して前期分のまとめに追加し、「全学科の授業改善策まとめ：平成 25 年度版」として集大

成した。資料 3-2 として提示する。また、学科での授業改善を協議する資料として学科会議等で提示していく。

「全学科の授業改善策まとめ」の有用性に対する評価

「全学科の授業改善策まとめ前期分」による情報共有の有用性について、年次報告書第 2 部に掲載された各学科報告「4. 授業の改善策の検討」の記載を基に検討した。

<医療検査学科>

改善策をまとめ 13 のカテゴリーに分けたもの（資料 2）を医療検査学科教員に提示し、この中から学科 FD として重点的に取り上げたいものを挙げてもらった。

医療検査学科教員が重要であると考えているのは「学生の意識づけ（学生が自ら「学習する」習慣をつける）」、「アクティブ・ラーニング」「課題の内容とフィードバック」「学生を引きつける授業内容」等の項目であった。

次年度はこれらの中から学科内 FD のテーマを設定して具体的なアイデアを出し合い、より良い授業を作ることを検討していきたい。

<看護学科>

本年度においては、授業の質向上を図るための環境作りとして、効果的であった授業改善策の情報共有化を行ったことも、教員間の共通認識を形成していくことにつながり効果的であったと考える。

授業評価の方法については、授業形態や科目の特性も大きいため、複雑な課題もあるが、学科会議での教員相互の情報交換や、FD 研修などを通じ、教員自身が主体的な授業改善に向けての自己努力を継続していくことが重要である。

<こども教育学科>

今年度より全学科より前期に出されて改善策を学科会議で共有、確認し合うことにより後期の授業に活かせるようにした。

特に今年度は学生の様子から授業外の学習が一時期に集中するなどといった学生の負担が見受けられたこともあり、学科 FD では、各授業科目の内容の重複および脱落の確認を行うため、教員間で授業毎のキーワードを報告したり、課題などの授業外学習の実施状況も確認し、学生の過負担の調整を図った。

<口腔保健学科>

今年度より全学科より前期に出されて改善策を学科会議で共有、確認し合うことにより後期の授業に活かせるようにした。

<看護学科通信制課程>

1) 前期授業評価報告書をもとに 10 月の課程会議で「授業の改善策について」討議し、次年度シラバスの内容の見直しに生かした。

特にディプロマポリシーに沿った授業案の見直しと学生に何を到達させたいか、全体像の中での授業の目的を明確にすることを教員間で意思統一した。

2) 2 月の課程会議では授業の改善策の全学科まとめを提示した。

通信制課程での授業スタイルの特性から、具体的な改善策として、すぐ活用できるものではないが、他学科の教員の意見を共有することで教員の授業改善に対する意欲

の向上に役立ったと思われる。

以上のように、学科による差異はあるものの、いずれの学科においても他学科の授業改善策を含めた「全学科の授業改善策」は、学科内で授業改善について協議する上で有用であったと見受けられる。

今後も同様の取組を継続することが望ましいが、授業改善策の集計・整理をもつと簡便に実施できる方法の開発が課題である。

【資料 3-1】

年次報告書に基づく活動状況の評価基準（チェック項目）

平成 25 年 3 月 1 日
自己点検・評価委員会

I. 学科の活動報告に対するチェック項目

1. 基礎データ

入学者数、退学者数、留年者数（学習支援に関する客観的データ）
資格修得状況（資格試験対策の客観的データ）
就職内定率、進学者数（就職・進学支援の客観的データ）

2. 本年度の課題

前年度年次報告書の「今後の課題」を反映できているか

3. 本年度の目標・方針

「本年度の課題」に対する実現可能な目標が立てられているか

4. 主な活動内容

a. 目標に向けた活動内容

- ・目標・課題達成に向けて具体的な活動が行われたか
- ・目標達成度の評価（1 できた＝90%以上 2 ほぼできた＝70～89% 3 あまりできなかった＝50～69% 4 できなかった＝50%未満）

b 学科運営における主な活動内容

以下の 3 カテゴリ 12 項目（学科により該当しない項目あり）をチェック項目とす

る（できればこのチェック項目での学科活動内容記載をお願いする）

1) 教科運営（授業運営）主にカリキュラムについて

- ①関連科目教員間で学習成果向上への取り組みはどのように行われているか
- ②カリキュラム改正の検討はどのように行われているか
- ③非常勤教員への対応はどのように行われているか
- ④実習科目の運営方法などの検討がどのように行われているか

2) 学生支援

- ①基礎学力不足の新入生への学習支援はどのように行われているか
- ②未修得単位の多い学生への対応・支援はどのように行われているか
- ③学生生活に問題のある学生への対応・支援はどのように行われているか
- ④国家試験対策はどのように行われているか
- ⑤就職・進学支援

3) FDへの学科としての取り組み

- ①「学生による授業評価」を利用した教員への対応はなされているか
- ②再履修率の高い科目の教員への対応はなされているか
- ③学科内でのFD研修はどのように行われているか

c. 社会活動、研究活動、など

5. 次年度の課題

本年度の活動内容から重要な課題を抽出できているか

II. 委員会・組織の活動報告に対するチェック項目

1. 本年度の課題

前年度年次報告書の「今後の課題」を反映できているか

2. 本年度の目標・方針

「本年度の課題」に対する実現可能な目標が立てられているか

3. 主な活動内容

a. 目標達成に向けた活動内容

- ・目標・課題達成に向けて具体的な活動が行われたか
- ・目標達成度の評価（1 できた＝90%以上 2 ほぼできた＝70～89% 3 あまりできなかった＝50～69% 4 できなかった＝50%未満）は妥当か

b. 委員会・組織の主要な活動内容

- ・主要業務について要領よくまとめられているか
- ・主要な業務が適切に遂行されているか

4. 次年度の課題

本年度の活動内容から重要な課題を抽出できているか

【資料 3-2】

全学科の授業評価報告書から抽出した授業改善策：平成 25 年度版

<授業内容>

講義内容に新たな内容を組み入れる
授業内容をより簡潔にする
授業内容を精選する
授業の目的・到達目標を明確に示す
時間数を増やす、もしくは到達目標を下げる
授業の順序性を考えて開講時期を設定する
他の科目とのグループワークや模擬保育等の調査と調整
科目間のつながりや順序性、開講時期などを適正にする
内容的にタイトではないか検討し、全体的な授業内容のバランスを今一度見直す
同一科目担当の教員同士が共通認識を持ち、授業改善について協議する
オムニバス形式の教員間で講義内容の整合性・一貫性を調整する
非常勤教員と早い段階でのスケジュール確認や準備
2年間同じ内容で指導要領を作製しているので対象のニーズに合わせた内容に変更していく
シラバス通りの授業内容を示す
教科書に沿った演習と自由な創作のバランスを再考
学生が親しみやすい内容から始め、まず意欲を引き出す構成にする
事例をできるだけ多く組み込む
より具体的な内容や作業を取り入れる
学生が、知らなかったことを知る喜びを得られるような授業
学生が興味を持てるホットな話題を取り入れる
感動を与える授業
教員自身の意見や考えを適度に示し、学生の心に響く内容
模擬保育という体験学習の後の学びの共有時間を取る
実習体験がない学生に、現場のイメージをもって主体的に取り組める内容の工夫が必要
臨床現場と教科書とのギャップを埋める努力も必要
自ら学習するような動機づけとその方策を身につけるような授業の組み立てが必要
プレゼンテーションから「ディベート学習活動」へと難易度を上げていく

<授業方法>

提示内容と方法の工夫

全体の構成時間の検討
限られた授業回数の中で学生にフィードバックできる方法を考える
分かりやすい授業進行
授業内・外を問わず、わかりやすい説明
最初に概略を述べる
授業を受ける意義について授業開始時に説明しモチベーションを高める

他の科目との関連性を示し、学習意欲を上げる
なじみのない領域について、特に事前学習としてシラバスを読んでもらうように指導する
入学当初の対面授業で、その後の学習の動機づけとなるように授業を継続していきたい
就職先の拡大に合わせて病院医療や地域医療にまで視野を広げて意義を伝えていく
可能な限り実際にしてみせる

演習実験、実物の提示

準備等大変ではあるが本物を見せ体験させる

指導する対象に最も適した指導方法を見つけ出す

計画、書かせる、考えさせる、ビデオ視聴等の工夫、まとめという流れを作る

プリントやホワイトボードの使い方を改善し、授業内容を分かりやすくする

板書を増やす

板書を分かりやすくする

学生によるアクティブラーニング的手法

小人数のグループ演習

少人数の講義・小グループ制での直接指導

チュートリアル教育を参考にしたグループワーク

グループワークで取り組むプロジェクト・発表会

発表会ではグループ数を減らし、あらかじめ質問者を決めて、活発な学生の発言・参加を誘導する

発表会時期の検討

学生自身に実践のフィールドを探させる

演習形式の講義

紙上事例を用いた演習を行う

教員とのディスカッションを導入

その時間のテーマについての意見交換を行う

自分たちで考えた事例に基づいてロールプレイを実施する

実習に出向くための教材を学生自身が調べて発表する

学生の授業の感想を次の授業に入れて双方向性の授業

学生自身が疑問を感じ、自主学習する姿勢につなげる

自宅学習が効率よくおこなえる授業内容を考える

学生が自ら「学修する」のが普通であるという習慣を1年次に身につけさせる

来年度は、事前にプリント等を配布し、実験準備も学生にさせる

学生の理解度をチェックする

小テスト、中間テストの実施振り返りの時間を作る

毎回の授業で小テストを課す

小テスト、小テストの解説

授業がひと段落するごとに「まとめ」と「セルフチェック問題」を頻繁に取り入れる

理解度を試す Web 上での試験

学生の疑問には次の授業の振り返りの時間に可能な限り答える

毎回の質問に回答する

できるだけゆっくり話す

解説をもう少し丁寧に加える

教員の発問内容・タイミング等を工夫

発問の際は質問の内容や意図を明確にする

テキストのページ数を口頭でも繰り返し言う

授業中に学生の手を動かすことができるようにする。(眠くならないように)

身体を動かして、学生自身が体感する授業方法が有効

正しい筆記用具の持ち方など基礎基本に立ち返る時間を確保する

学習の遅れのある学生への支援を行う

<課題・レポート等>

レポート課題などを求める

レポートの書き方にも指導が必要

授業内で10回以上の提出物

自分で調べ、考えざるを得ない学修について工夫する

学生の自律的学習につながるような授業外学習のための課題を出す

学生が興味のある内容を調査し、それに合わせた課題を与える

講義内容の予習を兼ねた自修課題。事前課題

授業にフィードバックする具体的な課題を出す

図書館で調べ、レポートで報告する課題

課題は厳選して量を減らす

各回の授業のキーワードを提示し、学生に概略を記載させる

実習レポートを事前に配布し予習させる

臨地実習への準備としてのまとめのノート作成

提出物の確認を遅れずにリアルタイムに行う

優秀なレポート、課題を公開する

厳しい採点基準を設ける

学内サーバ上にファイルを提出

手書きの小レポートに関しては、PDF化して記録を残した上で、何らかのコメントを書いて返却

授業を支援するオリジナルのサポートシステムの開発

学外での活動(講演会の参加, 展示の見学)など、レポートとして提出できる仕組みを検討

<視聴覚・配布資料・テキスト>

図や動画を用いて興味をそそる内容にする

イメージをつくりやすい授業運営のために、病態動画を増やす

視聴覚教材やイラストの多い資料などを多用する

視聴覚教材の使い方の確認

視聴覚機器の改善

パワーポイントは内容を絞り見やすく

パワーポイントと配付資料(パワーポイントとは異なる)の併用

パワーポイントを使用した授業は進度が早くなりがちなので演習問題などを多く取り入れる

内容に合わせ、OHC、板書を使い分ける
スライドやパワーポイントの使用法の確認
パソコンなどの使用機器が苦手な学生のために指導時間を増やす必要がある
DVD の活用

シミュレーターを使用する
前準備をしっかりと整える
漫画を使った教材

配布資料の見やすさ

参考文献や資料を前もって提供する
配布資料を事前学習用に前もって渡しておく
資料を配布しすぎない
毎回のレジメを詳細（サブテキストレベル）にして配布する
配布資料を授業回毎に作成
配布資料は通常の印刷では分かりにくいいため講義内容を収録したCD-ROM作成、配布時期を早める
サブノートとまとめプリント（自宅での復習用）の併用
配付資料の書き込み用空欄を広くする
重要個所を虫食い（穴埋め）にして確認させる
テキストを最後まで使う
テキストと連動した Web サポートシステムを活用
自己学習や予習、復習できるように教科書を事前に提示する
実習書の改善、オリジナルテキストの作成
ワークシート形式
授業ノートの活用方法の工夫
専門的な言葉について、正常と異常を分けて説明したり、具体例をレジメに加えたりして、さらに内容を整理・工夫する必要がある

<その他>

科目の配置を変更する
演習室を自己学習のために開放する
自由に発話できるような雰囲気を作る
座席は自由に座らせる
可能な限り人員を配置してこまやかな指導を実施
教員間の信頼関係の構築
授業中の私語に対する注意を怠らないようにする
授業を妨害する学生対策を講じる
自然発生的な私語についての対策ないし工夫を模索
他者の学びを自分の学びにできるようになるまで担当教科の中で繰り返し語り続けていく

平成 26 年 4 月作成
自己点検・評価委員会

第4部 「卒業生へのアンケート調査結果」報告書

はじめに

平成24年度より、卒業生・就職先へのアンケート調査を大学全体の取り組みとして開始し、平成24年度には医療検査学科、看護学科、口腔保健学科の卒業生および就職先に対して調査を実施しました。今後も卒業生には卒後1年目を対象に毎年、就職先には3年に1度実施していくことになっております。

平成25年度には、医療検査学科、看護学科、口腔保健学科、看護学科通信制課程の卒後1年目の卒業生を対象に調査を実施いたしました。

平成24年度の調査結果に対する評価に対し、「卒業生からのアンケート回収率が低かった」、アンケート内容はもっと他学科との比較検討がしやすいほうが良い」等の課題が指摘されたため、平成25年度の調査では以下のような変更を行いました。

- 1) 学科の専門教育へのフィードバックが主目的であるため、アンケート依頼者を学長名から学科長名に変更
- 2) アンケートの質問項目を、他学科との比較検討が可能となるよう改訂
- 3) アンケート郵送時期を11月に変更（前年度は10月に郵送）

その上で、卒業生から返送されたアンケート結果をキャリア支援課が集計し、学科毎に自己点検・評価委員が中心となって「卒業生アンケートへの調査結果」報告を作成いたしました。

この報告書が各学科における専門教育の改善・向上に役立ってくれることを願っております。調査方法、結果の解析方法など、まだ十分とは言えません。さらなる改善に向けてのご意見、ご要望をお寄せいただきたくしますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

1. 医療検査学科 卒業生へのアンケート調査結果報告

はじめに

平成 20 年に神戸常盤大学・保健科学部・医療検査学科としてスタートした本学科は、平成 24 年 3 月に最初の卒業生を社会に送り出した。これを受けて平成 24 年度には、学科の教育目標の達成度を点検し、その結果を基に学科教育を更に改善することを目的として、卒業生（1 期生）とその就職先を対象にしたアンケート調査を実施した。アンケートの結果とそのフィードバックへの取組みを平成 24 年度年次報告書にまとめると共に、卒業生へのアンケートは毎年、就職先へのアンケートは 3 年に一度程度実施するとの全学的な方針が立てられた。

今年度はアンケートの設問に改良を加えてアンケートの目的（教育目標の達成度の点検）をより明確にし、平成 25 年 3 月の卒業生を対象に調査を行なったので報告する。

調査方法

調査の対象は、平成 25 年 3 月卒業生 85 名である。平成 25 年 11 月に無記名式のアンケート（資料 1）を郵送し、平成 25 年 12 月に回収した。アンケートの発送・回収時期を平成 24 年度よりいずれも 1 ヶ月程度遅くし、依頼文を学長名（平成 24 年度）から、卒業生にとってより身近な存在である学科長名（平成 25 年度）に変更することで、アンケート回収率の上昇を図った。

結果の概要

1. 回収率

卒業生アンケートの発送数、回答数、回収率を表 1 に示す。回収率は昨年度より約 4% 上昇した。

表 1

	発送数	回答数	回収率
平成 25 年度	85	22	25.9%
平成 24 年度	60	13	21.7%

2. 調査結果

アンケート集計結果を資料 2 に示す。

各々の設問について、「回答の平均値」、「回答 4（思う。当てはまる。）, 5（強く思う。非常に当てはまる。）の占める割合(%)」、「回答 3（普通）～5 の占める割合(%)」、「回答 2（あまり思わない。あまり当てはまらない。）および 1（全く思わない。全く当てはまらない。）の占める割合 (%)」を表 2 にまとめた。尚、昨年度（平成 24 年度）のアンケート結果のうち、今年度と同じ又は類似の設問およびその結果を（ ）内に示す。

調査の結果、肯定的な回答（選択肢 4 又は 5）の割合は、「B8：問題解決能力を身につけ

ることができた。」「C5：教育環境、設備が良かった。（以下、教育環境、設備）」の2つの設問を除き、何れも50%以上であった。特に評価の高かったもの（肯定的な回答が80%以上のもの）は、教育目標の達成度に関しては「B5：チーム医療の一員として必要な、協調性を身につけることができた。」「B6：医療検査に必要な基礎知識および基本的な専門知識を修得することができた。」「B7：医療検査の実践に必要な基本的技術を習得することができた。（以下、基本的技術）」の3項目、大学で受けた支援については「C1：講義・実習・演習に対する学修支援・指導がよかった。（以下、講義等に対する支援）」「C2：臨床検査技師国家試験に対する学修支援・指導がよかった。」「C4：就職・進学に対する支援がよかった。」の3項目である。

肯定的な回答がやや少なかった「B8：問題解決能力を身につけることができた。」との設問に対しても86%の卒業生が5段階評価の3以上と回答していた。一方、「C5：教育環境、設備がよかった。（以下、教育環境、設備）」に対しては3以上と答えた割合が72%とやや低い結果となっている。

また、「B7：（基本的技術）」「B9：科学的思考力を身につけることができた。（以下、科学的思考力）」「B10：研究的態度を身につけることができた。（以下、研究的態度）」「C1：（講義等への支援）」「C3：健康管理、生活指導についての学生支援がよかった。（以下、健康管理等）」は平成24年度の類似の設問と比較して、肯定的な回答の割合が、何れも10%以上、上昇した。一方、「C5：（教育環境、設備）」は平成24年度と比較して肯定的な回答の割合が10%以上低下した。

表2 平成25年度「卒業生へのアンケート」結果概要

()内は平成24年度の設問またはその結果を示す。

設問	回答の 平均値	回答 4, 5の 割合 (%)	回答 3~5の 割合 (%)	回答 1, 2の 割合 (%)
B 教育目標の達成度に対する評価				
1. 医療に携わるものとしての、倫理観を身につけることができた。	3.5	50	100	0
2. 医療に携わるものとしての、豊かな人間性を身につけることができた。 (心豊かな人間性を養うことができた)	3.6 (4.0)	55 (54)	95 (100)	5 (0)
3. 医療に携わるものとしての、対人関係形成能力を身につけることができた。	3.7	68	86	14
4. チーム医療の一員として必要な、責任感を身につけることができた。	4.0	77	95	5
5. チーム医療の一員として必要な、協調性を身につけることができた。	3.9	82	95	5
6. 医療検査に必要な基礎知識および基本的な専門知識を修得することができた。	4.1 (3.9)	86 (85)	100 (100)	0 (0)

(臨床検査技師としての基礎知識が身についた。)				
7. 医療検査の実践に必要な基本的技術を習得することができた。 (臨床検査技師としての基礎的技術が身についた。)	4.0 (3.5)	82 (46)	95 (92)	5 (8)
8. 問題解決能力を身につけることができた。	3.3	36	86	14
9. 科学的思考力を身につけることができた。	3.5	55	95	5
10. 研究的態度を身につけることができた。 (授業(講義、実習、卒業研究)で研究的思考力が身に付いた。)	3.5 (3.4)	55 (30)	95 (92)	5 (8)
11. 自己研鑽力を身につけることができた。 (生涯を通じて学ぶ姿勢を身につけることができた。)	3.6 (3.8)	50 (54)	95 (92)	5 (8)
12. 地域社会や国際社会で保健医療の向上に貢献できる能力を身につけることができた。	3.5	55	82	18
C 大学で受けた支援に対する評価				
1. 講義・実習・演習に対する学修支援・指導がよかった。 (講義・実習・演習について、学習方法に対する学習支援、指導がよかった。)	4.1 (3.5)	91 (54)	100 (100)	0 (0)
2. 臨床検査技師国家試験に対する学修支援・指導がよかった。 (臨床検査技師国家試験についての学習支援、対策、指導がよかった。)	4.4 (4.5)	95 (92)	100 (100)	0 (0)
3. 健康管理、生活指導についての学生支援がよかった。	3.3 (3.4)	50 (39)	86 (100)	14 (15)
4. 就職・進学に対する支援がよかった。 (就職、進学、についての学習支援、対策、指導が全体としてよかった。)	4.3 (3.8)	86 (77)	95 (92)	5 (8)
5. 教育環境、設備(図書館、講義授業および実習設備、インターネットを含めたコンピューター設備、運動場、テニスコートなど)がよかった。	3.1 (3.5)	41 (54)	72 (92)	27↑ (8)
D, E 取得した資格について(資格取得者のみ回答)				
D-1. 臨床検査技師免許を取得してよかったと思う。	4.8 (4.5)	100 (92)	100 (100)	0 (0)
D-2. 臨床検査技師免許が仕事に活かされている。	4.7 (4.3)	95 (85)	100 (92)	0 (8)
E-1. 細胞検査士認定資格を取得してよかったと思う。	4.8 (5.0)	100 (100)	100 (100)	0 (0)
F 総合評価				
1. 神戸常盤大学 保健科学部 医療検査学科を卒業してよかったと思う。	4.4	95	95	5

卒業生アンケートの結果を教育改善に活かすための取組みと考察

上記のアンケート結果を平成 26 年 1 月及び 2 月の学科会議に提出して、話し合いの場を持った。

いくつかの設問で、昨年度の結果から大きな変動がみられるが、これらのうち、「B7：（基本的技術）」「B9：（科学的思考力）」「B10：（研究的態度）」「C1：（講義等への支援）」については、設問の表現を変更したことも変動の一因ではないかとの意見が出された。

また、教育目標の達成度に関する 12 の設問については、3（普通）以上の回答の割合が何れの設問でも 80%以上であり、本学科の教育目標はほぼ達成出来ていると評価して良いのではないかとの意見が出された。一方、アンケートの回収率が上昇したとはいえ 25.9%と低いことから、今回のアンケートだけから評価は出来ないのではないかとの考えもある。

いずれにせよ、アンケートの回収率を上げて調査を継続し、結果の推移を見ることが必要で、その方策についていくつかのアイデアが出された。これらは今後の検討課題とし、今年度改訂した設問を用いた卒後評価を継続して実施していく。

神戸常盤大学 保健科学部 医療検査学科 卒業生へのアンケート

A) あなたの進路をお答えください。該当箇所を○で囲んでください。

- ①進学（大学院・他の大学・専門学校）
②病院 ③診療所 ④健診センター ⑤血液センター ⑥保健所 ⑦大学病院 ⑧大学
（学部）⑨研究所 ⑩検査センター ⑪検査センター（ブランチ施設）⑫治験関連企業
⑬臨床検査関連企業 ⑭製薬関連企業 ⑮働いていない ⑯その他（ ）

※B～Fの設問は以下の5段階でお答え下さい。最も近いと思う番号を一つ選び○印をつけて下さい。

- 5 強く思う。 または 非常に当てはまる。
4 思う。 または 当てはまる。
3 普通。 どちらともいえない。 あるいは 分からない。
2 あまり思わない。 または あまり当てはまらない。
1 全く思わない。 または 全く当てはまらない。

B) あなたは大学での学修や学生生活を通じて以下のものを身につけることができましたか。

1. 医療に携わるものとしての、倫理観を身につけることができました。
回答 5 4 3 2 1
2. 医療に携わるものとしての、豊かな人間性を身につけることができました。
回答 5 4 3 2 1
3. 医療に携わるものとしての、対人関係形成能力を身につけることができました。
回答 5 4 3 2 1
4. チーム医療の一員として必要な、責任感を身につけることができました。
回答 5 4 3 2 1
5. チーム医療の一員として必要な、協調性を身につけることができました。
回答 5 4 3 2 1
6. 医療検査に必要な基礎知識および基本的な専門知識を修得することができました。
回答 5 4 3 2 1
7. 医療検査の実践に必要な基本的技術を習得することができました。
回答 5 4 3 2 1
8. 問題解決能力を身につけることができました。
回答 5 4 3 2 1
9. 科学的思考力を身につけることができました。
回答 5 4 3 2 1
10. 研究的態度を身につけることができました。
回答 5 4 3 2 1

11. 自己研鑽力を身につけることができた。

回答 5 4 3 2 1

12. 地域社会や国際社会で保健医療の向上に貢献できる能力を身につけることができた。

回答 5 4 3 2 1

C) あなたが学生時代に大学から受けた支援等について答えて下さい。

1. 講義・実習・演習に対する学修支援・指導がよかった。

回答 5 4 3 2 1

2. 臨床検査技師国家試験に対する学修支援・指導がよかった。

回答 5 4 3 2 1

3. 健康管理、生活指導に対する支援がよかった。

回答 5 4 3 2 1

4. 就職・進学に対する支援がよかった。

回答 5 4 3 2 1

5. 教育環境、設備（図書館、講義授業および実習設備、インターネットを含めたコンピュータ設備、運動場、テニスコートなど）がよかった。

回答 5 4 3 2 1

D) 臨床検査技師資格を取得された方にお尋ねします。（免許取得者のみお答え下さい）

1. 臨床検査技師免許を取得してよかったと思う。

回答 5 4 3 2 1

2. 臨床検査技師免許が仕事に活かされている。

回答 5 4 3 2 1

E) 細胞検査士資格を取得された方にお尋ねします。（資格取得者のみお答え下さい）

1. 細胞検査士認定資格を取得してよかったと思う。

回答 5 4 3 2 1

F) 学生時代を振り返って総合的にお答え下さい。

1. 神戸常盤大学 保健科学部 医療検査学科を卒業してよかったと思う。

回答 5 4 3 2 1

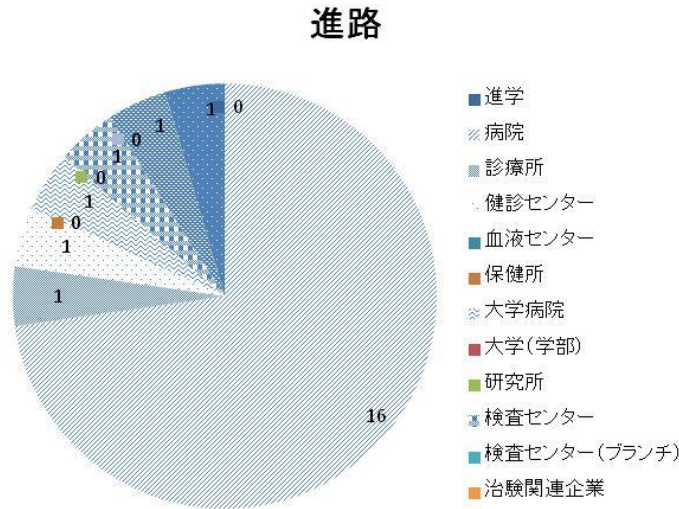
G) 本学医療検査学科に対するご要望、アドバイス、感じたこと、などご自由にご記入下さい。皆さんの後輩たちがより良い学生生活を送ることができるよう、授業・教育などの改善に役立てたいと思います。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

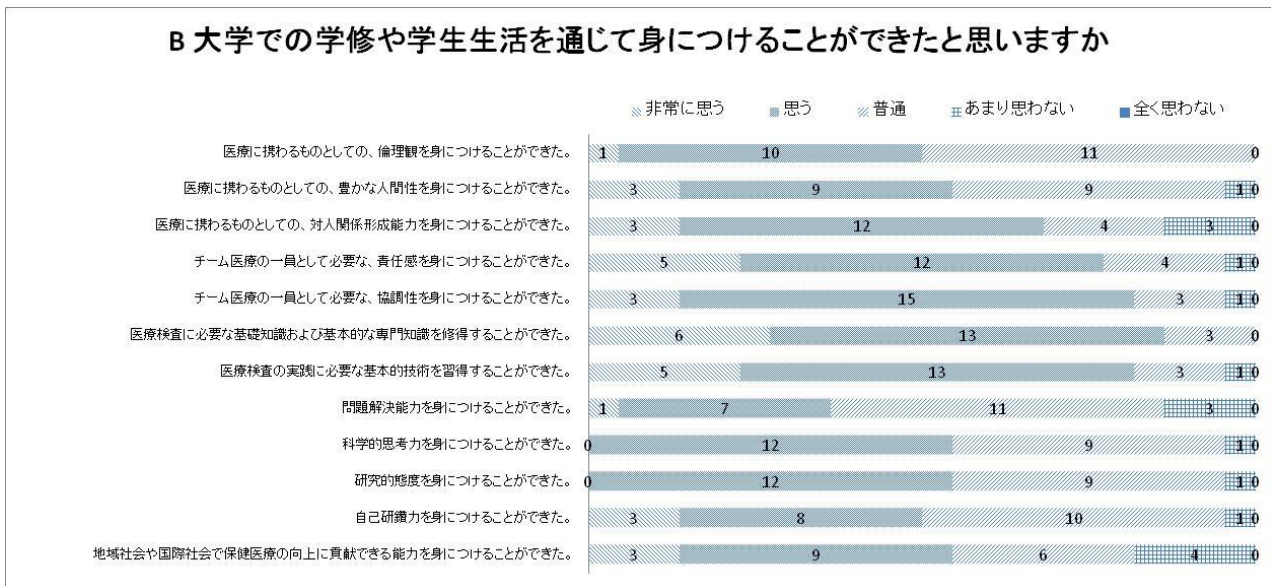
資料 1 - 2

卒業生アンケート結果（図中の数値は人数を示す）

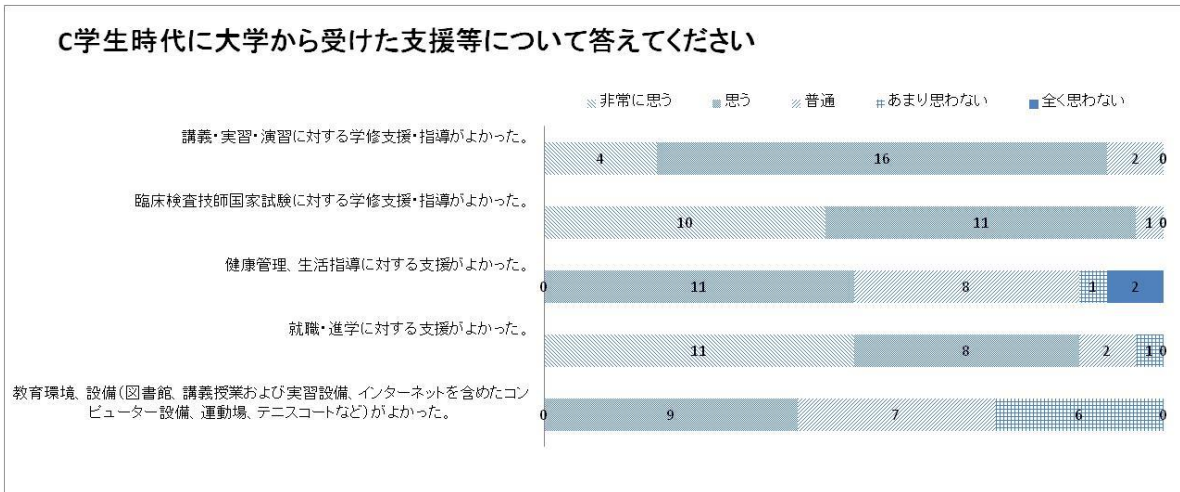
A) あなたの進路をお答えください。



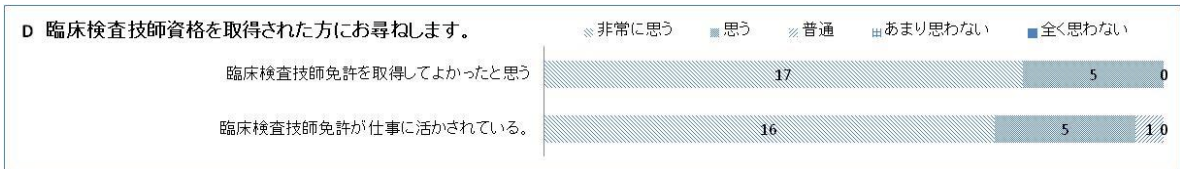
B) あなたは大学での学修や学生生活を通じて以下のものを身につけることができましたか、
 いますか。



C) あなたが学生時代に大学から受けた支援等について答えて下さい。



D) 臨床検査技師資格を取得された方にお尋ねします。(免許取得者のみお答え下さい)



E) 細胞検査士資格を取得された方にお尋ねします。(資格取得者のみお答え下さい)



F) 学生時代を振り返って総合的にお答え下さい。



2. 看護学科 卒業生へのアンケート調査結果報告

はじめに

本学科は平成 20 年 4 月、神戸常盤短期大学看護学科（3 年生）から 4 年制の神戸常盤大学保健科学部看護学科となり、平成 24 年 3 月に 1 期生を送り出した。平成 24 年度に引き続いて、本年度は、2 期生である平成 25 年 3 月の卒業生を対象に、本校での教育について振り返ってもらい、教育改善に役立てることを目的にアンケート調査を実施した。

調査方法

調査の対象は、平成 25 年 3 月卒業生（2 期生）75 名である。平成 25 年 11 月に無記名式のアンケート（資料 1）を就職先施設に郵送し、平成 25 年 12 月に回収した。

結果の概要

1. 回収率

卒業生アンケートの発送数、回答数、回収率を表 1 に示す。回収率は、25.3%と昨年の 18.6%に比べて、少し改善した。

表 1

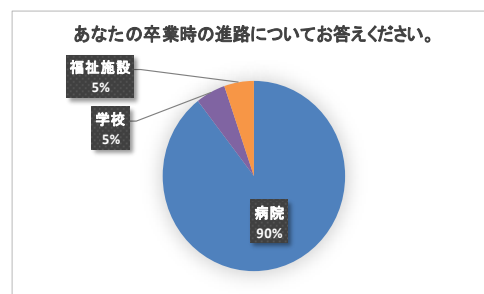
アンケート実施年	発送数	回答数	回収率
平成 25 年度	74	19	25.6%
平成 24 年度	70	13	18.6%

2. 調査結果

質問項目別に、集計結果を示す。

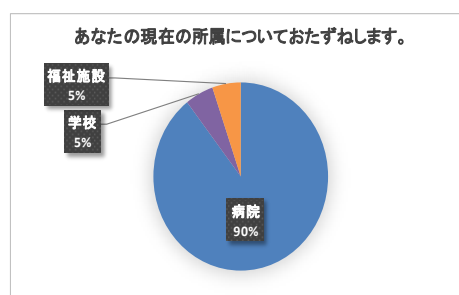
A あなたの卒業時の進路についてお答えください。

①病院	17
②診療所	0
③保健所・市町村	0
④学校	1
⑤企業	0
⑥福祉施設	1
⑦進学（大学・ほかの大学・専門学校）	0
⑧その他	0



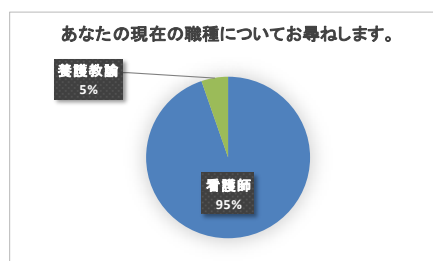
B あなたの現在の所属についておたずねします。

①病院	17
②診療所	0
③保健所・市町村	0
④学校	1
⑤企業	0
⑥福祉施設	1
⑦進学(大学・ほかの大学・専門学校)	0
⑧その他	0



C あなたの現在の職種についておたずねします。

①看護師	18
②保健師	0
③養護教諭	1
④その他	0



D 神戸常盤大学で教育を受けて良かった

	非常に思う	思う	普通	あまり思わない	全く思わない
神戸常盤大学の建学の精神「広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発達に寄与する」に基づいた教育を受けて良かった。	5	3	9	1	0

神戸常盤大学の建学の精神「広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発達に寄与する」に基づいた教育を受けて良かった。

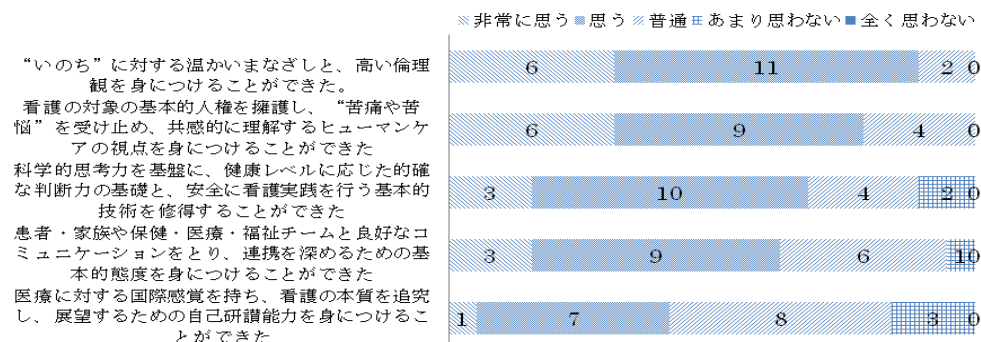
※非常に思う ■思う ※普通 #あまり思わない ■全く思わない



E 大学で以下のもの（ディプロマポリシー）を身につけることができたと思いますか

あなたは、大学での学修や学生生活を通じて、以下のものを身につけることができたと思いますか。	非常に思う	思う	普通	あまり思わない	全く思わない
“いのち”に対する温かいまなざしと、高い倫理観を身につけることができた。	6	11	2	0	0
看護の対象の基本的人権を擁護し、“苦痛や苦悩”を受け止め、共感的に理解するヒューマンケアの視点を身につけることができた	6	9	4	0	0
科学的思考力を基盤に、健康レベルに応じた的確な判断力の基礎と、安全に看護実践を行う基本的技術を修得することができた	3	10	4	2	0
患者・家族や保健・医療・福祉チームと良好なコミュニケーションをとり、連携を深めるための基本的態度を身につけることができた	3	9	6	1	0
医療に対する国際感覚を持ち、看護の本質を追究し、展望するための自己研鑽能力を身につけることができた	1	7	8	3	0

E 大学での学修や学生生活を通じて、以下のものを身につけることができたと思いますか

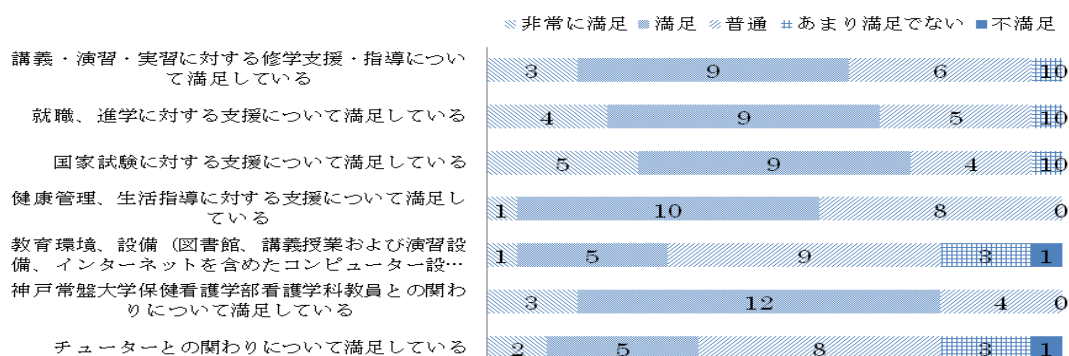


ディプロマポリシーについては、非常に満足、満足を選択したものが多く、肯定的に自覚していると考えられる。

F 学生時代に大学から受けた支援等について答えて下さい

あなたが学生時代に大学から受けた支援等について答えてください。	非常に満足	満足	普通	あまり満足でない	不満足
講義・演習・実習に対する修学支援・指導について満足している	3	9	6	1	0
国家試験に対する支援について満足している	5	9	4	1	0
就職、進学に対する支援について満足している	4	9	5	1	0
健康管理、生活指導に対する支援について満足している	1	10	8	0	0
教育環境、設備(図書館、講義授業および演習設備、インターネットを含めたコンピューター設備、運動場、テニスコートなど)について満足している	1	5	9	3	1
神戸常盤大学保健看護学部看護学科教員との関わりについて満足している	3	12	4	0	0
チューターとの関わりについて満足している	2	5	8	3	1

F 学生時代に大学から受けた支援等について教えてください



G 神戸常盤大学看護学科を卒業して良かったと思う

	非常に思う	思う	普通	あまり思わない	全く思わない
神戸常盤大学看護学科を卒業して良かったと思う	9	7	2	1	0



H 現在の職業を選択してよかったと思う

	非常に思う	思う	普通	あまり思わない	全く思わない
現在の職業を選択してよかったと思う	6	11	2	0	0



自由記載内容について

G 神戸常盤大学看護学科を卒業して良かったと思う理由について、13人の自由記載があった。

- ・大切だと思う人にたくさん出会えたから
- ・友人と出会えたから
- ・教員と学生の距離が近く、気軽に悩みなどの相談、また、分からないところの説明をして頂いた。
- ・特に厳しいということもなく楽しかったから
- ・学習面でも私生活でも共に学び、一生の友だちといえる友と出会えた。
- ・教員の方々にとっても助けていただいて、充実した大学生活を送ることができました。出身大学を自信を持って言えます。

- ・実習や講義等で看護に重要な論理的配慮についてじっくり学ぶことができました。
- ・友人にめぐまれ就職してからも交友がある。卒論で得た学びが大きかった。
- ・学生時代に看護の対象についてゆっくりと考えさせてもらえ、今悩むことができるから。また相談しに大学に行くと暖かく迎えてくれる人がいるから。
- ・看護師・保健師だけではなく、養護教諭の免許も取れたこと。そして、教育関連の勉強ができたこと。チューターや恩師に出会えなければ、今の自分はいなかったと思うので。
- ・講義や実習など辛いこともたくさんあったが、患者の苦痛を受け止め、共感的に接する視点を学び得ることができたと思うから。
- ・専門学校卒業の人と差が歴然である。実習の時、関わりやすい患者さんを受け持ち、働いてから重症の患者さんを持つと学生の時の実習は何だったのだろう
- ・人間的な環境がとても良く、卒業後も気にかけて下さったりとても嬉しいです。

I 看護学科に対する要望、後輩へのアドバイスの自由記載について、8人の自由記載があった。

- ・卒業してから思うことはもっと勉強しておけば良かったということです。実習では受動的になりすぎていて、自分から学ぶ姿勢があまり身につけていなかったと思います。先生方はやさしくいろんなことを教えて下さって良かったのですが、アセスメント能力が身につかずに卒業してしまったように思います。アセスメントに関して、もう少し深く学べたら良かったと思います。
- ・食堂や売店を充実させて頂きたいです。
- ・チューターの先生と一度も話したことがなく、相談したい時どの先生にしたらいいのか分からない時がありました。チューターの制度を活かすためにももっと活発に行ってほしいと学生時代は思っていました。
- ・勉強する時は勉強、遊ぶ時は遊ぶでしっかりメリハリをつけ、感受性を身につけ、視野を広く持って下さい。
- ・解剖や病理・病態が難しく、基礎をもっと強化してほしいと思いました。学生が増えたのに対し食堂が小さくて食べる所や勉強する所に困ってました。
- ・PC教室の入室可能な時間が限られていて、看護研究などで使用したいときに困ったことがあったため、キャリア支援課のPCのように自由に使えるPCの台数が増えると嬉しいと思います。学校で研究が進められるとすごく楽なので、ぜひお願いします。
- ・看護実践演習や実習では、学生の考えをよく聞いて下さる先生がたくさんいらっしゃいました。そのため、学生時代に看護の対象についてゆっくり考えさせてもらえたと思っています。まだまだ実践できていませんが、常盤大学看護学科の掲げるディプロマポリシーは看護師として基本的な能力だと実感しています。こう実感できるということはわずかでもディプロマポリシーを私も身に付けることができたのではないかと感謝しています。
- ・今よりもっと多くの文献や参考書が図書館にあれば、学生の学びはもっと増えると思う。また、看護過程は、就職した今でも苦手なので、学生のうちにしっかりと身につくようにご指導をいただけたらよかったです。

以上、卒業生は、後輩たちに向けて率直な意見を伝えてくれていると考える。

卒業生アンケートの結果を教育改善に活かすための取組みと考察

学科会議で、アンケート結果をもとに意見交換を行った。看護学科の教育方針や教育内容については、概ね良好な意見であったと受けとめられるとの意見であった。

アンケート方法及び今後の教育改善について以下の提案が寄せられた。

①アンケートの回収率（25.6%）

昨年度より改善したものの、依然 4 人に 1 人の回収率であった。卒業生の回答率が低いことについては、アンケートの時期が、卒業生にとっては、適当でないのかもしれない。受けた教育を振り返り自己評価するには、時期が早すぎるのではないかと考えられる。昨年同様、卒後 6 カ月の時期は、看護師にとっては、新任期の訓練期間であり、アンケート内容に答えるのは、難しいのではないかとの意見があった。

また、アンケートの送付先について、2 年続けて、実習施設に送っているが、今後は、直接本人に配布できるような、方法も検討すべきだと考える。

②卒後評価の結果を受けた教育改善について

回答数は少なかったが、回答を寄せてくれた卒業生は、率直に大学での教育内容や支援をふりかえっている。回答結果からは、本校で受けた教育や支援、教員との交流への愛着意識を持っていると考えられることや、学科のディプロマポリシーについても概ね良好な印象や自覚を持って理念が身につけていることがと示唆された。ディプロマポリシーが新任期において、自然に卒業生の職業観や仕事への自信に繋がっていると考えられ、学科として喜ばしい結果であった。

今回、とくに大きな改善課題は、見出せなかったが、経年的に検討するなど、学科教育の成果を把握するための一つの方策として、本アンケート結果を教育改善に活かしたい。

資料2

神戸常盤大学 保健科学部 看護学科 卒業生へのアンケート

神戸常盤大学での学生生活を振り返って、以下の質問にお答えください。該当項目を○で囲んでください。

A) あなたの卒業時の進路についてお答えください。

- ① 病院 ② 診療所 ③ 保健所・市町村 ④ 学校 ⑤ 企業 ⑥ 福祉施設
⑦ 進学(大学院・他の大学・専門学校) ⑧ その他 ()

B) あなたの現在の所属についておたずねします。

- ① 病院 ② 診療所 ③ 保健所・市町村 ④ 学校 ⑤ 企業 ⑥ 福祉施設
⑦ 進学(大学院・他の大学・専門学校) ⑧ その他 ()

C) あなたの現在の職種についてお尋ねします。

- ① 看護師 ② 保健師 ③ 養護教諭 ④ その他 ()

※以下の設問は5段階でお答えください。最も近いと思う番号を1つ選び、○印をつけてください。

- 5 : 非常に思う。 または 非常に当てはまる。
4 : 思う。 または 当てはまる。
3 : 普通。 どちらともいえない。 あるいはわからない。
2 : あまり思わない。 または あまり当てはまらない。
1 : 全く思わない。 または 全く当てはまらない。

D) 神戸常盤大学の建学の精神「広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発達に寄与する」に基づいた教育を受けて良かった。

回答 5 4 3 2 1

E) あなたは、大学での学修や学生生活を通じて、以下のものを身につけることができたと思いますか。

1. “いのち”に対する温かいまなざしと、高い倫理観を身につけることができた。

回答 5 4 3 2 1

2. 看護の対象の基本的人権を擁護し、“苦痛や苦悩”を受け止め、共感的に理解するヒューマンケアの視点を身につけることができた。

回答 5 4 3 2 1

3. 科学的思考力を基盤に、健康レベルに応じた的確な判断力の基礎と、安全に看護実践を行う基本的技術を修得することができた。

回答 5 4 3 2 1

4. 患者・家族や保健・医療・福祉チームと良好なコミュニケーションをとり、連携を深めるための基本的態度を身につけることができた。

回答 5 4 3 2 1

5. 医療に対する国際感覚を持ち、看護の本質を追究し、展望するための自己研鑽能力

を身につけることができた。

回答 5 4 3 2 1

F) あなたが学生時代に大学から受けた支援等について教えてください。

1. 講義・演習・実習に対する修学支援・指導について満足している。

回答 5 4 3 2 1

2. 国家試験に対する支援について満足している。

回答 5 4 3 2 1

3. 就職、進学に対する支援について満足している。

回答 5 4 3 2 1

4. 健康管理、生活指導に対する支援について満足している。

回答 5 4 3 2 1

5. 教育環境、設備（図書館、講義授業および演習設備、インターネットを含めたコンピューター設備、運動場、テニスコートなど）について満足している。

回答 5 4 3 2 1

6. 神戸常盤大学保健看護学部看護学科教員との関わりについて満足している。

回答 5 4 3 2 1

7. チューターとの関わりについて満足している。

回答 5 4 3 2 1

G) 神戸常盤大学看護学科を卒業して良かったと思う

回答 5 4 3 2 1

その理由を教えてください。

H) 現在の職業を選択して良かったと思う。

回答 5 4 3 2 1

I) 本学看護学科に対するご要望、アドバイス、感じたことなど、自由にご記入ください。皆さんの後輩たちがより良い学生生活を送ることができるよう、授業・教育などの改善に役立てていきたいと思えます。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

3. 口腔保健学科 卒業生へのアンケート調査結果報告

はじめに

神戸常盤大学短期大学部・口腔保健学科では、学科教育への改善を目的として平成 24 年度に初めて卒業生（平成 22 年度および 23 年度卒業生）に対する在学中の支援についてのアンケートを実施した。本年度は、在学中に獲得した能力（ディプロマポリシー）などの設問を加え平成 25 年 11 月に実施し、その結果を学科にフィードバックした。なお、卒業生へのアンケートは毎年、就職先へのアンケートは 3 年に一度程度実施するとの全学的な方針が立てられている。

調査方法

調査の対象は、平成 25 年 3 月卒業生 70 名である。平成 25 年 11 月に無記名式のアンケート（資料 1）を郵送し、平成 25 年 12 月に回収した。アンケートの発送・回収時期を平成 24 年度よりいずれも 1 ヶ月程度遅くし、依頼文を学長名（平成 24 年度）から、卒業生にとってより身近な存在である学科長名（平成 25 年度）に変更することで、アンケート回収率の上昇を図った。

結果の概要

1. 回収率

卒業生アンケートの発送数、回答数、回収率を表 1 に示す。回収率は昨年度とほぼ変化なし。

表 1

	発送数	回答数	回収率
平成 25 年度アンケート (24 年度卒業生)	70	15	21.4%
平成 24 年度アンケート (23 年度卒業生)	54	11	20.4
平成 24 年度アンケート (22 年度卒業生)	52	13	25.0

2. 調査結果

アンケート集計結果を資料 2 に示す。

設問の回答は 5 段階の選択で評価する。5 が非常に満足もしくは非常に当てはまるという最上位の肯定的選択肢、1 は不満足もしくはまったく当てはまらないという最下位の否定的選択肢である。3 は中間的な評価で、普通もしくはどちらとも言えない（またはわからない）となっている。

1) B：大学で受けた支援に対する評価

調査の結果、回答の平均値が 4 以上の項目は、8 項目中「B1：学生生活全体」、「B2：学

習支援」、「B3：国試支援」、「B7：教員との関り」の4項目であり、これらは肯定的評価（選択肢4または5）も80%を超えている。最高値は「B3：国試支援」の4.3であるが、昨年の4.7よりも低下している。平均値が4を切った項目は、「B4：就職支援」、「B5：健康管理・生活支援」、「B6：教育環境、設備」、「B8 ボランティアなど課外活動」の4項目であり、これらは肯定的な回答（選択肢4または5）の割合が50%を切っていた。平均値の最低値は3.2の「B6：教育環境、設備」であり、例年の傾向である。昨年度と比較して最も低下した項目は、「B4：就職支援」（△0.8ポイント）であった。

2) C：教育目標の達成度に対する評価

回答の平均値が4以上の項目は、8項目中「B1：学生生活全体」、「B2：学習支援」、「B3：国試支援」、「B7：教員との関り」の4項目であり、これらは肯定的評価（選択肢4または5）も80%を超えている。最高値は「B7：生涯学ぶ姿勢」の4であり、昨年の3.5から0.5ポイント上昇した。逆に、平均値が4を切った項目は、残り7項目であり、昨年と同様の傾向が認められた。しかし、肯定的な評価が50%以上である項目は、「C2：基本的技術」、「C6：問題解決能」、「C7：生涯学ぶ姿勢」、「C8：心豊かな人間性」の増加した。一方で、「C1：基礎的知識」「C3：対人関係形成能力」は否定的評価が多かった。

表2 平成25年度「卒業生へのアンケート」結果概要

数字は人数（ ）内は割合（%）

濃灰色枠は平均値3以下の項目、網掛け数字は肯定的な評価が50%以下の項目

下段（ ）内は平成24年の割合（%）

B：大学で受けた支援に対する評価		回答の 平均値	5,4の 数(人) と割合 (%)	3の 数(人) と割合 (%)	2,1の 数(人) と割合 (%)
1	神戸常盤大学短期大学部での学生生活は全体としていかがでしたか	4.2 (4)	14(93) (79)	1(7) (17)	0 (4)
2	神戸常盤大学短期大学部での学習に対する支援はいかがでしたか	4.2 (3.9)	11(73) (63)	4(27) (33)	0 (4)
3	神戸常盤大学短期大学部での国家試験に対する支援・対策・指導はいかがでしたか	4.3 (4.7)	12(80) (96)	2(13) (4)	1(7) (0)
4	神戸常盤大学短期大学部での就職・進学に対する支援、対策、指導はいかがでしたか	3.6 (4.4)	7(47) (83)	6(40) (17)	2(13) (0)
5	神戸常盤大学短期大学部での健康管理や生活指導に対する支援はいかがでしたか	3.3 (3.7)	4(27) (50)	9(60) (50)	2(13) (0)
6	神戸常盤大学短期大学部での施設環境（図書館、教室、など）はいかがでしたか	3.2 (3.7)	7(46) (46)	4(27) (54)	4(27) (0)
7	神戸常盤大学短期大学部での教員との関わりはいかがでしたか	4 (4.3)	12(80) (83)	3(20) (13)	0 (4)

8	神戸常盤大学短期大学部での授業外の活動（課外活動：部活、ボランティアなど）はいかがでしたか	3.5	6(40)	8(53)	1(7)
	C：教育目標の達成度に対する評価	回答の 平均値	5,4の 数(人) と割合 (%)	3の 数(人) と割合 (%)	2,1の 数(人) と割合 (%)
1	神戸常盤大学短期大学部では現在の職場にとって必要な基礎知識を得ることはできましたか	3.5 (3.5)	6(40) (46)	9(60) (4)	0 (4)
2	神戸常盤大学短期大学部では現在の職場にとって必要な基本的技術を得ることはできましたか	3.4 (3)	8(53) (42)	4(27) (58)	3(20) (0)
3	神戸常盤大学短期大学部では個々の命と人格を尊重した対人関係形成能力を身につけることはできましたか	3.6	6(40)	9(60)	0 (0)
4	神戸常盤大学短期大学部では地域社会に貢献する気持ちを身につけることはできましたか	3.6	6(40)	8(53)	1(7)
5	神戸常盤大学短期大学部では科学的探究心を身につけることはできましたか	3.5	6(40)	8(53)	1(7)
6	神戸常盤大学短期大学部では問題解決能力を身につけることはできましたか	3.7	8(53)	7(47)	0 (0)
7	神戸常盤大学短期大学部では生涯を通じて学ぶ姿勢を身につけることができましたか	4 (3.5)	10(67) (54)	5(33) (46)	0 (0)
8	神戸常盤大学短期大学部では心豊かな人間性を養うことができましたか	3.8 (3.8)	10(67) (54)	5(33) (46)	0 (0)

卒業生アンケートの考察と教育改善に活かすための取組み

まず、回収率の低さが目立つことから、アンケートの方法の見直しが必要ではないかという意見があった。平成22年度卒業生～平成24年度卒業生の卒後の本学に対する意識の低さの表れと見るのか、それともアンケートの内容や実施方法そのものに起因するものなのか、統計的な比較や評価ができないという致命的な問題を有することから次年度に向けての早急な対応が必要である。

いくつかの設問で、昨年度の結果から大きな変動がみられるが、大学の支援の中で「就職支援」が低下したことから就職委員（特に委員長）の固定化が必要であると考えられた。また、「健康管理・生活支援」および「教育環境・設備」、「課外活動」は昨年同様低い評価を受けており、これら学習環境の整備やボランティアへの参加機会、生活面での支援の低さは退学者の多さと無関係ではないと考えられ、1年次前期におけるゼミ形式のチューター制の実施・強化につながった。今後は課内・課外を問わずアクティブラーニングを積極的に導入することが重要であると考えられる。

教育目標の達成度に対する評価では、「基本的技術」はある程度得られたという肯定的評価が半数を超えたが、「基礎知識」についてはやや低い傾向を示す。これは基礎的な知識が教えられていないのではなく、授業の内容が学生に伝わっていない、もしくは覚えて（理解して）いないのである。一つには教育技法というFDの問題であり、他方で歯科の特性から技術偏重に陥りやすい教育内容であることも一因であろう。PBLやディベートなどを通じて論理的な思考を育てる教育方法の実施が必要である。他科に比較しても「対人関係形成」の能力や「科学的探究心」、「地域社会への貢献」に関する気持ちは低い傾向にある。一層のFDの強化が必要であると思われる。

資料3-1

神戸常盤大学 短期大学部 口腔保健学科 卒業生へのアンケート

A：現在の勤務先の状況は以下のうちどれですか。該当項目を○で囲んでください。

- ①病院 ②診療所 ③口腔保健センター ④保健所 ⑤企業 ⑥歯科衛生士病院研修
⑦4年制大学編入 ⑧働いていない ⑨その他（ ）

※Bの設問は5段階でお答えください。最も近いと思う番号を1つ選び○印をつけてください。

- 5 非常に満足 または 非常に当てはまる。
4 満足 または 当てはまる。
3 普通 どちらともいえない。あるいはわからない。
2 あまり満足していない または あまり当てはまらない。
1 不満足 または 全く当てはまらない。

B：本学の各種支援についてお答えください。

1. あなたにとって神戸常盤大学短期大学部での学生生活は全体としていかがでしたか。
回答 5. 4. 3. 2. 1.
2. あなたにとって神戸常盤大学短期大学部での学習に対する支援はいかがでしたか。
回答 5. 4. 3. 2. 1.
3. あなたにとって神戸常盤大学短期大学部での国家試験に対する支援・対策・指導はいかがでしたか。
回答 5. 4. 3. 2. 1.
4. あなたにとって神戸常盤大学短期大学部での就職・進学に対する支援、対策、指導はいかがでしたか。
回答 5. 4. 3. 2. 1.
5. あなたにとって神戸常盤大学短期大学部での健康管理や生活指導に対する支援はいかがでしたか。
回答 5. 4. 3. 2. 1.
6. あなたにとって神戸常盤大学短期大学部での施設環境（図書館、教室、演習・実習設備、インターネットを含めたコンピューター設備、食堂、運動場、テニスコートなど）はいかがでしたか。
回答 5. 4. 3. 2. 1.
7. あなたにとって神戸常盤大学短期大学部での教員との関わりはいかがでしたか。
回答 5. 4. 3. 2. 1.
8. あなたにとって神戸常盤大学短期大学部での授業外の活動（課外活動：部活、ボランティアなど）はいかがでしたか。
回答 5. 4. 3. 2. 1.

C：本学で身に付けたことについてお答えください。

1. 神戸常盤大学短期大学部では現在の職場にとって必要な基礎知識を得ることはできましたか。

回答 5. 4. 3. 2. 1.

2. 神戸常盤大学短期大学部では現在の職場にとって必要な基本的技術を得ることはできましたか。

回答 5. 4. 3. 2. 1.

3. 神戸常盤大学短期大学部では個々の命と人格を尊重した対人関係形成能力を身につけることはできましたか。

回答 5. 4. 3. 2. 1.

4. 神戸常盤大学短期大学部では地域社会に貢献する気持ちを身につけることはできましたか。

回答 5. 4. 3. 2. 1.

5. 神戸常盤大学短期大学部では科学的探究心を身につけることはできましたか。

回答 5. 4. 3. 2. 1.

6. 神戸常盤大学短期大学部では問題解決能力を身につけることはできましたか。

回答 5. 4. 3. 2. 1.

7. 神戸常盤大学短期大学部では生涯を通じて学ぶ姿勢を身につけることができましたか。

回答 5. 4. 3. 2. 1.

8. 神戸常盤大学短期大学部では心豊かな人間性を養うことができましたか。

回答 5. 4. 3. 2. 1.

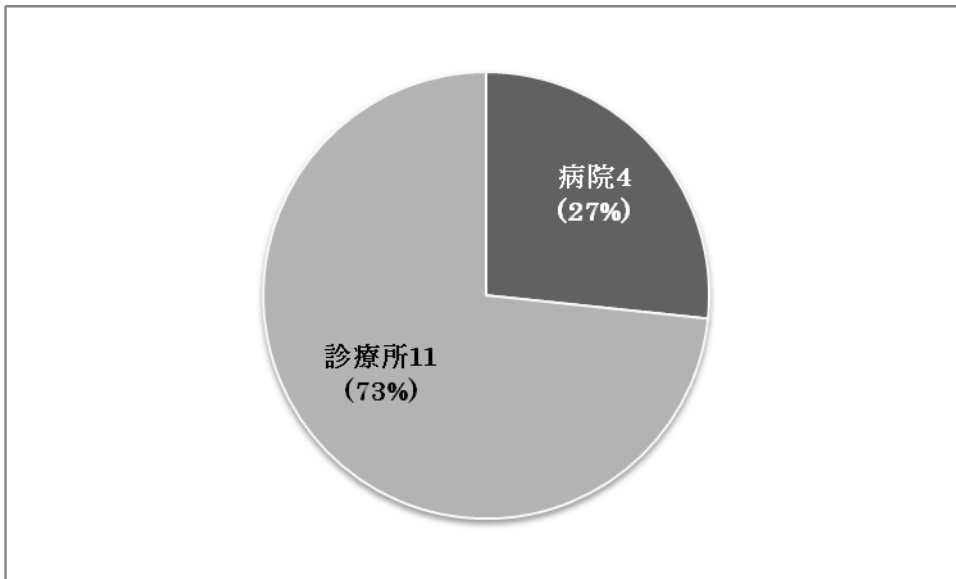
皆さんの後輩がより良い学生生活を送るため、また口腔保健学科の授業や課外活動などの改善に役立てたいとおもいますので、ご要望、アドバイス、感じたことなどを自由にご記入ください。

【自由記述】

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

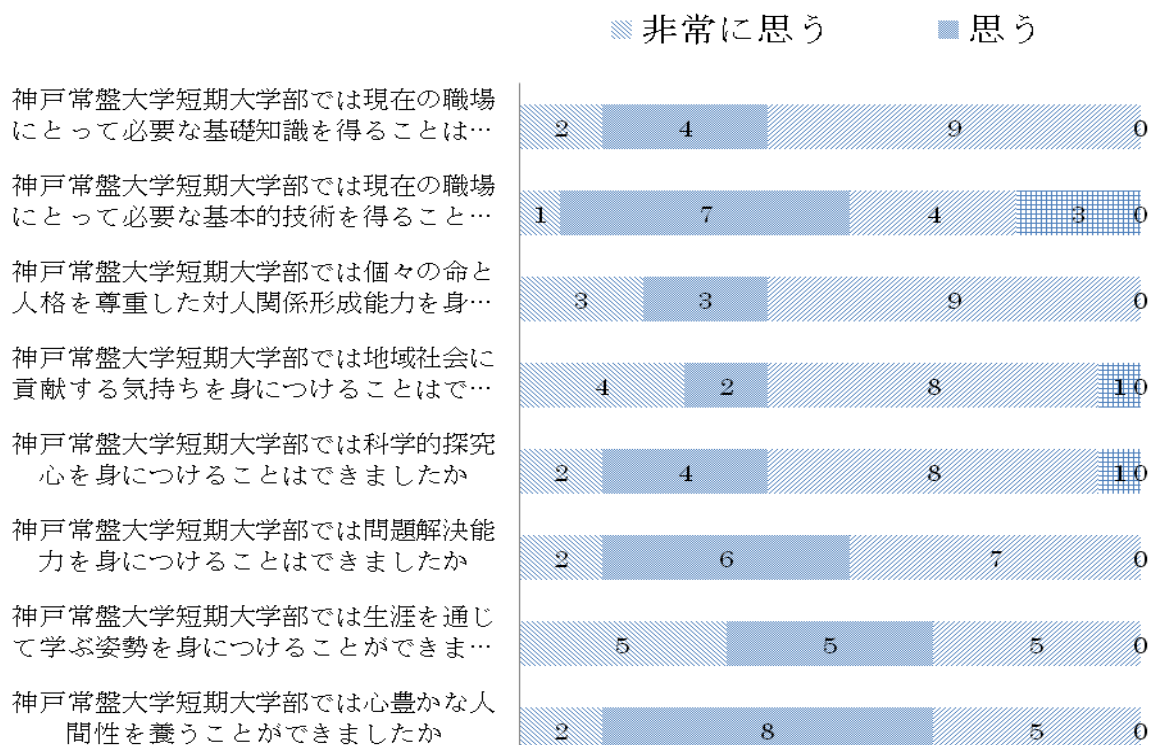
資料3-2 卒業生アンケート結果（図中の数値は人数を示す）

A) 現在の勤務先（回答者の進路状況）



C) 本学で身に付けたことについてお答えください

本学で身に付けたことについてお答えください



4. 看護学科通信制課程 卒業生へのアンケート調査結果報告

調査方法

調査対象：平成25年3月卒業生167名

調査期間：平成25年11月から平成25年12月

調査方法：自記式質問紙を対象者に郵送し、記載後返却を依頼した。回答は無記名とし、承諾したものの未回答の協力を得た。

アンケートの概要は回答者の背景に関する項目・ディプロマポリシーの視点からの質問・大学の支援に対する意見・質問とした。

結果の概要

1. 回収率

回収58名（回収率34.7%）であった。

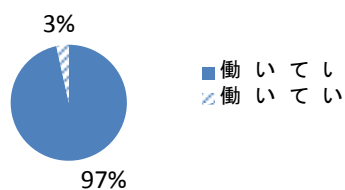
2. 調査結果

A. 回答者の背景

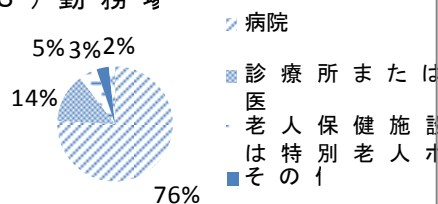
1) 性別および年齢

	女性（名）	男性（名）
30歳代	16	1
40歳代	33	1
50歳代	6	1
合計	55	3

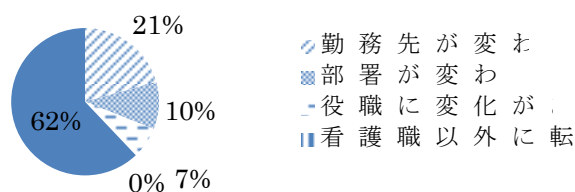
2) 就業の：



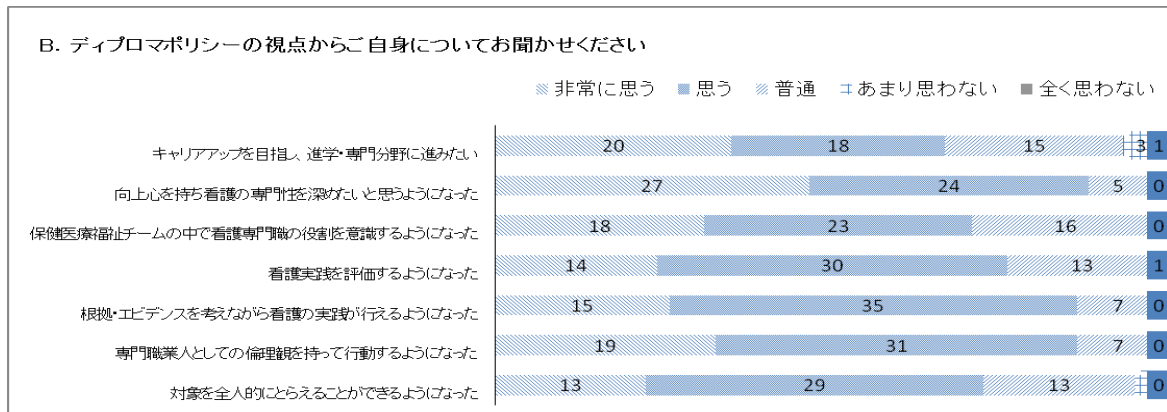
3) 勤務場



4) 卒業後の職場に

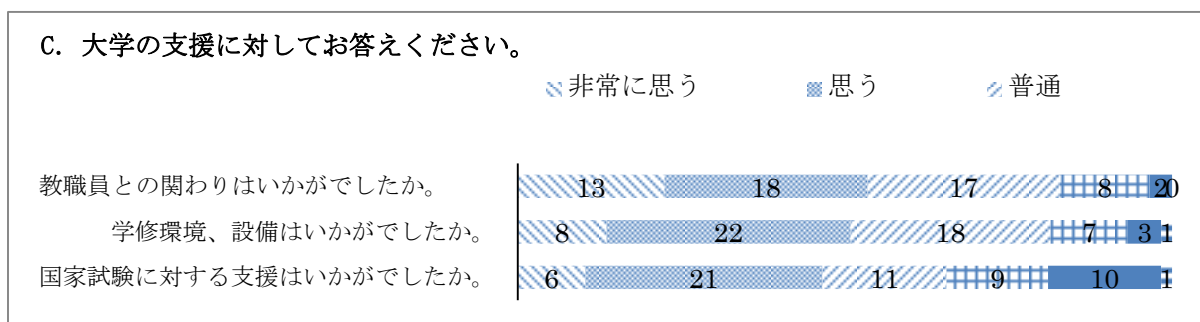


B ディプロマポリシーの視点からの質問



ディプロマポリシーの視点からの質問に対しては、すべての項目において肯定的な回答（非常に思う・思う）が70%を超えていた。中でも最も肯定的な回答の比率が高かったのは「向上心を持ち看護の専門性を深めたいと思うようになった」で、「根拠・エビデンスを考えながら看護の実践が行えるようになった。」「専門職業人としての倫理観を持って行動するようになった。」であった。自由記述内容でも、「キャリアアップやスキルアップへの意欲、セミナーや研修会、勉強会への参加に参加するなどに加えて、リーダー的存在になったことで向上心をもつようになった。」「卒業後、認定看護師を目指しているという卒業生もいた。大学では学習を継続することが大変であったが、先生の指導とレポート完成までのプロセスを踏むことで根拠を考え、観察力をつちかい、患者主体のとらえ方ができるようになり看護実践に役立てるようになった。」「もっと根拠を考えながら経験を積んでいきたい。」という記述がみられ、専門職の役割への認識も明確になっていた。否定的な意見としては、せっかく卒業し向上心も持っているが就職先で生かすことができないため、進路や就職に対する情報もほしかったというものであった。または、先輩方の卒業後について、その方の話が聞いてみたいや正看護師の免許を取ったが待遇が改善せず、働く意欲を失っているなどの意見があった。卒業後、職場での立場が変わる、待遇が変わる、または自らやりがいのある職場に転職したなどの卒業生は、意欲や向上心を維持しているが、何も変化が感じられない卒業生は、在学中の学習が大変だっただけに否定的なアンケート回答になっていた。

C 大学の支援に対する質問



大学からの支援に関しては、教員とのかかわりが最も肯定的で53.4%であった。自由記述内容でも、教員とのかかわりでは厳しいが優しい姿勢、1人1人に対する熱心な教育、専門職の先輩としての助言などに支えられたという内容が多かった。教員のみならず、事務職員のサポートも支援になっていた。

最も低かったのは国家試験に対する支援で46.4%だった。自由記述内容の要望も、国家試験対策に対する内容が多かった。国家試験についての情報の提供不足や単位修得のため試験直前まで国家試験の勉強ができなかったことや国家試験勉強としての時間を設けてほしかったなどの意見があった。

その他としては、単位修得のための試験の結果についても公表してもらいたいというものがあつた。

卒業評価を教育改善に生かすための取組みと考察

今回の卒業生からのアンケート調査結果を今後の教育に生かすことを目的に看護学科通信制課程として以下の取組みを行った。

1. 国家試験に対してマイナスの記述は、国家試験対策委員と共有し、次年度の国家試験対策の年間計画の作成の参考とした。
2. アンケート結果の課程会議での報告と検討

① アンケート内容に関して

通信制課程では、その教育体制の限界から国家試験対策での学生の要望にどこまでこたえられるかという問題がある。アンケート用紙の質問項目または問い方を工夫改善することで要望の詳細を把握し、検討できる要素を具体的に知る必要があるのではないかという意見が出された。学習支援の一部として国家試験対策に関して質問し、その中にこれまでに実施している国試対策（模擬試験、DVD、など詳細に示す）、学習相談、卒業生を囲む会、その他として意見を聞き、現在の支援内容をどう改善すべきかの参考にしたい。

また国家試験に直結する対策ととらえるだけでなく、在学中の学習計画をどの様に立てればいいのかを示して学生がスムーズに学習を勧められるような学修支援を考えることも必要である。

② 卒業生の動向を知りたいという要望に関して

リカレントに来ている卒業生の卒業の様子などを広報誌に記載するなどの意見も出た。今後、多岐にわたり方法を検討していくということで共通認識をした。

今回のアンケート結果に関しての協議を継続して、教育改善に努めていきたいと考えている。

資料4

神戸常盤大学 短期大学部 看護学科通信制課程 卒業生へのアンケート

あなたの在学中を振り返って、以下の質問にお答えください。

A：あなた自身についてお尋ねします。

- 1) 性別
1. 女性 2. 男性
- 2) 年齢
1. 30歳未満 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳以上
- 3) 現在の就業の状況
1. 働いている 2. 働いていない

「働いている」と答えた方にお尋ねします。

- 1) 勤務場所について
 - ① 病院
 - ② 診療所または開業医
 - ③ 老人保健施設または特別老人ホーム
 - ④ その他
()
- 2) 卒業後の職場について
 - ① 勤務先が変わった
 - ② 部署が変わった
 - ③ 役職に変化があった
 - ④ 看護職以外に転職した
 - ⑤ 変わっていない

※BおよびCの設問には以下の5段階からもっとも近いと思う番号を一つ選び○印をつけてください。

- | | | | |
|---|---|------------|---------------------|
| 5 | ： | 非常に当てはまる | または非常に満足 |
| 4 | ： | 当てはまる | または満足 |
| 3 | ： | 普通 | どちらともいえない。あるいはわからない |
| 2 | ： | あまり当てはまらない | またはあまり満足していない |
| 1 | ： | 全く当てはまらない | または不満足 |

B：それぞれのディプロマポリシーの視点から、ご自身についてお答えください。

- 1) 対象を全人的にとらえることができるようになった
回答 5 4 3 2 1
- 2) 専門職業人としての倫理観を持って行動するようになった。
回答 5 4 3 2 1
- 3) 根拠、エビデンスを考えながら看護の実践が行えるようになった。
回答 5 4 3 2 1
- 4) 看護実践を評価するようになった。
回答 5 4 3 2 1
- 5) 保健医療福祉チームの中で看護専門職の役割を意識するようになった。
回答 5 4 3 2 1
- 6) 向上心を持ち看護の専門性を深めたいと思うようになった。
回答 5 4 3 2 1
- 7) 今後キャリアアップを目指し、進学または専門分野に進みたいと思うようになった。
回答 5 4 3 2 1

【自由記載】

C：大学の支援に対してお答えください。

- 1) あなたにとって神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程での国家試験に対する支援はいかがでしたか。
回答 5 4 3 2 1
- 2) あなたにとって神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程での学修環境、設備は
いかがでしたか。 (教室、図書館、ハローホール、地方会場など)
回答 5 4 3 2 1
- 3) あなたにとって神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程での教職員との関わり
はいかがでしたか。 (対面授業、レポート添削、学修相談を含む)
回答 5 4 3 2 1

【自由記載】

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

第5部 短期大学の第三者評価結果について

はじめに

神戸常盤大学では、平成25年度に短期大学基準協会による第三者評価を受審いたしました。

前回受審した平成18年当時は全ての学科が短期大学であったため、衛生技術科（現保健科学部・医療検査学科）、看護科（現保健科学部・看護学科）、幼児教育科（現教育学部・こども教育学科）、・・・の全学科が受審しましたが、今回は短期大学部として2学科、口腔保健学科と看護学科通信教育課程が対象となりました。両学科とも、前回受審時にはまだ発足しておらず、今回が初めての受審となりました。

平成26年度には大学に移行した3学科（医療検査学科、看護学科、こども教育学科）が高等教育評価機構による認証評価を受けることになっています。公的第三者による大学の認証評価は、全国共通の認証基準に基づいて大学の状況を点検・評価することができ、自己点検・評価活動にとって大きな意義を持つものです。平成26年度の大学認証評価に活用すべく、短期大学の第三者評価受審の概要を野村慶雄AL0（口腔保健学科長）に記載していただきます。

なお、本学のホームページ(<http://data.kobe-tokiwa.ac.jp/info2012/20140429.html>)に第三者評価結果が掲載されております。

短期大学基準協会による「機関別評価結果」の全文、および本学作成の「神戸常盤大学短期大学部 自己点検・評価報告書」の全文が掲載されておりますので、ぜひご一覽下さい。

平成 25 年度第三者評価（認証評価機関：短期大学基準協会）について

平成 18 年に神戸常盤短期大学は財団法人短期大学基準協会（認証評価機関）の第三者評価を受審したのに続き、平成 25 年に「神戸常盤大学短期大学部自己点検・評価報告書」を作成し、第二回目の一般財団法人短期大学基準協会による第三者評価を神戸常盤大学短期大学（口腔保健学科、幼児教育学科、看護学科通信制課程）として受審した。

平成 23 年 8 月に「平成 24 年度第三者評価 ALO 対象説明会」出席後、学内に自己点検・評価委員会メンバーに短期大学部の関連学科・課程の教員を加え、短期大学部部認証評価準備委員会を発足した。月 1 回委員会を開催し、第三者評価に向けての方針並びに自己点検・評価報告書作成に向けての学科教員並びに事務部職員で準備態勢を構築した。なお、認証評価準備委員会では、前回の第三者評価で「向上・充実のための課題」として、指摘のあった事項に関して、その後の対策とその成果を中心に記述を検討した。

平成 24 年 6 月に、ALO（野村口腔保健学科長）を中心に、全学的な受審準備体制である「代表者連絡会」を発足し、月 1 回代表者連絡会を開催し、自己点検・評価報告書作成を全学的に進めた。基準 I～IV の各テーマおよび区分毎に記述担当者を決定し記述作業を進めた。今回の第三者評価のための自己点検・評価報告書の記述では、学習成果と「三つの方針」の査定に PDCA サイクルが十分に稼働しているか検証することを基本に、「観点」を踏まえた「区分」の自己点検・評価から「テーマ」そして「基準」の自己点検・評価の順に従って記述した。記述部分に関しては代表者連絡会の委員に配布するとともに記述内容の検討を行った。最終的な記述の完成を待って、提出資料並びに備付け資料のナンバリングを行い、平成 25 年度自己点検・評価報告書を完成し、平成 25 年 6 月に一般財団法人短期大学基準協会並びに評価員へ資料一式を送付した。

平成 25 年 9 月 25 日（水）・26 日（木）の両日、評価チーム（責任者：松元健治、評価員：吉井敦子、浅見多紀子、山田斉）の訪問調査を受けた。

一般財団法人短期大学基準協会より、「神戸常盤大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 26 年 3 月 13 日付で適格と認める」との機関別評価結果を得た。

機関別評価結果では、「三つの意見」として、（1）特に優れた試みと評価できる事項、（2）向上・充実のための課題、（3）早急に改善を要すると判断される事項の評価結果の報告を受けたが、（3）早急に改善を要すると判断される事項に関しては該当なしとの評価を得た。

「向上・充実のための課題」として何点かの指摘を得た事項に関しては、学内の自己点検・評価委員会を中心に対策を検討することを計画している。

第三者評価結果を踏まえ、大学のウェブサイトには第三者評価結果、機関別評価結果、

神戸常盤大学短期大学部自己点検・評価報告書掲載を計画した（平成 26 年 5 月現在掲載済み）。詳細は大学ウェブサイトを参照されたい。

今回第三者評価で「適格」の評価を得ることができたが、最終的な自己点検・評価報告書作成に多大な労力を要した。次回の自己点検・評価報告書作成に当たっては、紙ベースでの記述内容の点検や修正ではなく、ウェブサイトで文書ファイルが保存できるような Windows サービス（例えば SkyDrive）の活用など、効率的な自己点検・評価報告書作成法を検討する必要がある。

資料5

短期大学基準協会による「機関別評価結果」（結果および総評を抜粋）

機関別評価結果

神戸常盤大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成26年3月13日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成24年6月15日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学の建学の精神、「学問と実践、研究と技術を直結することによって、すぐれた職業人、生活にすぐれた能力をもつ有為の人材を養成し、社会的、地域的要請に応えんとするものである」は、学内外に表明され確立している。各学科は、建学の精神に基づき教育理念・目標を設定している。

学習成果を教育理念・目標を受けて明確にし、それを基に教育課程編成・実施の方針を示し、その教育課程による成果を学位授与の方針として明示し、さらにカリキュラム構造物で具体的に示している。学習成果を測定する仕組みは担当教員により設定されており、測定されたデータは、教務課で単位修得状況として管理し、卒業認定に活用されている。

自己点検・評価委員会規程及び自己点検・評価実施細則に基づき自己点検・評価が実施され、その結果は「年次報告書」として公表しているが、今年度第三者評価において提出された自己点検・評価報告書に不備がみられたので、今後より一層自己点検・評価に組織的に取り組むことが望まれる。学生による授業評価に加えて、卒業生と就職先に対し、学習成果に関するアンケートを実施して、授業改善に活用している。

学位授与の方針は、歯科衛生士、看護師の国家資格の取得に直結することから、社会的な通用性が認められる。教育課程編成・実施の方針は、学位授与の方針にある人材育成のために体系的に編成されており、FD活動及びカリキュラム検証委員会、教授会、学科会議等において見直しがされている。入学者受け入れの方針は、学習成果に対応して明確に定められ、多彩な入学者選抜方法により人材確保に努めている。

学生の生活支援から進路支援までを統括する「キャリア支援課」が設置され、各学科の教員とキャリア支援課職員とで構成される「学生委員会」及び「就職委員会」によって、それぞれの学生支援が円滑に行われている。

教員組織は、短期大学設置基準に定める教員数、教授数が充足しており、教育課程編成・実施の方針に基づき、教員の専門性を生かして配置されている。各教員は学科の教育活動に関連する学会、紀要及び学術雑誌等において研究成果を発表し、科学研究費補助金、外部研究費等にも継続して申請し採択もされている。事務組織は組織規程、事務局

事務分掌規程及び就業規則に基づいて、学長室、庶務課等で編成され、事務局長が統括し、責任体制を明確にしている。

校地・校舎の面積は短期大学設置基準の規定を充足し、運動場、体育館を備えている。講義室、実験実習室等のほか歯科診療所を備え、視聴覚・音響機器、歯科診療台等を設置している。情報資源はCPU室設置のネットワーク機器で一括管理し、学内LANは主要な講義室等に配線され、ネットワーク利用が可能である。

平成22年度から平成24年度までの3年間、帰属収支は収入超過であり、予算と決算との差異について要因を把握し、適切に管理している。

理事会は、私立学校法及び寄附行為に基づき、理事長が招集し議長を務め、学園運営全般の重要事項について決議している。理事長は、運営委員会、中・長期計画策定、大学の改組転換等、法人及び教学運営全般においてリーダーシップを発揮している。

学長は、優れた学識を有し全学的カリキュラム改革のリーダーである。学長のリーダーシップの下、教授会、運営委員会、学科会議、各種委員会において教学運営に関する事項が協議され、議決されている。

監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っている。評議員会は理事長の諮問機関として適切に運営されている。

中期財務計画に沿って、毎年理事会で予算編成の基本方針を示し、関係部門の意向を集約した事業計画及び予算を決定し、決定事項の周知と執行を行っている。財務情報及び教育情報については、ウェブサイト、広報誌で情報公開している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマC 自己点検・評価]

○ 自己点検・評価委員会による「年次報告書に基づく評価報告」の指摘事項に対し、各組織は、改善に向けた活動方針を策定し活動成果を年間活動報告書に記述するなど、PDCAサイクルが機能している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマA 教育課程] ○ 学科の教育課程が体系的に編成され、カリキュラム構造図によって、学習成果があがるように分かりやすく示されている。

○ 学習成果の査定として、学生による授業評価で学習成果の獲得状況を自己評価している。また、卒業生及び就職先へのアンケートを実施し、学習成果の獲得状況を卒業後も調査することで、指導内容の見直しや教育課程の検討につながられている。

[テーマB 学生支援]

○ 学生情報は、教務システムの「キャンパスプラン」を活用して管理し、担任がポータルシステムで、学生の学習到達状況の全体像を把握して、きめ細かな学習支援を行っている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマA 人的資源]

○ FDマップ(国立教育政策研究所)を活用してFD活動を点検し、全学的FD活動として、授業評価、公開授業、FD研修会、学内研究発表会(神戸常盤学術フォーラム)等を組織的かつ計画的に実施している。

[テーマB 物的資源]

○ 口腔保健学科の歯科臨床実習室、マネキン実習室、歯科診療台等の施設・備品が良く整備され、また、学内に歯科診療所を設置して実践的な教育支援を行っている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマB 教育の効果]

○ 学位授与の方針と学習成果を峻別し、すでに策定しているカリキュラム構造図等を含めて、学習成果の概念をより体系的に設定することが求められる。

[テーマC 自己点検・評価]

○ 今年度第三者評価において提出された自己点検・評価報告書に不備がみられたので、今後より一層自己点検・評価に組織的に取り組むことが望まれる。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマA 教育課程]

○ 入学者受け入れの方針では、求める学生像だけでなく、入学前に学んでおくべき内容等についても具体的に明示することが求められる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

謝 辞

おかげさまで平成 25 年度の年次報告書を刊行することができました。皆様方のご協力に心より感謝申し上げます。

「年次報告書」の刊行は今回で 8 年目となりました。年次報告書は本学の自主的な自己点検・評価活動の中心となっております。平成 24 年度年次報告書から様式を変更し、PDCA サイクルがより有効に機能することをめざしています。

平成 25 年度には短期大学部が短期大学基準協会による第三者評価を受審し、「適格」との判定を得ることができました。平成 26 年度には大学が、日本高等教育評価機構による認証評価を受審いたします。公的第三者機関による認証評価と、年次報告書による本学の自主的な自己点検・評価活動が、本学のさらなる向上発展に寄与してくれることを心より願っております。

平成 26 年 6 月

自己点検・評価委員会 委員長 井本しおん
同 副委員長 松元英理子
同 副委員長 金川治美
短期大学部 ALO 野村慶雄
大学 ALO 森松伸一
同 委員 足立了平
井上清美
柳原利佳子
中村忠司
坂本啓
平澤仁
小谷伸一
猿渡康博
堀田佳子
平川愛恵
内海英樹
西健治